

飯能市郷土館館報

# 郷土館のプロフィール

*Profile 2015*

実績報告書

第13号

平成27年度



飯能市郷土館

## あいさつ

館報「郷土館のプロフィール」第13号をお届けいたします。本号は、平成27年度事業の実績報告書というべきものになります。

今さらいうまでもないことですが、対象としている分野でいうと当館は歴史博物館です。「歴史」を今の社会にどのように活かしていくのかが近年特に問われています。その最前線ともいうべきものが博物館の現場です。特に公立の博物館では、公費を投入して運営されているため常にその存在意義を訴えていかなければなりません。

当館の館報は、活動の総体を事業評価を盛り込みながら、市民のみなさまに知っていただくことを目的としてこれまで発行してきました。しかし、第1号の発行から20年がたち、当初の問題意識が薄れ、活動報告書としての目新しさが失われてきたように感じました。ここで、時間をかけてこのような刊行物を発行する意義をいま一度見つめ直す必要に迫られたのです。

検討にあたっては、博物館評価制度導入の前後から出てきた「年報」、「館報」をめぐる議論、そして現在策定中のミッションの方向性なども視野にいれました。そして、従来のように当館の仕事ぶりを知ってもらっただけでなく、当館の外に向けてその存在価値を納得してもらえようなものを目指すことといたしました。

例えば、事業評価については、担当者の自己評価に加え、アンケートから得られた利用者の意見を掲載いたしました。加えて当館運営のパートナーともいえる市民学芸員の声を載せました。こうした感想、意見こそが当館の存在意義を直接に示すものであるからです。また、運営状況についての詳細な数値データも単に提示するだけではなく、そこからいえる実績をより明瞭に表現しました。さらにミッションが未策定の状況で、博物館評価としては十分とはいえませんが、ステークホルダーの1つである設置者(教育委員会)による評価(教育行政の重点施策の評価)を掲載いたしました。

本号において新たな編集方針を反映できた部分はまだほんの一部ですが、ふだん来館する機会のない市民のみなさまにも本市に博物館が存在するメリットを知ってもらえるように、そしてまた、ここに掲載したデータが博物館学の発展に少しでも役に立つよう、今後も努力していきたいと思っております。

今後ともみなさまの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

飯能市郷土館  
館長 柳戸信吾

# 目 次

---

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

---

## 第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示・名栗くらしの展示室	8

---

## 第2章 事業

平成27年度の事業	10
平成27年度教育行政の重点施策とその評価	11
展示	
（収蔵品展・特別展）	13
（その他の展示）	25
講座・学習会	27
交流	31
博学連携	39
資料・施設の利用	44
レファレンスの対応	49
講師派遣	50
収集	51
整理・保存	53
調査・研究	56
刊行物	57
情報発信	58
事業支援	60
郷土館協議会	61
博物館実習	64

---

## 第3章 各種データ

利用者数	66
歳出予算・決算	67
図書資料寄贈機関	68
飯能市郷土館条例・施行規則	70

職員	73
利用案内	74

---

表紙:「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

## 沿 革

- 昭和46年3月 「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
- 昭和61年3月 (株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
- 昭和61年6月 飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
- 昭和62年3月 飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
- 昭和62年7月 (株)平安設計による建築設計を開始する。
- 昭和62年10月 (株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
- 昭和63年3月 市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
- 平成元年4月 社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
- 平成元年6月 (株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
- 平成元年12月 飯能市郷土館条例が制定される。
- 平成2年4月 飯能市郷土館友の会が結成される。
- 平成2年4月 飯能市郷土館が開館する。(常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)**
- 平成2年4月 開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物 ー思い出に残る品々ー」開催。
- 平成2年8月 特別展「戦時中の暮らし」開催。(以後10月・2月にも特別展を開催し、1年で特別展を4回開催)
- 平成2年8月 夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
- 平成2年11月 古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動を続ける。
- 平成3年4月 特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回の特別展開催となる)
- 平成3年7月 友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
- 平成4年8月 埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ! 古代からのメッセージ I」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
- 平成4年10月 特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
- 平成5年1月 友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施(それ以後は館主催事業)
- 平成5年6月 開館以来の入館者数が10万人を突破。
- 平成6年3月 『飯能の昭和史年表』発行。
- 平成6年4月 開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
- 平成6年10月 特別展「ジャパン・マイセン ー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
- 平成7年7月 常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
- 平成8年5月 開館以来の入館者数が20万人を突破。
- 平成8年8月 常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
- 平成8年10月 特別展「飯能の刀匠 ー小沢正壽を中心としてー」開催。会期中に展示図録が完売する。
- 平成9年3月 『飯能市郷土館館報』第1号発行。
- 平成10年9月 「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)
- 平成10年11月 市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。

平成10年12月 開館以来の入館者数が30万人を突破。

平成11年3月 収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展、秋に特別展という枠組になる)

平成12年1月 第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。

**平成12年3月 博物館法に基づく登録博物館となる。**

平成13年2月 第Ⅱ期市民学芸員養成講座を実施。

平成13年3月 『研究紀要』第1号発行。

平成13年5月 「郷土館だより」創刊号発行。

平成13年9月 これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。

平成13年10月 特別展「黎明のとき 一飯能焼・原窯からの発信」開催。この特別展より夜間開館を実施する。

平成14年10月 当館ホームページをインターネット上で公開し始める。

平成15年3月 『収藏品目録1 写真資料目録その1』発行。

平成15年7月 市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。

平成15年8月 開館以来の入館者数が40万人を突破。

平成16年2月 第Ⅲ期市民学芸員養成講座実施。

平成16年10月 入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 一その流域の今昔」開催。

平成17年1月 名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。

**平成19年3月 当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。**

平成19年4月 開館以来の入館者が50万人を突破する。

平成19年4月 第Ⅳ期市民学芸員養成講座実施。

平成19年6月 市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回開催)

平成22年3月 『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。

平成22年5月 第Ⅴ期・Ⅵ期市民学芸員養成講座実施。

平成22年10月 飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史 ー30年の発掘調査成果からー」開催。

平成22年11月 開館以来の入館者数が60万人を突破する。

平成23年4月 飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)

平成23年10月 特別展飯能戦争「飯能炎上ー明治維新・激動の6日間ー」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物の増刷は初めて)

平成24年4月 当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。

平成24年6月 史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)

平成25年10月 収藏品のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)

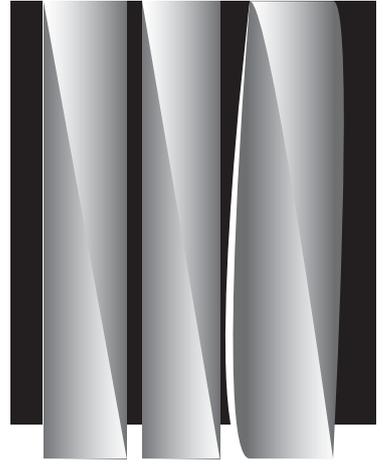
平成26年5月 開館以来の入館者数が70万人を突破する。

平成26年5月 第Ⅶ期・Ⅷ期市民学芸員養成講座実施。

平成26年6月 名栗くらしの展示室を開設する。

平成26年10月 業者に委託していた歴史公文書の保管を、旧図書館地下書庫での保存に変更する。

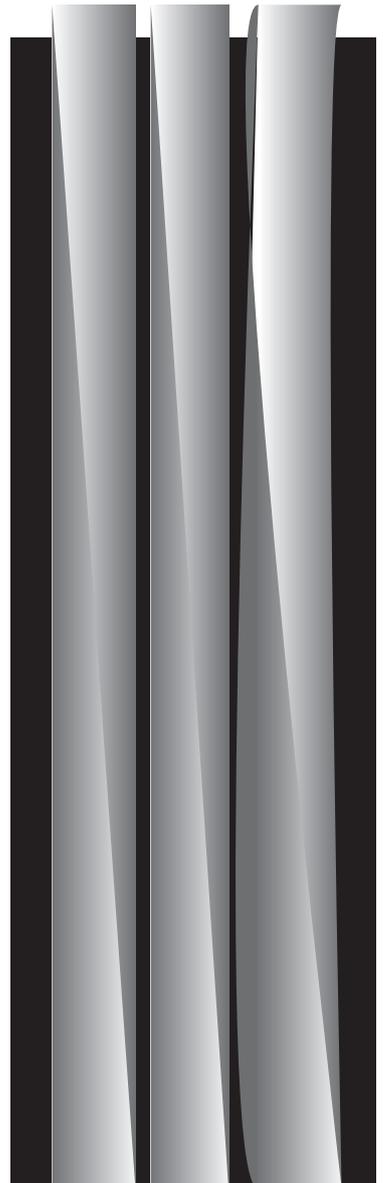
平成27年5月 収藏品展「おふだ大集合!」と歴史講座を抱き合わせで開催する。



# 第 1 章

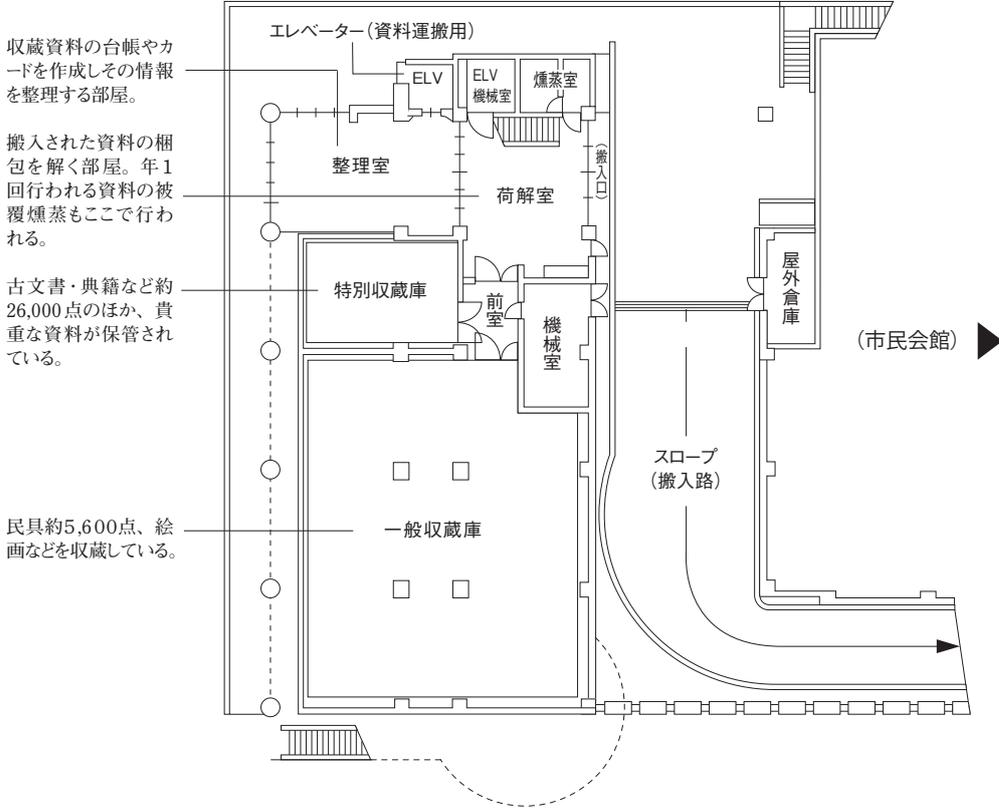
..... Chapter 1 .....

## 【 施 設 】



# 建物平面図

## 〈1階〉

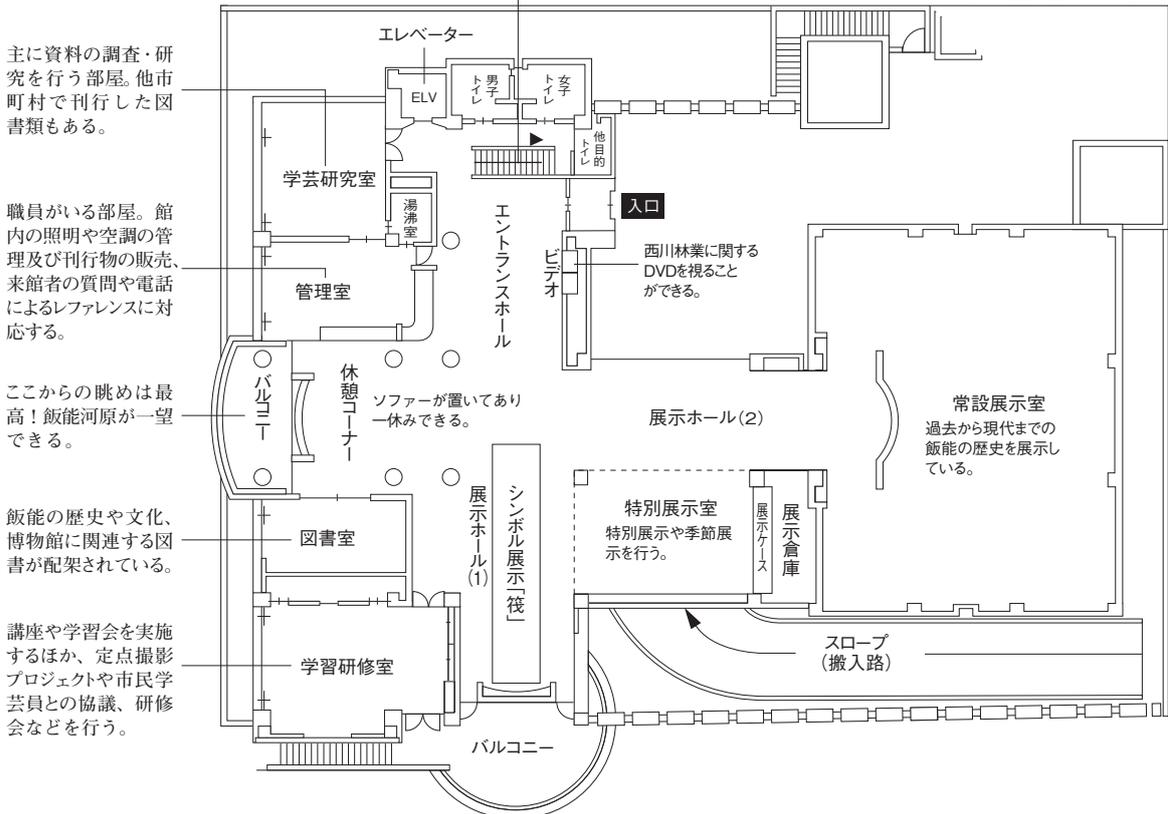


飯能河原

## ※(R階)

階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

## 〈2階〉



飯能河原

市民会館

## 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：m<sup>2</sup>)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	<b>497.458</b>	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
<b>2 階</b>	<b>959.774</b>	<b>R階</b>	<b>40.040</b>
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール (1)	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		<b>合計</b>	<b>1,497.272</b>

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (m <sup>2</sup> )	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.12 m<sup>2</sup>    建築面積 1,165.999 m<sup>2</sup>

## 施設等修繕

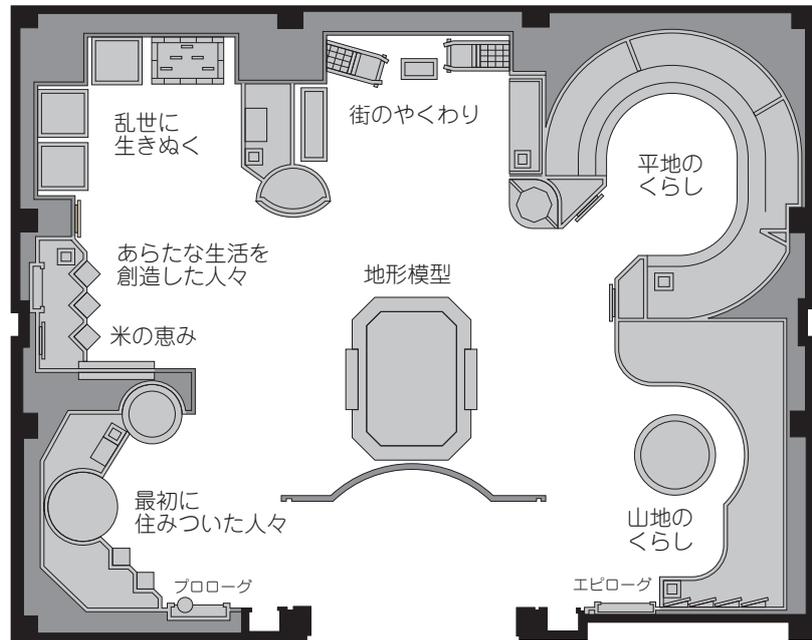
- ・展示室照明用分電盤修繕 (6月)
- ・自動火災報知設備修繕 (7月)
- ・学習研修室移動テーブル修繕 (10月)
- ・雨水槽電極不具合修繕 (11月)
- ・一般収蔵庫大扉修繕 (12月)
- ・休憩コーナー照明器具修繕 (2月)
- ・空調機加湿補給水管漏水補修修繕 (2月)
- ・学習研修室ブラインド修繕 (3月)

## 常設展示・名栗くらしの展示室

### ● 常設展示室

常設展示には、展示ホール(1)に位置するシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

常設展示室は、地形模型を中心に9つのテーマから構成される通史展示である。既に開館から25年が経過し、コルトン(内側から蛍光灯で照らしたパネル)や縄文人の皮膚の剥落、地形模型の表面のひび割れなどの劣化が目につくようになってきた。当年度常設展示資料の変更は行わなかったが、平成28年度からの10年間を対象年度とする第5次総合振興計画の実施計画の査定が当年9月にあり、常設展示室の改装が採択された。



当館常設展示室平面図

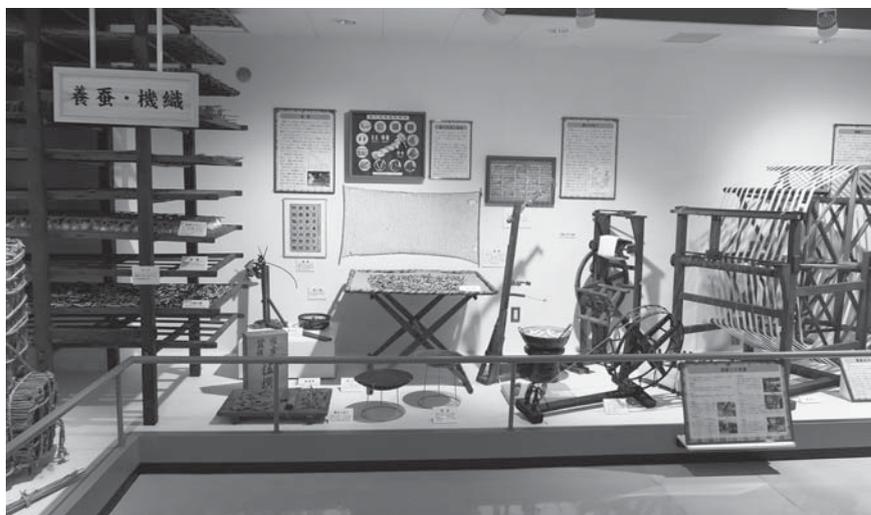
### ● 名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は、飯能市と名栗村の合併10周年記念事業として設置された。名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としたものであるが、名栗地域の歴史が反映されていない当館の常設展示室を補完する機能も有している。

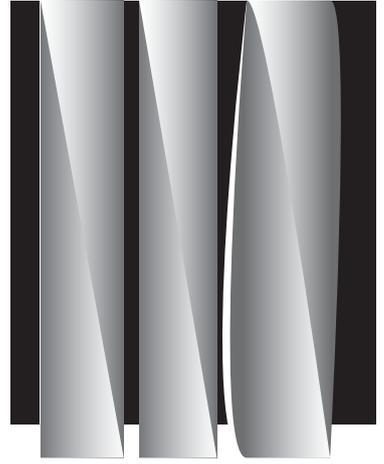
今年度は、名栗公民館と共催で体験講座「はたおり」を下記のとおり実施した。

#### ○平成27年度名栗くらしの展示室体験講座

回	月日	曜日	時間	名称	内容	参加人数
1	6/24	水	10:00~11:45	はたおり	展示室内の高機を実際に使った機織り体験	15



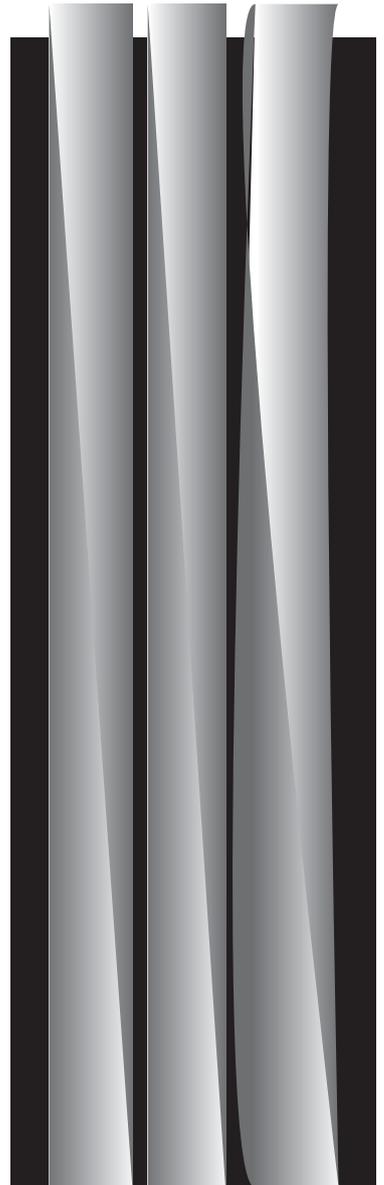
名栗くらしの展示室



## 第 2 章

…… Chapter 2 ……

# 【 事 業 】

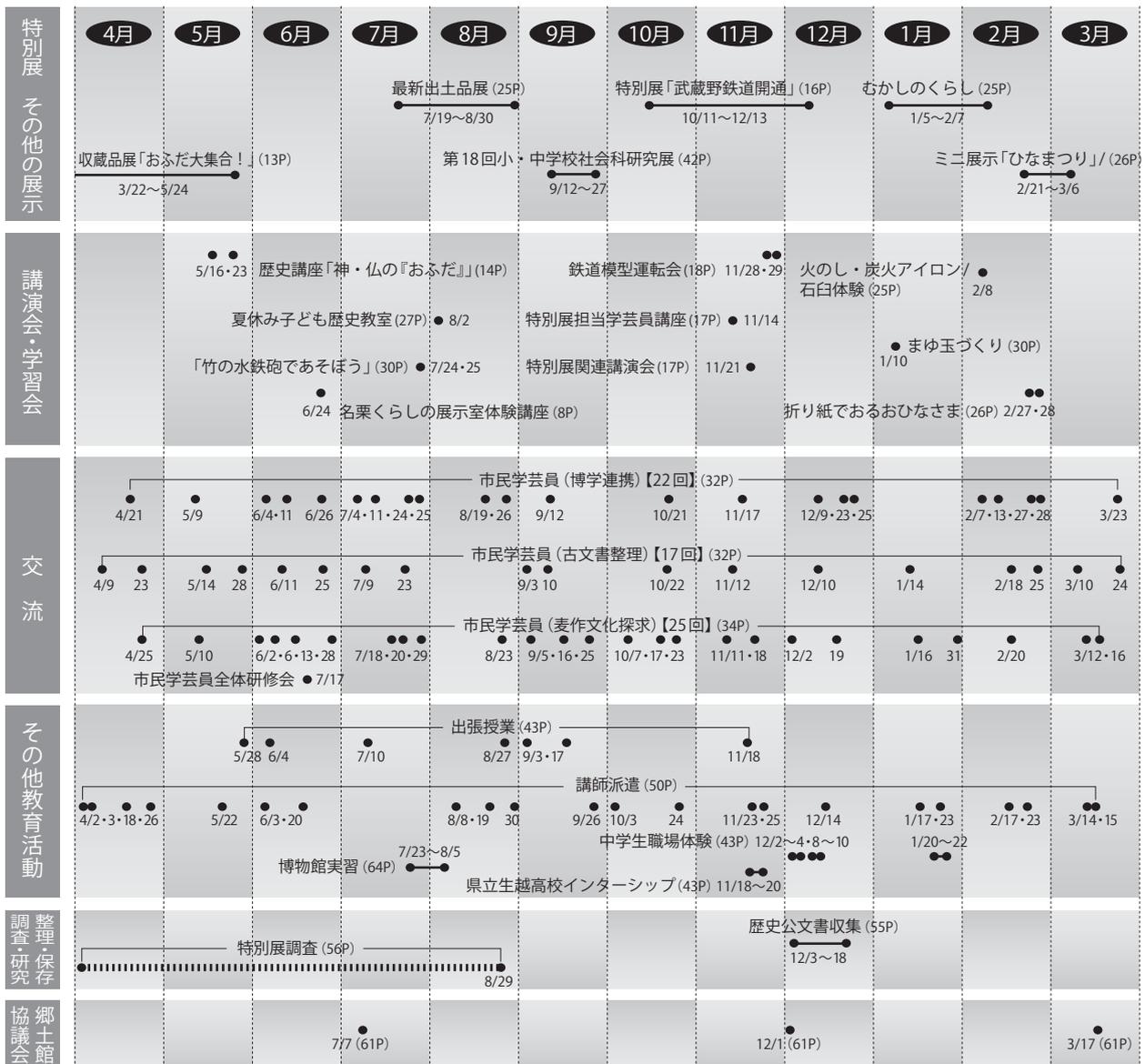


# 平成27年度の事業

平成27(2015)年度は、4月の飯能駅開業100周年記念事業を皮切りに、12月の特別展「武蔵野鉄道開通」終了まで、西武池袋線開通100周年に関わる事業をほぼ通年にわたって実施した。その実施のため、西武鉄道株式会社をはじめ、市役所内の観光・エコツーリズム推進課、産業振興課など関係各課との協議、調整を伴う機会がこれまで以上に増えた。その点では、当館の活動がまちづくりに関わっていることをアピールすることができた年といえる。

また収蔵品展「おふだ大集合!」では、歴史講座の枠組みを使って収蔵品展では初となる関連講座を実施したが、このことは当館主催の展示会としての、新たな収蔵品展のあり方を提示することとなった。

交流事業に関しては、平成26年度の市民学芸員養成講座を経て、Ⅷ期「麦作文化探求型」の活動が開始された。当館の西側敷地に設けられた畑での活動は、市民学芸員の姿をより多くの市民に知ってもらうよい機会となった。

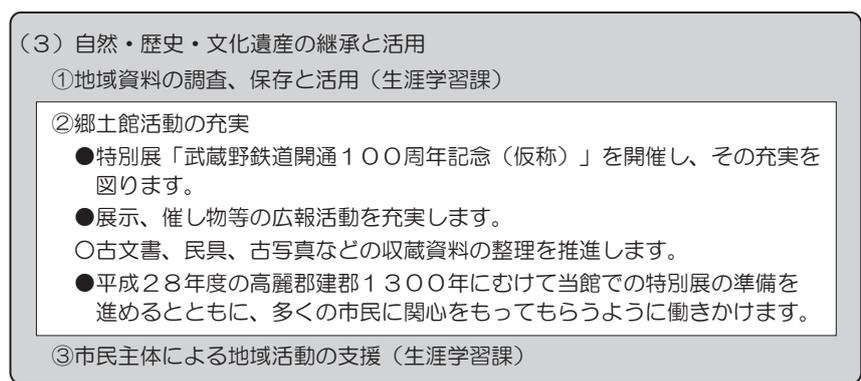
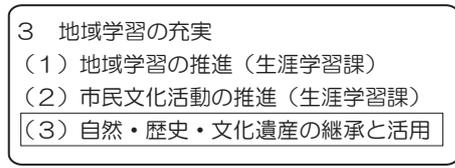
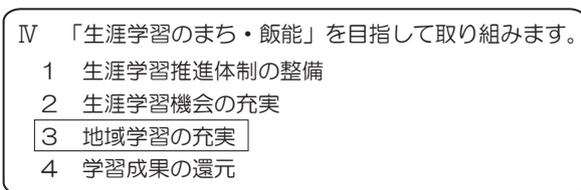
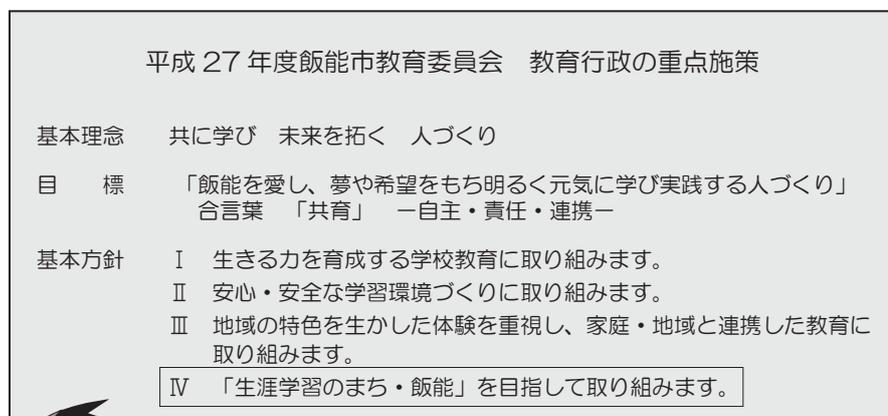


## 平成27年度教育行政の重要施策とその評価

飯能市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年度教育行政の基本方針として「飯能市教育行政の重点施策」を定めている。また平成20年4月からは、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、市民へ公表しなければならないことになった。

本市では、この重点施策に関し、各所管で重点的に取り組んだ事業について、点検及び評価を実施し報告書にまとめている。その手順としては、年度当初に教育長、教育部長と所属長が面談のうえ、具体的な目標、課題・達成方法(何をどのようにするのか)、達成指標(どこまでするのか)、達成報告(結果はどうか)を設定し、年度末に再び面談を実施して、評価を行っている。評価の基準は下表のとおりである。

当年度における教育行政の重点施策における当館の位置づけとその評価結果については、以下に報告する。



●=新規 ○=継続

### ○評価の指標

評価点	達成割合	説 明
S	120%以上	期待を顕著に上回る
A	105～120%未満	期待を上回る
B	90～105%未満	期待どおり(標準)
C	75～90%未満	期待をやや下回る
D	75%未満	期待を下回る

平成27年度 教育行政の重点施策の評価シート

No.	重点施策名	目標	目指す達成点・到達点 (「何を」どのように「どこまで」 やるか)	達成指標と目標値 (達成状況を示す指標)	達成報告 (結果とその成果)	達成率	評価	今後の課題と 指示事項
1	教育振興基本 計画に基づく 施策の体系	歴史を認識したまちづく りをめざし、より多くの 市民に鉄道が引けた意義 と今後のまちづくりのあ り方を考え、その充実 をを図る。	本市に対し武蔵野鉄道(西 武鉄道)がこれまで果たして きた役割を再認識すること と、鉄道とともに歩む町の将 来像を展望した内容の特別展 とする。 ・西武鉄道館をはじめ、市内 鉄道愛好家グループなど、多 くの市民、地元商店街などを 巻き込んだイベントを同時に 実施していく。	・特別展の1日平均入館者数 105人以上であること。 ・入館者のアンケートによる 満足度75%以上であること。 ・特別展開催までに関連する イベントを数回企画する。	・特別展の1日平均入館者数160.9人、満 足度89.4%と、目標を大きく上回った。 ・飯能駅や西武鉄道(株)などと連携して 飯能駅構内で記念セレモニーや写真展等 の関連事業を5回開催した。この功績で 西武鉄道(株)より感謝状をいただいた。 ・入館者数はこの数年の特別展では最 高であり、展示図録も期間中に売り切れ るほど好評だった。多くの方に鉄道開設 までの努力や鉄道開通に伴う飯能のまち の発展のあり方を知っていただけた。	120%	S	・今後とも、地 域の歴史の特性 や魅力を積極的に 発信できるよう な内容の特別展 開催に努める。
	事業名	地域学習の充実 (3) 自然・歴史・文化 遺産の継承と活用	地域の特徴や魅力を多く の人に知ってもらうこと を目的に、効果的な情報 発信をすすめるため、当 館の展示、催し物等の広 報活動を見直し、その充 実を図る。	・1年間通じて検討、実施した 市内商店街にポスターを配布した市 の承認を得て掲載しているかどうか の確認を行い効果測定した。また、同時 に、今後掲示していただける可能性があ る商店を抽出した。 ・その結果を踏まえ、3月に収蔵品展のポ スターを配布して効果測定を行い、より 有効なポスター配布基準を作成した。	・10月までに特別展のポスターを配布した市 内商店街に対して掲示しているかどうか の確認を行い効果測定した。また、同時 に、今後掲示していただける可能性があ る商店を抽出した。 ・その結果を踏まえ、3月に収蔵品展のポ スターを配布して効果測定を行い、より 有効なポスター配布基準を作成した。	100%	A	・引き続き収蔵 資料の整理をす すめ、地域の情報 を引き出すよう に努める。
2	教育振興基本 計画に基づく 施策の体系	地域の魅力や特性を究明 することを目的とし、収 蔵資料の価値を高め、地 域の情報を引き出し、そ れを多くの人か利用でき るようにするため、収蔵 資料の整理を推進する。	・今年度の収蔵品展、特別展、 夏休み子ども歴史教室などの広 報活動(ポスター、チラシ、ホー ムページなど)を精査し、効 果・問題点を把握する。 ・新たなメディアの開拓も含 めて実践する。 ・その結果の効果測定を行い、 課題の抽出、改善策の検討を 行う。	・収蔵資料の整理をすすめる、 民具50点以上、古文書300点以 上、古写真50点以上のカード を作成し台帳に登録する。 ・考古資料の整理方法を定 め、カード・目録の書式を作 成する。 ・原市場地区に所在し当館に 寄贈、寄託されている古文書 を「収蔵資料目録7(古文書目録 その2)」として刊行する。	・収蔵資料の整理をすすめる、民具137点、 古文書2271点、古写真348点のカードをば るかに上回った。 ・原市場地区に所在し当館に寄贈、寄託 されている古文書を整理し「収蔵資料目 録7(古文書目録その2)」として刊行した。 ・考古資料の整理方法について検討した が、カード・目録の書式作成までには至 らなかった。	90%	B	・引き続き収蔵 資料の整理をす すめ、地域の情報 を引き出すよう に努める。
	事業名	資料整理の推進	歴史を認識したまちづく りをめざし、平成28年度 の高麗郡建郡1300年の 意義を知ってもらうた め、当館での特別展の準 備を進めるとともに、多 くの市民に関心をもつて もらうように働きかけ る。	・3月末までに、特別展で展 示可能な資料リストを作成する。 ・飯能市民に対して高麗郡建 郡の意義を伝える講座を開 催する。	・展示可能な資料リストの作成は終了 し、日高市所蔵の資料については写真最 影を終えた。 ・市民に高麗郡建郡の意義を伝える講座 として生涯学習課主催による文化財講座 と文化財めぐりを開催し、このうちの文 化財めぐりの講師を当館学芸員が担当し た。	100%	A	・飯能市にとつ ての高麗郡建郡 の意義を発信し統 一的に、内容の 充実した特別 展になるよう 準備をすすめる。
3	教育振興基本 計画に基づく 施策の体系	歴史を認識したまちづく りをめざし、平成28年度 の高麗郡建郡1300年の 意義を知ってもらうた め、当館での特別展の準 備を進めるとともに、多 くの市民に関心をもつて もらうように働きかけ る。	・古文書、民具、古写真の整 理をすすめる、資料カード作成 と台帳登録を行う。 ・未着手であった考古資料の 整理方法を検討する。 ・原市場地区の古文書目録を 刊行する。	・3月末までに、特別展で展 示可能な資料リストを作成する。 ・飯能市民に対して高麗郡建 郡の意義を伝える講座を開 催する。	・展示可能な資料リストの作成は終了 し、日高市所蔵の資料については写真最 影を終えた。 ・市民に高麗郡建郡の意義を伝える講座 として生涯学習課主催による文化財講座 と文化財めぐりを開催し、このうちの文 化財めぐりの講師を当館学芸員が担当し た。	100%	A	・飯能市にとつ ての高麗郡建郡 の意義を発信し統 一的に、内容の 充実した特別 展になるよう 準備をすすめる。
	事業名	資料整理の推進	歴史を認識したまちづく りをめざし、平成28年度 の高麗郡建郡1300年の 意義を知ってもらうた め、当館での特別展の準 備を進めるとともに、多 くの市民に関心をもつて もらうように働きかけ る。	・3月末までに、特別展で展 示可能な資料リストを作成する。 ・飯能市民に対して高麗郡建 郡の意義を伝える講座を開 催する。	・展示可能な資料リストの作成は終了 し、日高市所蔵の資料については写真最 影を終えた。 ・市民に高麗郡建郡の意義を伝える講座 として生涯学習課主催による文化財講座 と文化財めぐりを開催し、このうちの文 化財めぐりの講師を当館学芸員が担当し た。	100%	A	・飯能市にとつ ての高麗郡建郡 の意義を発信し統 一的に、内容の 充実した特別 展になるよう 準備をすすめる。
4	教育振興基本 計画に基づく 施策の体系	歴史を認識したまちづく りをめざし、平成28年度 の高麗郡建郡1300年の 意義を知ってもらうた め、当館での特別展の準 備を進めるとともに、多 くの市民に関心をもつて もらうように働きかけ る。	・今年度の収蔵品展、特別展、 夏休み子ども歴史教室などの広 報活動(ポスター、チラシ、ホー ムページなど)を精査し、効 果・問題点を把握する。 ・新たなメディアの開拓も含 めて実践する。 ・その結果の効果測定を行い、 課題の抽出、改善策の検討を 行う。	・3月末までに、特別展で展 示可能な資料リストを作成する。 ・飯能市民に対して高麗郡建 郡の意義を伝える講座を開 催する。	・展示可能な資料リストの作成は終了 し、日高市所蔵の資料については写真最 影を終えた。 ・市民に高麗郡建郡の意義を伝える講座 として生涯学習課主催による文化財講座 と文化財めぐりを開催し、このうちの文 化財めぐりの講師を当館学芸員が担当し た。	100%	A	・飯能市にとつ ての高麗郡建郡 の意義を発信し統 一的に、内容の 充実した特別 展になるよう 準備をすすめる。
	事業名	高麗郡建郡1300年記念 にむけての準備、調整	歴史を認識したまちづく りをめざし、平成28年度 の高麗郡建郡1300年の 意義を知ってもらうた め、当館での特別展の準 備を進めるとともに、多 くの市民に関心をもつて もらうように働きかけ る。	・3月末までに、特別展で展 示可能な資料リストを作成する。 ・飯能市民に対して高麗郡建 郡の意義を伝える講座を開 催する。	・展示可能な資料リストの作成は終了 し、日高市所蔵の資料については写真最 影を終えた。 ・市民に高麗郡建郡の意義を伝える講座 として生涯学習課主催による文化財講座 と文化財めぐりを開催し、このうちの文 化財めぐりの講師を当館学芸員が担当し た。	100%	A	・飯能市にとつ ての高麗郡建郡 の意義を発信し統 一的に、内容の 充実した特別 展になるよう 準備をすすめる。

新規 … 平成27年度に新たに取組んだ施策。取組年数は、第1期教育振興基本計画期間中(平成22年度～平成27年度)に取り組む年数。  
継続 … 平成27年度以前から取組んでいる施策。中期は、第1期教育振興基本計画期間中3年以下、長期は基本計画で4年以上、6年以下。取組年数は、第1期教育振興基本計画(実施年数/取組年数)

収藏品展

## お札大集合！

期 間	平成27年3月22日(日)～5月24日(日)		
開館日数	54日間		
入館者数	5,022人 (1日平均93.0人)		
展示点数	106点		
総 経 費	307,240円 (入館者1人あたり61.2円)		
(内 訳)	印 刷 費 77,760	展示委託料 74,528	通信運搬費 16,400
	消耗品費 14,000	報 償 費 36,000	非常勤報酬 88,560

### 1 趣 旨

当館では毎年、特定のテーマを設定し収藏品展を開催しているが、平成26年度冬期から27年度春期にかけての収藏品展は御札をテーマに開催した。

御札は「護符」「御守」とも呼ばれ(収蔵資料名を「護符」としているため、展示コーナー名を除き以下「護符」と記す)、祀る、貼る、所持するなどにより神仏の加護を受け、病気・天災・盗難・火難など様々な災難を防いだり除いたりすることができると思われている。資料としては民俗資料に分類されるが、民俗学だけではなく宗教学・歴史学(中世史・神道史)など様々な分野での活用がなされている。

当館では平成24年に加藤樹氏より、弘化3(1846)年から昭和48(1973)年にかけて(その前後の年代のものも含まれていると思われる)の護符が寄贈されており、それを機に当館収蔵の護符を整理し『飯能市郷土館収蔵資料目録6(民俗資料目録2)護符・版木など』を刊行した。護符の点数は当収藏品展企画段階で3,696点を数え、活用可能な状態となっていた。

護符は我々日本人が神仏をどのように認識し、いかなる信仰の形を持っていたのかを知る上で手掛かりとなる。身近な存在ながら、地域(ひいては日本人)の信仰史を考えるにあたり、重要な資料であることを紹介するのが当収藏品展開催の目的である。

また、平成26年度に寄贈を受けた資料を紹介する「新収藏品展」を同時開催した。「新収藏品展」は、寄贈者を顕彰するとともに、最新の収蔵資料を広く公開することを目的としている。

寄贈者顕彰という目的を持つため、展示資料は寄贈者一人につき最低1点を選び展示した。

### 2 展示の構成

展示を構成するにあたり、以下の5つの目標を設定し、それらが達成できるような展示を目指した。

- ①加藤樹家護符を中心に、収蔵している護符・版木を展示する。
- ②加藤樹家護符については、明治34(1901)年以前の護符を中心に展示する。
- ③飯能市域及び周辺域の寺社の護符を紹介する。
- ④全国各地の比較的有名な寺社の護符を紹介する。
- ⑤護符からわかることについて、展示を通して明らかにする。

これらを踏まえ、構成は次のとおりとした。

- 1 牛玉宝印
- 2 “オオカミのおふだ”
- 3 日本各地のおふだ
- 4 埼玉のおふだ
- 5 秩父札所
- 6 飯能のおふだ

護符は神仏の姿をあらわした「御影」を優先的



入館状況



収蔵品展ポスター

に選んだ。結果的には収蔵している護符全839種類(当時)の約12%にあたる101種類、名称が把握できた寺社196ヶ所のうち、約47%にあたる92ヶ所の寺社の護符を展示することとなった。

各コーナーの概要を以下に記す。

#### 1 牛玉宝印

牛玉宝印は、中世において起請文などに利用された歴史をもつ、古い形態の護符である。近世以降も配布されており、現在良く見られる護符と雰囲気が大いに異なるため、最初のコーナーにまとめた。富士山・善光寺・大山(大山寺か)・杉本坊(高山不動尊)・榛名山・武蔵御嶽神社などの牛玉宝印を展示した。

#### 2 “オオカミのおふだ”

近年注目を集めファンも多いオオカミの護符をまとめた。富士山・武蔵御嶽神社・猪狩神社・三峰神社・寶登山神社・地守神社(阿夫利神社)・常楽院(高山不動尊)の護符を展示した。

#### 3 日本各地のおふだ

3以降は各地の護符を、日本→埼玉→秩父(飯能に隣接する地域)→飯能と、徐々に身近な範囲に寄せていく形で紹介した。

3では北は宮城県塩竈市の鹽竈神社から南は宮崎県日南市の鶴戸神宮まで、37ヶ所の護符を1点ずつ展示した。

#### 4 埼玉のおふだ

4では埼玉県内10ヶ所の寺社の護符を1点ずつ展示した。このコーナーでは武甲山御嶽神社の白澤図が白澤の護符の新出資料として注目された。

#### 5 秩父札所

このコーナーでは秩父札所の護符を展示した。

34札所のうち収蔵資料に含まれる15ヶ所の寺院の護符(秩父札所第2・6・8・9・10・11・12・14・18・19・27・28・30・31・33番)である。

#### 6 飯能のおふだ

飯能市内の寺社25ヶ所の護符を展示するとともに、加藤樹家護符のうち古い護符がまとめて納められていた御札箱1点を展示した。

### 3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	300枚
ちらし (A4判白黒)	300枚
展示資料一覧 (A4判白黒4ページ)	300部

### 4 関連事業

#### ◎展示解説

日時 3月29日(土) 午後2時～3時

解説 当館学芸員

参加者 8人

#### ◎歴史講座「神・仏の『おふだ』」

##### ①「神・仏の「おふだ」とその歴史」

日時 5月16日(土) 午後2時～4時

講師 千々和到氏(國學院大學教授)

参加者 41人

##### ②「『御札箱』を開けるー「おふだ」調査の記録」

日時 5月23日(土) 午後2時～4時

講師 村上達哉(当館学芸員)

参加者 37人



歴史講座①「神・仏の「おふだ」とその歴史」

## 5 評価

当収藏品展は会期を長く設定したこともあり、「収藏品展」という枠組みにて展示を始めた平成11年度以降最も入館者数が多い展示となった。1日平均の入館者数は93.0人である。

護符という資料に関心を持つ人がどのくらいいるのかについて多少の危惧もあったのだが、結果的にはまずまずの人数であったと捉えられる。

当収藏品展について、展示期間中に実施したアンケート調査の回答を元に評価したい。アンケート回収数は89、会期中入館者数の1.77%である。決して多くはないのだが、一定の傾向を読み取ることが可能である。

まず入館者数の年代だが、最も多いのは60代(22.5%)である。これは当館における従来の傾向と一致しており、60代以上のリタイアした世代が多い。

男女比は6：4(61.8%：37.1%)で男性がやや多かった。

住所で最も多いのは飯能市内(33.7%)で、これも従来の傾向と同じである。次に多いのは埼玉県内(24.7%)、その次が入間地区(14.6%)で埼玉県内の合計が73.0%を占める。

来館の頻度は「初めて」(46.1%)が最も多く、「1年に何回も」(29.2%)「1年に1回」(11.2%)のリピーターを超えている。当収藏品展が新たな入館者を開拓した可能性がある。初めて入館した人の9割が市外の人である。

展示を知ったメディアで最も多かったのは「たまたま入館」(28.8%)で、回答月日からさくら祭り・ハイキングのついでに入館した可能性が考えられる。次に多いのはポスター(21.2%)・ちらしであった。

展示の評価は「よかった」が91.0%で「ふつう」が9.0%である。満足度が高い展示であったと考えて良からう。

展示資料中、最も気に入った護符を尋ねたところ、回答してくれた方があまりいなかったのだが、10人(11.1%)が武甲山御嶽神社の白澤図を挙げた。図像として珍しかったのだと思われる。次点が武蔵御嶽神社の大口真神(オオカミの護符)と秩父札所第9番明智寺の如意輪観世音(御影)であった。共に3人(3.3%)である。

自由意見をみたところ、「狼の護符については初見の物が多く見られた事が嬉しかったです」(30代男性)、「オオカミの護符」に興味があり、最近では寺社で様々なお札を求めていたので、今回の展示は各地のおふだを知ることができ、と

でも勉強になりました」(20代女性)など、「オオカミの護符」に興味を示して来館した方がいるのがわかる。これは小倉美恵子氏の著作・映画である『オオカミの護符』の影響であろう。

他には「おふだ集合。めずらしい企画である」(70代男性)、「暑い日に涼しい場所でゆっくりお札が鑑賞出来て良かったです。珍しいとも思いました。年代と共に感心が違う物になりつつありますね」(60代女性)など、護符を展示することの珍しさを楽しんでくれた方がいた。

また、「神社・仏閣が好きなので、大変たのしかった。また来たい」(20代男性)、「とてもたくさんのお札が集められ、各寺社に参拝した気分になりました。とても勉強になりました」(60代男性)など、護符を通して寺社への関心をかきたてられた人もいたようである。

関連事業として実施した歴史講座への参加者数も比較的多い。上述のことと考えあわせるに、「護符の展示」に対する需要は小さいものではないと言える。

身近な資料の重要性を伝えられればと考えて企画した当収藏品展だが、一定の成果が挙げられ、開催した意義も十分あったと評価したい。



白澤図

# 武蔵野鉄道開通

期 間	平成27年10月11日(日)～12月13日(日)					
開館日数	54日間					
入館者数	8,690人 (1日平均160.9人)					
展示点数	93点					
総 経 費	2,274,082円 (入館者1人あたり261.7円)					
(内 訳)	印 刷 費	712,800	写真関係費	126,453	展示委託料	219,360
	通信運搬費	568,363	消耗品費	83,277	報 酬 費	66,000
	非常勤報酬	391,140	図 書 費	28,920	旅 費	30,956
	通 行 料	13,813	著作権使用料	33,000		

## 1 趣 旨

平成27年4月15日に現在の西武池袋線(当時は武蔵野鉄道)の池袋-飯能間は開通100周年を迎えた。元々明治、大正期に敷設される鉄道の多くは貨物輸送を主な目的とするものが多いが、武蔵野鉄道は、当初の目論見からして旅客の比重が大きい鉄道であった。そして現在は、東京へ通勤、通学する貴重な交通手段として、本市には欠くことのできないものになっている。しかし、平成25年度の西武ホールディングスと筆頭株主であったアメリカの投資会社サーベラスとの対立は、地方交通機関を維持していくためには沿線住民が支えていく必要があることを認識させられた。そこで本展では、西武池袋線の開通100年を契機に、改めて鉄道の開通がその後の飯能の町やその周辺地域(以下、「飯能周辺地域」とする)の発展に果たした役割の大きさを市民に理解してもらうことを目的とする。

以上のような観点から、この展示では武蔵野鉄道(西武鉄道)の歴史を網羅的に取り上げるのではなく、近代以降の飯能周辺地域における道路整備も含めた地方交通網の整備の流れを、武蔵野鉄道の開通までで1つの到達点として捉え、そこで暮らしていた人々の思いや活動を視野に入れながら紹介することとした。併せて、鉄道の開通によって飯能周辺地域がどのように影響を受け変わっていったかも意識しながら展示を構成した。また、鉄道は子どもにも人気があることから、子ども向けの付帯事業を多く用意し、

これらを通じて西武池袋線(武蔵野鉄道)の歴史を知ってもらえるようにした。

## 2 展示の構成

### プロローグ

平成25年に株式会社西武ホールディングスの筆頭株主であるアメリカの投資会社が西武秩父線など不採算路線の廃止などを求めてきたことは、西武鉄道が将来にわたって存在するとは限らないことを私たちに突きつけた。このことを紹介することで鉄道が地域にとって不可欠な存在であることを示し、合わせて市民から募集した絵手紙を展示することにより、西武池袋線が身近な存在であることを可視化した。

### 1 青梅・川越両鉄道のインパクト

明治27年(1894)11月の青梅鉄道、翌28年3月の川越鉄道の開通によって、その停車場への交通網を整備することが飯能周辺地域の課題となった。1つは道路の整備であり、もう1つがそこに接続する鉄道の敷設である。ここでは青



展示風景 入口部分

梅や入間川に向かう道路整備や鉄道敷設への動きと入間馬車鉄道の開通までの経緯を武蔵野鉄道開通の前史として紹介した。

## Ⅱ 武蔵野鉄道開通！

武蔵野鉄道の敷設については、これまで飯能町出身で横浜の商人であった平沼専蔵が主導したとされてきた。しかし、調査の過程で見つかった史料により、飯能周辺地域を始め豊岡町、所沢町など沿線地域の住民の協力があって初めて平沼が支援を決めたことがわかってきた。この敷設までの人々の動きと、開通後の武蔵野鉄道の経営状況について、史料・写真などにより解説した。

## Ⅲ 武蔵野鉄道と飯能

既に武蔵野鉄道開通前から飯能遊覧地委員会の発足など観光地開発が始まっていたが、開通後飯能の町では、停車場へ向けての道路が整備され、人口も増加し市街地も広がっていった。また、筏に変わって材木の運搬に鉄道が利用されるようになり、西川材の集散地となっていった。ここでは武蔵野鉄道開通が飯能の町に与えた影響について紹介した。

## Ⅳ 西武鉄道の誕生

昭和21(1946)年11月15日に武蔵野鉄道は西武鉄道、食糧増産と合併し西武農業鉄道となる。現在の西武鉄道の誕生である。昭和44年には西武秩父線が開通し、本市における現在の鉄道網が完成するが、ここでは西武鉄道が誕生してから現在に至るまでを、飯能駅の移り変わりや沿線の写真、現在の西武鉄道となって以降の車両の変遷などを紹介し、合わせて西武鉄道株式会社より借用した行先表示板やヘッドマーク、鉄道機器類を展示した。

## エピローグ

西武鉄道による開通100周年記念事業などを



「Ⅱ. 武蔵野鉄道開通！」のコーナー



特別展「武蔵野鉄道開通」ポスター

取り上げ、今後のまちづくりには鉄道の存在が不可欠であることを確認した。

## 3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	300枚
ポスター (B1版カラー)	30枚
チラシ (A4判カラー2ページ)	8,000枚
展示図録 (A4判カラー56ページ)	1,000部

## 4 付帯事業

### ◎講演会

「武蔵野鉄道の開業と沿線開発」

日時 11月21日(土) 午後2時～4時

講師 老川慶喜氏(跡見学園女子大学副学長)

会場 市立図書館多目的ホール

参加者 44人

### ◎担当学芸員講座「武蔵野鉄道開通！」

日時 11月14日(土) 午後2時～4時



講演会「武蔵野鉄道の開業と沿線開発」 老川慶喜氏

講師 尾崎泰弘(当館学芸員)  
 会場 当館学習研修室  
 参加者 33人

◎親子鉄道教室(青梅電車倶楽部委託事業)

日時 10月25日(日)  
 ①午前10時～11時  
 ②午後2時～3時

講師 森中清貴氏(青梅電車倶楽部)  
 会場 当館学習研修室  
 参加者 ①19人 ②10人

◎鉄道模型運転会(青梅電車倶楽部委託事業)

日時 11月28日(土) 午前10時～午後4時  
 11月29日(日) 午前10時～午後3時



親子鉄道教室

会場 当館学習研修室  
 来場者 28日 202人 29日 337人

5 アンケート集計結果

特別展のアンケートの記入率は2%前後であることが多いが、今回は3.3%で数にすると283人にのぼる。また、自由意見欄に意見を記した人の割合は、記入者の63.3%にあたり、その比率は平成25年度の特別展「飯能方面湖水の如し」(災害史

展)の75%に続く高い数字である(通常では50%ほど)。なお、比較の対象とした過去の特別展は、上記の「飯能方面湖水の如し」のほか、平成23年度の特別展「飯能炎上」(飯能戦争がテーマ)である。

①入館者について

【年代】①-1

20～40歳代の若年層の来館者数が1.5倍に増加  
 20～40歳代は全体の31.6%を占め、過去の2回の特別展が20%前後であったことと比較すると、大幅に増加したことがわかる。この主な要因は20歳代によるものと考えられ、その比率は7.1%であった。平成25年度が1.3%、平成23年度が4.6%だったことを考えると、大幅な増加といつてよいであろう。これも鉄道をテーマとしていることによると思われる。

【居住地】①-2

市内と市外の比率が逆転、市外からの入館者、6割を超える！

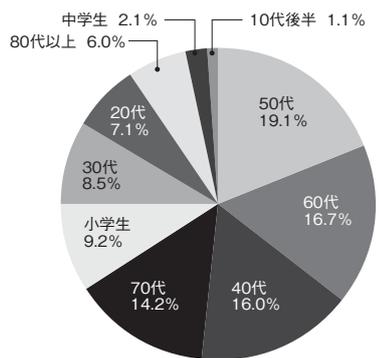
当館の場合、来館者の半数以上が市内在住であるのが通常である。平成25年度の特別展では62%であった。本展示ではそれは3割にとどまり、市外からの来館者は65%を超えた。その内訳を沿線と比較してみると、西武池袋線沿線から来た人の54%、多摩地区から来た人の70.8%が初めての来館であった。

【来館の頻度】①-3

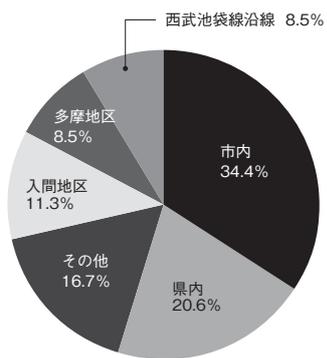
初めての来館した人の割合は半数に迫る勢い

当館に来館する人の4割は1年に何回もおいでいただくいわゆる「リピーター」の方である。一方、初めて訪れた人は通常30%前後であるが、今回は45.3%と通常の1.5倍となった。このうち6割が市外から来られた方だった。

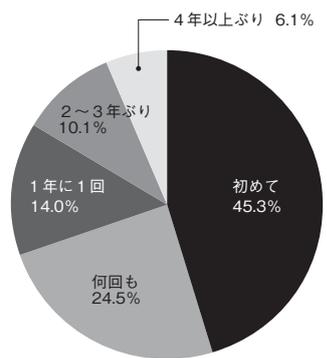
【来館の目的】



①-1 来館者の年代



①-2 来館者の居住地



①-3 来館の頻度

### 来館者の4割が鉄道ファン

今回、特別展を見に来る人がどのようなことに関心があるのかも訊いてみた。その結果、「鉄道」が43.4%と最も高く、続いて「歴史」と「地域」はほぼ同じ比率(27%前後)であった。来館者の4割が鉄道ファンだったことが確認できた。

### ②展示の広報について

#### 【展示を知ったメディア】②-1

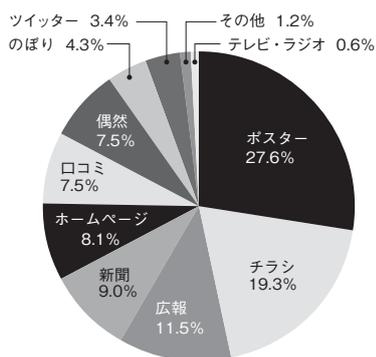
**若年層でもポスター、チラシは手堅い効果、一方で徐々に増加するネット上の情報**

展示をどのような手段で知ったかであるが、ポスターが28%、チラシが20%弱という比率でこれはこれまでの特別展と変わりはない。20歳代、30歳代の若年層でもこの比率は変わらないのはやや意外であったが、ホームページ(14.3%)やツイッター(10.7%)の比率は高く、全体としてホームページが従来の特別展の倍以上の比率(8.1%)となっていることは、この影響と思われる。また、この中には、鉄道ファンのカリスマ的存在である『レイル・マガジン』の名取紀之編集局長によるブログ(鉄道ホビダス)にアップしていただいた(11/17)のも相当数含まれると思われる。広報にご配慮いただいた株式会社ネコ・パブリッシング様には、この場を借りて改めて謝意を表するものである。

※今回の広報

例年の特別展と同様、広報はんのう(自治会加入のすべての世帯に配付)の10月1日号に掲載したほか、ポスターを市内公共施設、商店街、県内博物館のほか、西武鉄道株式会社飯能管区様のご協力を得て、管内のいくつかの駅なども合わせて300枚配付した。また、チラシは市内の公共施設のほか、同じ時期に西武池袋線開通100周年記念事業を行っていた多摩六都科学館や東村山ふるさと歴史館の展示会場でも配布していた。

このほか、6月7日に行われた西武・電車フェスタin武蔵丘車両検修場や、11月7日に横瀬車両基地で行われた西武トレインフェスティバルin横瀬など、西武鉄道の



②-1 展示を知ったメディア

主催する交流事業などでもチラシを配布していただき、業者に印刷してもらったものの他に、当館のプリンターで印刷したものも含めるとその数は約9,000枚となった。マスコミでは、毎日新聞(10/17)、朝日新聞(11/22)、地元の文化新聞(10/28)のほか、『レイル・マガジン』11月号(9/21発売)に記事が掲載された。

### ③展示について

#### 【展示の評価】

**9割が良かったと評価!**

展示については、89.4%の方が「よかった」と回答し、一昨年の特別展と同様、高い評価をいただくことができた。その中でも、特に鉄道ファンの満足度は高く、「よくない」と回答した人はいなかった。

#### 【文字数】

**文字数も9割以上が適当と評価**

今回、展示資料の解説(キャプション)は、70文字、コーナー解説は300文字を目安にした。「多すぎる」との回答は3.5%に過ぎず、93.7%がちょうどよい、との回答であった。

#### 【解説パネルの内容】

内容については、9割が「よくわかった」と回答した。逆に「難しい」は、8.9%、優しすぎるは1.1%に過ぎなかった。今回、キャプションやコーナー解説のタイトルには、資料名やテーマではなく、いいたいこと、分かることを見出し風に出して(20頁)、伝えたいことがよりはっきりわかるように努めたが、その成果であろうか。

## 6 評価

鉄道の展示は、コアな鉄道ファンの存在からある程度の集客が見込めるため、博物館としては取り上げやすいテーマである。ただ、地域博物館である当館は、鉄道ファンのみをターゲットにした展示会を実施するわけにはいかない。最も重視すべき利用者は市民であり、地域の歴史解明や地域課題の解決に少しでもつながるものを取り上げる必要がある。

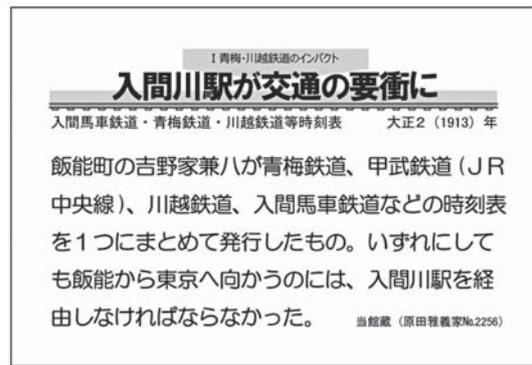
当該展示の構想自体は、平成22年1月には検討が始まっていた。そして同年9月には西武鉄道本社スマイル&スマイル室(当時)に、開通100周年の記念展示を実施したい旨の打診をしている。とにかくこの展示は、本市において行われるのが最もふさわしいという強い思いがあっ

たからである。

西武鉄道は、武蔵野鉄道株式会社の設立を会社創立の日としており、平成24年12月から100周年アニバーサリー事業を開始していた。西武鉄道との間で協議を整い、開催に向けて動き出したのは、平成25年11月のことであった。折しもその年の3月に、西武鉄道株式会社の親会社、西武ホールディングスの筆頭株主であるアメリカの投資会社サーベラスによる株式の公開買い付けが実施された。同社は西武秩父線などの不採算路線の廃止を求めているとされ、本市にとっても市民の貴重な足が奪われる危険性が迫っていた。まさに、鉄道は本市にとって喫緊の地域課題になっていたのである。そういう意味では、地域における公共交通のもつ意味を問いかけるにはもってこいのタイミングであったといえる。

展示の内容であるが、西武池袋線100年の歴史のうち、武蔵野鉄道時代の30年間をメインに取り上げ、武蔵野鉄道が、西武農業鉄道などを合併して現在の西武鉄道となる昭和20年9月までを1つの区切りとした。といっても現在に至るまでの西武池袋線の歩みも、鉄道の存在が不可欠であることを再認識するには欠くことのできない要素であった。そこで、全体を4部構成とし、最後の1章で現在の西武鉄道となって以降の歴史を紹介し、そこで鉄道ファンを意識して鉄道用品を展示することとした。

また今回、特別展の「見どころ」として2つを用意した。1つは、武蔵野鉄道の敷設経緯に対する通説への疑問である。すなわち、武蔵野鉄道は、飯能町出身で、横浜で商人として大成功を収めた平沼専蔵が発企したとされていた。展示では、坂本喜一らによって計画された当初は



キャプションの例

慎重な立場をとっていた平沼が、飯能町を初めとする沿線やその周辺地域の住民の賛同(出資)によって推進する立場へと変わっていったことを提示した。

もう1つは、重要文化財「東京府・東京市行政文書」の展示である。「昭和2年土木課 鉄道軌道」という簿冊の中の池袋・飯能間の複線敷設認可申請書に、池袋駅を除く当時のすべての駅の平面図が存在することを発見したのは、6月24日のことである。既に展示開始の3ヶ月前に迫っていた。文化庁の公開許可を得るには厳しい日程であったが、文化庁・東京文化財研究所を初め関係各機関のご協力により、平成2年の開館以来となる重要文化財の展示が実現した。また合わせて、本展示をまちを挙げてのイベントにしていくため、飯能駅開業100周年記念事業を展示準備と並行して行った(24頁)。

こうして開催にこぎつけた本展示であったが、結果的に入館者数が1日平均で160人を超えた。平成8年秋の「飯能の刀匠」以来、19年ぶりの高い数字であり集客的には成功といえる。来館者の45%が「初めて」で、4割が「鉄道」を観に来ていたというアンケートの結果からは、鉄道ファンの存在が集客数を押し上げたということは間違いない。子どもを意識した付帯事業の開催も含め、様々なイベントを行い、それによって本展への関心を盛り上げていったことも効果が大きかったのであろう。市役所内での注目度も高く、当館の存在感をアピールするよい機会となったことは確かである。アンケートの回答、そこに記された来館者の声も概ね好意的なものが多かった。

なお、平成28年3月9日、西武鉄道株式会社の若林久社長より当館に感謝状が贈呈された。



重要文化財「東京府・東京市行政文書」

○特別展「武蔵野鉄道開通」 展示資料目録

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
<b>プロローグ</b>					
1	絵手紙	18点		原資料	
<b>I. 青梅・川越両鉄道のインパクト</b>					
2	大日本鉄道線路図	1点	当館	原資料	加藤樹家No.447
3	(青梅鉄道) 汽車発着時刻并ニ賃金表	1点	原田雅義氏	原資料	No.2192
4	入間馬車鉄道・青梅鉄道・川越鉄道等時刻表	1点	原田雅義氏	原資料	No.2423
5	絵葉書「所澤町停車場」	1点	白土貞夫氏	原資料	
6	明治32年「狭山名栗間補助道編入請願書」	1点	当館	原資料	中村正夫家No.310イ
7	入間電気鉄道堰図面	1点	当館	原資料	飯能町役場No.29
8	入間馬車鉄道仮株券	1点	当館	原資料	2010購A-1
9	入間馬車鉄道時間表(明治39年)	1点	深井智樹氏	原資料	N11-13
10	入間馬車鉄道時間表(大正2年)	1点	原田雅義氏	原資料	No.2256
<b>II. 武蔵野鉄道開通!</b>					
11	武蔵野軽便鉄道株式会社設立認可申請書	1点	国立公文書館	原資料	10/15~12/10に展示
12	武蔵野鉄道開設由来記	1点	当館	原資料	小川近家No.55
13	武蔵野鉄道敷設工事ニ関スル嘆願書	1点	当館	原資料	平沼宏之家No.752
14	武蔵野鉄道株券	1点	澤田知幸氏	原資料	No.582
15	起工式招待状	1点	斉藤武司氏	原資料	N565
16	専務取締役瀬下秀夫書状	1点	斉藤武司氏	原資料	N564
17	台紙付写真「[飯能駅停車場前にて武蔵野鉄道開通式記念]」	1点	当館	原資料	
18	開通広告	1点	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	原資料	
19	開通式記念名勝絵葉書	1点	練馬区立石神井公園ふるさと文化館 柿沼清氏	原資料	
20	開通式記念盃	2点	大野哲夫氏	原資料	
21	「埼玉新報」(大正4年4月18日)	1点	当館	原資料	小川近家No.59
22	絵葉書「武蔵野鉄道路線図」	1点	白土貞夫氏	原資料	
23	汽車賃割引広告	1点	原田雅義氏	原資料	No.969
24	武蔵野鉄道案内	1点	鉄道博物館	原資料	大正6~11年頃
25	東京飯能間実測線路平面図	1点	小能啓佑氏	原資料	
26	武蔵野鉄道保線工手組頭助絆纏	1点	西武鉄道(株)	原資料	
27	武蔵野鉄道保線工手絆纏	1点	入間市博物館	原資料	
28	車両台帳	3点	西武鉄道(株)	原資料	
29	車両竣工図表	1点	西武鉄道(株)	原資料	
30	武蔵野鉄道唱歌	1点	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	原資料	
31	リーフレット「武蔵野鉄道御案内」	1点	森中清貴氏	原資料	
32	リーフレット「武蔵野鉄道春の沿線名所案内」	1点	白土貞夫氏	原資料	
33	リーフレット「武蔵野鉄道秋の沿線名所案内」	1点	鉄道博物館	原資料	
34	リーフレット「秋は武蔵野電車で」	1点	当館	原資料	野村正弘氏寄贈
35	リーフレット「飯能天覧山」	1点	森中清貴氏	原資料	
36	リーフレット「飯能天覧山」	1点	当館	原資料	野村正弘氏寄贈
37	リーフレット「狩猟御案内」	1点	当館	原資料	野村正弘氏寄贈
38	リーフレット「釣」	1点	当館	原資料	野村正弘氏寄贈
39	リーフレット「ハイキング」	1点	鉄道博物館	原資料	
40	リーフレット「武蔵野ハイキング」	1点	当館	原資料	野村正弘氏寄贈
41	リーフレット「正丸峠ドライブウェイ」	1点	佐藤美知男氏	原資料	
42	リーフレット「正丸峠」	1点	森中清貴氏	原資料	
43	リーフレット「奥武蔵スキー場」	1点	佐藤美知男氏	原資料	
44	二子山・武川岳廻遊券	1点	当館	原資料	
45	割引運賃ポスター	1点	青梅市郷土博物館	原資料	
46	糞尿関係書類	1点	当館	原資料	加治村役場No.294
47	江古田駅付近名勝絵葉書	1点	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	原資料	
48	武蔵野鉄道全線電化ポスター	1点	入間市立博物館	原資料	
49	武蔵野鉄道案内	1点	鉄道博物館	原資料	大正12年
50	(吾野までの) 延長線敷設免許申請書	1点	国立公文書館	原資料	10/15~12/10に展示
51	(飯能吾野間) 新線開通記念絵はがき	1点	豊島区立郷土資料館	原資料	
52	汽車時刻表	1点	当館	原資料	小川近No.58
53	時刻表(大正14年)3月15日改正)	1点	鈴木源太郎氏	原資料	N14-17
54	初詣武蔵野七福神巡拝券	1点	入間市博物館	原資料	
55	切符	3点	森中清貴氏	原資料	

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
<b>Ⅲ. 武蔵野鉄道と飯能</b>					
56	飯能停車場線県支弁道編入請願付図	1点	当館	原資料	飯能町役場No.131
57	台紙付写真「飯能停車場前集材風景」	1点	当館	原資料	
58	「神域予定地地形図」	1点	当館	原資料	中村正夫家No.10112
59	上水道竣工記念絵葉書	1組	当館	原資料	3枚組
60	飯能停車場平面図	1点	東京都公文書館	原資料	重要文化財・10/15～12/10に展示
<b>Ⅳ. 西武鉄道の誕生</b>					
61	武蔵野鉄道・西武鉄道・食糧増産合併文書	1点	国立公文書館	原資料	10/15～12/10
62	リーフレット「新鋭車両の御案内」	1点	当館	原資料	園田正雄氏寄贈
63	ポスター「秩父新線開通」	1点	当館	原資料	園田正雄氏寄贈
64	特別急行券	3点	練馬区立石神井公園ふるさと文化館ほか	原資料	
65	新型車両リーフレット	6点	当館	原資料	西武鉄道(株)寄贈
66	通票閉塞器	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
67	タブレットキャリアー	1点	森中清貴氏	原資料	
68	ヘッドマーク「特急むさし」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
69	ヘッドマーク「特急おくちぶ」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
70	ヘッドマーク「急行正丸」	1点	園田正雄氏	原資料	
71	行先表示板「準急西武新宿」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
72	行先表示板「準急飯能」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
73	行先表示板「飯能」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
74	行先表示板「急行飯能」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
75	前サゴ受(フレーム)	1件	西武鉄道株式会社	原資料	行先表示板を入れる枠
76	列車種別板(小)「急行」・「準急」	1件	森中清貴氏	原資料	赤電時代のもの
77	列車種別板(大)「急行」・「快速」	1件	西武鉄道株式会社	原資料	
78	行先板入	1件	西武鉄道株式会社	原資料	
79	主幹制御器(機関車用)	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
80	E851運転台計器類	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
81	車両銘板(外板・昭和29年)	1件	森中清貴氏	原資料	
82	「所沢車輛工場」プレート(昭和39年)	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
83	改札鉄	2点	森中清貴氏	原資料	
84	車掌鉄	2点	森中清貴氏	原資料	
85	プレーキ弁ハンドル	1点	森中清貴氏	原資料	
<b>エピソード</b>					
86	西武鉄道記念カード類	1件	遠山光保氏	原史料	
87	西武池袋線開業記念乗車券	2件	当館	原史料	園田正雄氏・佐藤美知男氏寄贈
88	西武鉄道株式会社創業100周年記念乗車券	1件	渡邊嘉之氏	原史料	
89	西武鉄道池袋線開業100周年記念乗車券	1件	当館	原史料	西武鉄道(株)寄贈
90	新2000系ネクタイ・ネクタイピンセット	1件	当館	原史料	
91	ヘッドマーク「西武鉄道池袋線開業100周年」	1点	西武鉄道株式会社	原資料	
92	開業100周年記念電車内の中吊り	2点	西武鉄道株式会社	原資料	
93	西武鉄道Nゲージ鉄道模型	1件	個人	原史料	



「武蔵野鉄道敷設工事二関スル嘆願書 (No.13)」

武蔵野鉄道開通に至る経緯について、通説に疑問を投じるきっかけとなった資料。ここでは平沼専蔵が必ずしも主導したとはいえないことが記される。

## 来館者の声

(○=高い評価 ●=高くない評価)

### ○ 池袋線100周年行事の真打ち登場！

いやーとてもおもしろかった！まず株主ファンドの話から始まる博物館の鉄道の企画展って今まで見たことがない。せっかくなのでもうちょっと署名の用紙とか、株主総会の資料とかも展示してほしいけど。しかし次の絵手紙も含めて、市民のすぐ身近な話からテーマに入っていくというセンスはとて面白い。(中略)やはり力が入っているのは「建設前の事情」「設立、営業開始、飯能の変化」のあたりで、自分は地元の人間でないの、いずれも興味深く拝見した。特に大学生による入間馬車鉄道線の調査や平沼中心説の検証という内容は評価されるべき内容だ。博物館は何か先人をほめたたえるだけでは「×」であり、フルに資料を整理して考慮することこそが大切なのである。図表の整理等もよく very good であります。(中略)ともあれ、池袋線100周年行事の真打ち登場という印象である。今日はこの展示が見られただけでもよい一日です。パチパチ。これで無料が申し訳ない(男・50歳代)。

### ○ 新たに調査した結果を丹念に積み重ねた質の高い展示

- ・ 武蔵野鉄道開設に関する経緯の見直しや、鉄道の開通と街の発展の様子などを豊富な資料、グラフ、地図を用いて丁寧、分かりやすく説明されており、とても質の高い展示だったと感じます。重文資料の展示など、貴館の本展示に関する本気度がヒシヒシと伝わってくるととても素晴らしい企画展でした(50歳代・男)。
- ・ もともとある資料を展示するだけでなく、新たに調査した跡があって良かった。すでに現存しない武蔵野鉄道の資料がないことへのくやしさも感じられて、展示を作ったスタッフの方々の熱意が感じられた(女・50歳代)。
- ・ 小さな発見を丹念に積み重ね、展示を構成する手法は秀逸だし、とても誠実な姿勢です(50歳代・男)。

### ● 会場の写真撮影に対する取締を！

写真撮影を堂々としている人がいます。注意してください！(50歳代・男)

※本展示では展示室内での写真撮影を禁止としたが、展示室には監視員などを置いていないため、資料の写真撮影を結果的に野放しにしていることに対する

苦言が複数あった。

### ● 期間中に図録が売り切れてしまったことは不親切 図録を増刷してください！特別展開催中の売り切れは不親切です(50歳代・男)。

※今回の図録は、通常より200部多く印刷したが、会期終了8日前の12月5日の午前中で売り切れてしまったため、それに対する意見が19件あった。

### ● 後半はよくある鉄道展の展示になってしまった

- ・ 由来記や嘆願書の中身をもう少し見たかった。その他に、女性車掌を登用した事情、旧西武との関係、昭和の不況と箱根土地系(つまり今の西武)への移行(話しづらい?)、武蔵野線□省歌 etc もう少し語ってほしかった。(中略)後半の現在の西武については、よくある鉄道展の展示になってしまったようで、自分としては「うーん」と思ったけど、こういう内容を求めている方もあるだろうから、まあしょうがないかと理解したい。ただ、最後の「西武鉄道(株)を大いにもりたて」は、私企業にかた入れするのかと誤解をまねく可能性もあるので「池袋線、秩父線を大いにもりたて」ぐらいで良かったかもしれないです(50歳代・男)。

### ● 展示の内容について

- ・ 開通時の記録(写真パネルを新聞紙大で1、2点展示してほしい)がもう少しあればより深く理解できた。車両数(機関車、客車、貨車)、職員数など(60歳代・男)。
- ・ 図録の内容はよいが、写真を多くしてほしい。特に初期の写真が少ないのが残念である(80歳以上・男)。
- ・ 新型車両のパンフレットは各部品の製造メーカーや形式が詳細に書かれていたりするので、両面(全面)見せて欲しかった。表紙だけというのは物足りなく、全展示の中で、これだけは不満(30歳代・男)。
- ・ 地域の発展に努力された先人達に感謝し、もっと功績を(文章)展示等でお願ひします。特に「横浜市」との色々な行事等を行っている中で、「平沼専蔵」の名前が出て来ない(80歳代・男)。
- ・ 停車場図面に方位(もしくは方面)が入っていれば、現在の様子と比較できたと思う(30歳代・男)。

## 飯能駅開業100周年記念イベントなど

### ア、西武鉄道・当館共催事業

#### ○飯能駅開業100周年記念セレモニー

日 時 4月12日(日)  
 会 場 飯能駅改札口前  
 内 容 池袋線開業100周年記念セレモニーとして運行された臨時電車の飯能駅到着に合わせ、セレモニーを行い、その後飯能市立美杉台中学校吹奏楽部による演奏を行った。

また、秋の特別展をPRするチラシも配布した。

#### ○飯能駅・西武線の絵手紙・写真展示

日 時 ①7月10日(金)～8月5日(水)  
 ②8月8日(土)～9月6日(日)  
 会 場 ①西武飯能Pepe1階  
 ②飯能市立図書館  
 内 容 市民から募集して集まった、飯能駅や西武線に関する思い出の絵手紙135点、写真28点を展示した。

#### ○「飯能駅のおもいで」写真展

日 時 ①4月7日(火)～5月11日(月)  
 ②5月13日(水)～6月20日(土)  
 ③7月2日(木)～8月17日(月)  
 ④8月19日(水)～9月28日(月)  
 ⑤9月30日(水)～10月26日(月)  
 ⑥10月28日(水)～12月13日(日)  
 会 場 飯能駅北口1階通路・2階エレベータ脇  
 内 容 飯能駅及びその周辺のなつかしい写真11点を展示した。飯能駅が開業して100周年にあたる4月から、特別展が終了する12月までの間、6回にわたって展示を替え、1回に11点展示した。

#### ○西武飯能Pepe展示

「西武鉄道開業100周年記念写真展」  
 日 時 9月30日(水)～10月26日(月)  
 会 場 西武飯能Pepe1階・2階エレベータ脇  
 内 容 飯能駅構内で展示した「飯能駅のおもいで写真展」の代表的な写真21点を展示した。

#### ○西武・電車フェスタ2015パネル展示

「飯能駅開業100周年事業」  
 日 時 6月7日(日)  
 会 場 西武鉄道武蔵丘車両検修場  
 内 容 毎年行われている電車フェスタで、飯能駅開業100周年事業として、大正4年頃の飯能駅の写真などをパネル展示した。



飯能駅開業100周年記念セレモニー

### イ、駿河台大学メディア情報学部野村ゼミ連携事業「ペーパークラフトで機関車を知ろう！」

日 時 12月5日(土)  
 ①午前9時30分～11時30分  
 ②午後1時30分～3時30分  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 ①5組13名 ②6組12名  
 内 容 毎年野村ゼミでは6月に当館で実習展示を行っているが、当年度はゼミ生が少なかったため、本展示に関わる調査と関連事業を行った。内容は武蔵野鉄道時代の機関車と現在の電車の2種類のペーパークラフトを作り、その違いについての説明を行った。独立行政法

人国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」に採択された事業。



「ペーパークラフトで機関車を知ろう！」

## その他の展示

### ○その他の展示一覧

展示会名	期間	日数	展示点数	入館者数	1日平均入館者数
最新出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージ」	7月19日(日)～8月30日(日)	37	56	3,437	92.9
むかしのくらし ー民家の台所再現ー	1月5日(火)～2月7日(日)	30	109	3,474	115.8
ひなまつり	2月21日(日)～3月6日(日)	14	40	2,828	202.0

### ◎最新出土品展

#### 「掘り起こせ！古代からのメッセージ」

##### 1 概要

飯能市教育委員会生涯学習課では毎年市内各地で発掘調査を実施している。その最新の成果を多くの市民に伝えるために、当館と生涯学習課との共催で、2年に1回を目安に開催しているのが埋蔵文化財出土品展である。今回で13回目となった。

展示は第1部「これが発掘調査だ!」、第2部「発見されたモノ、わかったコト」の2部構成とした。

第1部では、発掘調査はなぜ行うのか、また、どのように発掘調査をすすめるのかを紹介するために、特別展示室に発掘現場を忠実に再現したジオラマを作成した。

第2部では、最近の発掘調査で発見されたものやそこからわかったことにテーマを付して紹介した。テーマは、「ここまでわかった縄文時代の集落景観ー岩沢・加能里遺跡ー」、「大河原に埋もれていた大規模集落ー大河原・別所平遺跡ー」、「高麗郡建郡と加治地区の開発ー岩沢・加能

里遺跡ほかー」、飯能焼窯跡本体にメスが入る!ー八幡町・飯能焼原窯跡ー」とし、それぞれの調査の成果が伝わるように配慮した。

##### 2 関連事業

#### □「担当者が語る最近の発掘調査の成果」

日時 8月22日(土) 午後1時30分～3時

講師 教育委員会生涯学習課文化財担当職員

会場 当館学習研修室

参加者 27人



展示風景

### ◎小学3年生見学対応展示「むかしのくらし ー民家の台所再現ー」

##### 1 概要

本展示は、小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元の学習するためのもので毎年開催している。特別展示室内に民家の土間とカッチを模した空間を作り出し、昔のアイロンの体験ができる板の間を設け、副読本や学校では見ることができない昔の道具を展示している。

また、昔の道具を使った高齢者の認知症ケアのひとつである回想法を意識し、市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。

##### 2 関連事業

#### □火のし・炭火アイロン／石臼体験

日時 2月7日(日) 午前10時～午後3時

指導者 当館市民学芸員

会場 当館特別展示室・休憩コーナー

内容 小学3年生が当館見学時に体験した火のし・炭火アイロンと石臼を親子で体験してもらった。

参加者 のべ93人



展示風景

◎ミニ展示「ひなまつり」

1 概要

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示する「飯能ひな飾り展」に合わせ毎年実施しているもので、今年が11回目となる。当館にとっては、まちづくりに直接関わることのできる貴重な機会の1つになっている。

ここ数年はひな人形の展示点数が少なめであったため、当年度はできるだけ多く展示するよう心がけた。



ミニ展示「ひなまつり」入館状況

2 関連事業

□折り紙でおる「おひな様」

日時 2月27日(土)・28日(日)  
 午前10時～正午 午後1時～3時  
 講師 当館市民学芸員  
 会場 当館休憩コーナー  
 参加者 2月27日53人 28日44人



折り紙でおる「おひな様」風景

◎今月の一品

1 概要

エントランス入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示しているもので、平成18年6月から始まった。本展示は、収蔵資料の活用のお場というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日ごろの地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。なお、平成19年1月以降のものについては、すべてその写真と解説を当館ホームページにも掲載している。

当年度に展示した資料は、一覧表のとおりである。

○展示資料一覧

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	江戸時代の成田参詣	浅見譲二家文書 No.526	宮島
5月	端午の節句と武者人形	民具No.5928	村上
6月	待ちに待った武蔵野鉄道の開通	小川近家文書 No.59	尾崎
7月	未帰郷軍人名簿	原市場公民館文書 No.727	宮島
8月	終戦直後の新聞	田中勝久家文書 No.176	宮島
9月	「子供音楽コンクール」のレコード	レコード No.873	村上
10月	タカトラ商店の棹秤と分銅	民具 No.5966・5967・5971	村上
11月	武蔵野鉄道からの感謝の品	浅見欽一郎家 No.174・加藤衛拓家 No.586 民具 No.2527	尾崎
12月	名栗を通るまぼろしの鉄道	加藤衛拓家 No.780・1304・1321	尾崎
1月	奥武蔵駅伝競走大会優勝記念寄書	菊地好太郎家文書 No.17	宮島
2月	ねこあんか	民具 No.1599	柳戸
3月	舞踊人形「春駒」	民具 No.5706	村上

夏休み子ども歴史教室  
武蔵野鉄道開通100周年記念特別展

## 「西武池袋線 人間すごろく大会」

日 時 平成27年8月2日(日)  
午前10時～正午

対 象 小学生(低学年)

参加者数 14人

会 場 当館休憩コーナー・シンボル展示  
「筏」前

指 導 者 村上達哉(当館学芸員)  
宮島花陽乃(当館学芸員)  
博物館実習生(4人)  
市民学芸員(10人)

### 1 趣 旨

平成27年は武蔵野鉄道(現在の西武鉄道池袋線)開通100周年を記念する年であった。秋に特別展「武蔵野鉄道開通」が予定されていたこともあり、武蔵野鉄道の歴史、市町村に鉄道が通ることの意味について、子どもたちが理解しやすい形で説明するというのが今回の夏休み子ども歴史教室の主な目的である。あわせて特別展開催について、事前に広報する機会としても設定した。

### 2 内 容

児童自身が電車に見立てた駒(3人一組を基本とし、4チーム編成する)になり、大きなサイコロを転がして、出た目に従い会場の床面に貼った駅名(西武池袋線各駅、合計26駅。28頁の会場平面図を参照)を進む。停車した駅によってはそのチームにクイズ(二者択一。チーム全員で協議し回答する)が出題され、正解すると1駅進むことができる。終了時刻(11時40分)を迎えた時点で、最も多くの駅を進んだチームを1位とした。

順位が確定したらそれを表彰し、参加賞を手渡した。参加賞は西武鉄道株式会社からご提供をいただいた西武鉄道グッズの詰め合わせである。

### 3 事前準備と学芸員実習生

例年、夏休み子ども歴史教室開催日時を、学芸員実習生(以下「実習生」と記す)の実習期間内に設定している。学芸員実習のカリキュラムに、子どもを対象とした教室の準備・運営を取り込んでいるためである。

当教室においても、実習生の積極的な関与を期待していたが、彼らはそれに見事に応えてくれた。実習生なしには当教室は成立し得なかったであろう。以下にそのことについてまとめておきたい。

実習生が事前準備にて果たした役割は主に、①すごろくのシミュレーションと運営時に発生が予想される問題点の抽出、②サイコロなど運営に必要な小物の作成、③クイズにて使用するワークシート(下・28頁)の表紙・裏表紙のデザイン、の3点である。

#### ①シミュレーションと問題点の抽出

村上が原案として作成したルールに従い、A2大に印刷した会場平面図上にて実際にすごろくを行なった。確認しようとしたことは、児童がどのようなペースで駅を進むか、ということである。これは、どの駅でクイズを出すか、またクイズの数はいくつ用意しておけば良いのかを考える上で必要不可欠な情報であった。クイズの数が必要以上に多いと度々進行が中断され、すごろくで駒を進めていく楽しみが減ってしまう。スムーズにすごろくが進められるよう、適切な形を作っておかなくてはならない。

また、シミュレーションの後、実際に会場内にて駅名を印刷・パウチしたケント紙を配置しリハーサルを行なった。駅の間隔などが適正か、また、1つのチームを何人に設定しておけば良いかを確認し、児童がスムーズかつ安全に移動



ワークシートの表紙・裏表紙

クイズ	問題	回答	正解
1	今のせいぶくろは、もとほむさしのてつどうのせんろです。		
2	はんのうといけぶくろをむすぶてつどうは、100回入浴します。		
3	はんのうといけぶくろをむすぶてつどうは、はんのうの人数が半減して、つくりました。		
4	てつどうがでたところ、はんのうの人数はよそよそで、ぜんぜんです。		
5	いそがしいお祭り会場が賑わったのは、てつどうでも、それでいそがしく賑わったようにしたためです。		
6	はんのうに、てつどうのえんがでたのは、100回入浴します。		
7	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
8	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
9	「いそがしい」は、せいしよ「よそよそえん」といふ言葉です。		
10	「よそよそえん」は、せいしよ「もろもろえん」といふ言葉です。		
11	「てつどうのえん」は、せいしよ「てつどうえん」といふ言葉です。		
12	てつどうがでた、てつどうのえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
13	ひびきくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
14	はんのうえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
15	「いそがしい」は、せいしよ「いそがしいえん」といふ言葉です。		
16	はんのうえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
17	ひびきくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
18	「よそよそえん」は、「よそよそえん」といふ言葉です。		
19	いそがしいえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
20	てつどうのえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
21	いそがしいえんがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
22	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
23	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
24	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
25	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
26	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		
27	今のせいぶくろがでたのは、はんのうえんとおなじ、100回入浴します。		

ワークシート (クイズ解答欄)

することが可能かを検証するためである。

以上のシミュレーション、会場でのリハーサルの結果、クイズを実施する駅は11ヶ所、クイズの数は27問、1チームの人数は3人を基本とすること、また白いガムテープで導線を示すことを決定し準備を進めることにした。

②サイコロなどの作成

振って出た目が参加している人たちに見えるよう、一辺が30cm程度の大きなサイコロを作ることになった。素材や構造などを工夫し、振った時に適度に転がるよう重さも調整し手作りした。児童にぶつかって怪我をさせてはいけないし、繰り返し転がしているうちに壊れてしまってもいけない。

試行錯誤の結果、断熱材を貼り合わせて立方体を作り、床用マット(板状のスポンジ表面に厚手の布を貼ったもの)を切ってサイコロの表面にした。内部は少しくり抜いて鈴を入れ、転がると音が出るようにした。全て実習生の工夫によるものである。

③ワークシートのデザイン

実習生4人にワークシートのタイトルの文字やイラストを描いてもらった。実習生には小学生児童が対象の事業であり、可愛らしく硬い印象を与えないものを作りたいと告げた。出来上がったものの中から適当なものを選び、表紙・裏表紙を作成した。

以上のように、事業の準備の中で手間と時間がかかるものを実習生が進めてくれ、担当者としては非常に助かった次第である。

4 当日の進行

事前申し込みでは12人の参加で、3名ずつ4チームの編成で用意していたのだが、当日は2名

の飛び入り(事前申し込み児童の兄弟姉妹)があり、3人のチームと4人のチームが2つずつの実施となった。

学芸員実習生が1チームに1人ずつ付き添い、どのチームが何駅進んだかを運行記録票に記録するとともに、首に行先(池袋もしくは飯能)を表示したプレートを下げ、どちらの方向に向かっているかを間違えないようにした。あわせて移動・待機時に混乱が生じないよう見守った。

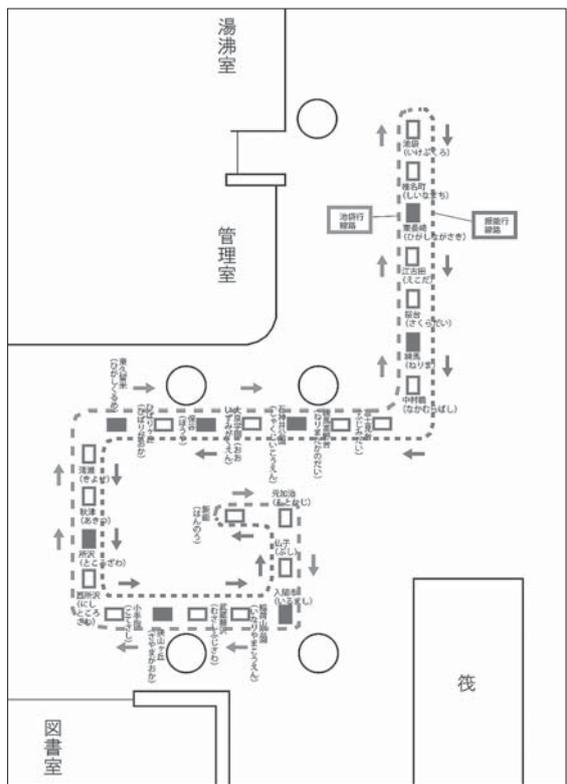
また、当館の市民学芸員10人が児童を駅に誘導すると共に、他の来館者を特別展示室・常設展示室に導き会場の安全を確保した。

担当のうち村上が司会として全体の進行を担当し、宮島がそれを補佐した。

子どもたちは運転手・乗客(4人チームの場合乗客が2人となる)・車掌と役柄を決め、運転手→乗客→車掌の順にサイコロを振った。

シンボル展示(筏)の前にプロジェクターとスクリーンを設置、クイズが出題される場合にはクイズに回答する児童を含め全員が問題と答えを視認できるようにした。

クイズは、例えば「今のせいぶいけぶくろせんは、もとは「むさしのてつどう」のせんろです」「はんのうといけぶくろをむすぶてつどうは、1



会場平面図

ねんまえからあります」といったような基本的な事柄に関しホントかウソかを答えるものである。ワークシートのクイズ解答欄に、全員で話し合っ「ホント」「ウソ」いずれかの欄に○を書き込んだ。回答が正解した場合には1駅進み、不正解の場合には実習生が赤鉛筆で訂正した。

飯能駅をスタート地点として、まず池袋方面に駒を進める。11時40分までの間、繰り返し飯能・池袋間を行き来し、池袋駅・飯能駅を通過するたびにそのチームの児童にお菓子が配られた(お菓子は飯能駅・池袋駅担当の市民学芸員が取り置いておき、袋詰めして後ほど参加賞と共に渡した)。11時40分まですごろくを進め、その時に最も通過駅が多かったチームが1位、以下4位まで決めた。

順位は表彰するのみで、参加賞に差は設けなかった。参加賞を入れた紙袋に、クイズ全問の答えを印刷したものを同封しておいた。

終了の挨拶をして解散した。

## 5 反省点

反省点としては、本事業参加児童以外の見学者の動線の確保が、難しかったことがまず挙げられる。これは会場の狭さに起因しており、14人の児童でも、同じ空間に集中してしまうと混雑してしまうような印象があった。市民学芸員にも来てもらっていたのだが、人が集中した場合の具体的な誘導の手順などは事前説明ではもれていた。

また、実習生の感想として児童4人の付き添いで手一杯というものがあり、1チーム4人が限界かもしれない。

クイズの回答方法も課題として残った。複数の児童をまとめて1つの駒にしているため、ワークシートは1人1枚ずつ配布されているのだが、チームで同じ答えにしないといけない。これが混乱の要因となった。小学校低学年では議論して答えを統一するというのがなかなか難しい。実習生の判断で多数決にて答えを決めたチームもあった。

進行は予想以上にスローテンポとなった。実際のクイズ発生率がシミュレーションを元に想定した数値より高かったためである。クイズが頻繁に出題され、駒がなかなか進まない事態となった。最初のうちはクイズに集中できていた

子ども達も、時間が経つにつれ集中力を失っていった。クイズの数をもっと少なくて良かったようで、丁度良いバランスになるようゲームをデザインする難しさを感じた。

また、クイズは小さい子だと難しい問題もあり、学習活動の質はクイズの内容にかかっているため、慎重に作成しなくてはならない。テーマによっては学習活動に適さないものもあろう。そのような意味では、「武蔵野鉄道」というテーマが、当教室でとった手法にふさわしいものであったかは微妙なところだったと考える。

以上のことから、次の3点のことが言える。

1つ目として、動作を伴い学習していくというのは方法として有効であると考えるが、クイズなどの課題=学習と、動作との時間的なバランスを上手にとることが必要である。

2つ目として、付き添いや安全の見守りなどスタッフの人数が必要であり、会場も出来るだけ広い方が良い。今回は参加児童(14人)とスタッフの人数(16人)がほぼ同数だった。それを考えると小学生対象の場合、会場を広くしても参加人数を大幅に増やすことは難しいかもしれない。

3つ目として、学習活動の手法としてクイズを用いる場合には参加児童の年齢を良く意識し、まずテーマがふさわしいか十分検討することが大切である。その上で表現を可能な限りわかりやすくする、カタカナの使用に気をつける、年齢制限を設けるなどの対応が必要であろう。

このように、修正が必要な点も多くあるが、全体的には子ども達の雰囲気は良好で、クイズについても思っていたより反応が良かった。まずは成功と考えて良いと思われる。実習生も手応えを感じていたようである。



事業の様子

## その他の講座・学習会

### ○その他の講座・学習会一覧

学習会名	日時	時間	対象	参加者数
竹の水鉄砲であそぼう	7月24日(金)	午前9時～11時30分・午後1時～3時30分	子ども	127
	7月25日(土)	午前9時～11時30分・午後1時～3時30分	子ども	105
		合計		232
まゆ玉づくり	1月10日(日)	午後1時30分～3時30分	小学生低学年とその保護者	38

### ◎竹の水鉄砲で遊ぼう

この体験学習会は、夏休み中の子どもの居場所づくりを目的として、平成24年度より実施しているものである。参加者に竹の水鉄砲作りや、あらかじめ用意しておいた竹とんぼ、竹馬など竹のおもちゃで遊ぶことを通して、昔の手作り玩具の楽しさを知ってもらうことを目的とした。場所は当館入口脇で、運営、指導は市民学芸員16人と博物館実習生4名が当たった。



「竹の水鉄砲で遊ぼう」風景



展示ホールに完成した大きなまゆ玉

### ◎まゆ玉づくり

まゆ玉づくりは、小正月や初午などに繭の増収を祈願して、米粉で作った団子をツゲの木などの小枝にさして飾る行事である。養蚕が行われなくなるとともに今ではほとんど見られなくなっているため、この伝統行事を伝承していくことを目的として実施している。

最初にまゆ玉の作り方を説明し、参加者全員で、米粉の団子(まゆ玉)を作った。それを、エントランスホールに展示している「猪狩の大樫」に差し込んだミズキ・ツゲなどの枝先に、みかんと一緒に飾った。飾り付けが終わった後に全員で繭玉を食べた。

まゆ玉づくりの指導は、内沼須美氏、清水里子氏、小熊絢子氏、内沼政子氏に、またまゆ玉飾りの指導は内野博司氏にお願いした。会場は当館学習研修室である。

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきた。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では市民参加活動を、博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。平成10年度に活動を開始した定点撮影プロジェクトが前年度いっぱい休止となり、現在は市民学芸員だけになっている。

## 市民学芸員

### 1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている（当館『研究紀要』第1号）。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

平成12年1月の「特別展企画運営参加型」に始まった市民学芸員の養成も、これまでに7回行ってきた。このうちI期の特別展企画運営とIV期の民俗調査については、目的が達成されたため既に終了している。平成27年度末現在で活動しているのは、博学連携、古文書整理、麦作文化探求の3分野で、合わせて54名が登録している。2分野以上にまたがって活動をしている方もいるので、その各分野の内訳は、博学連携が40名、古文書整理が13名、麦作文化探求が18名となる。

### 2 活動の概要

#### ◎全体の活動

当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われる。2分野以上に登録していない限り、市民学芸員同士の交流がなく一体感が生まれてこない。そこで、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会は年2回程度合同で行うこ

ととし、当該年度は下の表のとおり実施した。

このほか、市民学芸員が実験的な活動を始めたり、当館のイメージアップをはかるなど養成分野にこだわらず、やりたいことを自由に、気軽に行える場としてのサークル活動を、平成24年度から行っている。個々の活動については以下のとおりである。

#### (1) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

花の苗は、6月19日にペチュニア・マリーゴールド・ペゴニアを、11月24日にパンジーを植えた。その間水やり、枯れた花つみなどを定期的に行った。

#### (2) 生花サークル

このサークルは、当館入口風除室にある、元々は公衆電話が設置されていた空間に生花を展示するものである。展示は1週間（火曜日の朝



全体研修会・別所平遺跡現地見学（6月）

#### ○平成27年度市民学芸員全体研修会一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	6/20	土	13:00~15:00	館外研修会	生涯学習課文化財担当職員	別所平遺跡(大河原)第3・5次調査現地見学会	23

から日曜日まで)を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。また、その脇には花材と生けた人の名前を記したキャプションを付けた。当年度は生花の傷みが早い7月中旬から9月末までは展示を行わなかった。活動した日は57日で、参加人数はのべ62人である。

なお、サークル活動については、活動時にその内容をノートに記してもらい記録とした。

### ◎博学連携事業参加型の活動

博学連携事業参加型の活動は、小学3年生見学対応を中心とし、その他、子ども対象事業である「竹の水鉄砲であそぼう」の運営が主体となる。

小学3年生見学対応は、当館の博学連携事業を代表するものである。毎年1月半ばから2月初めまでの約1ヶ月間、月曜日を除く平日に、ほぼ毎日行われる。市民学芸員が中心になって担うこの事業は、市民学芸員抜きでは考えられない。

その学習プログラムは、第Ⅱ期市民学芸員養成後に考案された形が基礎となっている。その後、第Ⅳ期市民学芸員により新しいプログラムが追加され、毎年、少しずつ改善が加えられて現在に至っている。しかし、この学習プログラムがある一定のレベルに到達しているという市民学芸員の理解もあり、近年は改善意欲が薄れあまり活発なものとなっていない。館としては改善ありきではなく、そのプログラムが何を目的として行われているのかを再確認するためにも、議論を継続していきたいところである。

1年の活動方針は、前年度末の定例会で市民学芸員と協議し決めている。ただし小学3年生見学対応は、準備から反省会までで下半期のほぼ全てを要する一大事業のため、活動方針は主



博学連携型の4月例会 ワールドカフェの様子



博学連携型の館外研修会・聖天院の見学(5月)

に上半期における活動に関するものとなる。

当該年度は、4月に活動予定と内容について協議を行ったほか、小学3年生見学対応の改善について、ワールドカフェの手法を取り入れて意見交換をした。ワールドカフェとは、リラックスした雰囲気の中で4~5人の単位でテーマについての対話を行い、メンバーの組み合わせを変えながら話し合いを継続していく方法のことである。そして5月は館外研修会を行い、古代の高麗郡の遺跡と、高麗神社・聖天院(日高市)を見学した。6月には研修会として「武蔵野鉄道開通前史」と題し講義を行った。市民学芸員からの“学芸員による最新の調査成果などを講義として聴きたい”という要望に応えたものである。また、8月には長光寺(下直竹)の見学を行なった。長光寺は国指定重要文化財である雲版の所有者である。小学3年生見学対応の中で、子どもたちに雲版について説明していることから見学させていただいた。

近年、館の事業の中で市民学芸員の力を借りる場面が多いが、当年度は夏休み子ども歴史教室の運営において、子どもたちの誘導と会場の安全確保を依頼し10人に参加いただいた。

### ◎古文書整理型(第Ⅵ期)の活動

「古文書整理(参加)型」の市民学芸員は、平成22年度に養成された第Ⅵ期にあたる。目標としては、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に当館学芸員と共に参加し、地域への理解を深めてもらうことにある。

この活動も5年目に入ったので、今後を展望する意味から参加者に対し、前年度の終わりに今

○平成27年度市民学芸員（博学連携）活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	4/21	火	9:30~12:00	4月例会	村上・宮島	平成27年度活動について／ワールドカフェ ①「過去から学ぶ意味とは」の再認識、②「市民学芸員（博学連携）とは」	10
2	5/9	土	9:00~14:50	館外研修会	村上	「古代高麗郡」を歩くーその遺跡・聖天院・高麗神社ー（市内張摩久保遺跡のほか、日高市の若宮遺跡・女影ヶ原古戦場跡・拾石遺跡・聖天院・高麗神社およびその周辺の散策）	13
3	6/4	木	10:00~11:50	研修会	尾崎・宮島	研修会：「武蔵野鉄道開通前史」	11
4	6/11	木	10:00~16:00	当館主催事業準備	柳戸・宮島	名栗くらしの展示室体験講座「はたおり」の事前準備	11
5	6/26	金	9:00~12:30	研修会	村上・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう」用の竹の調達	4
6	7/4	土	13:30~15:30	研修会	村上・宮島	まゆ玉づくりの技術継承を目的とした研修会（指導：内沼須美氏・小熊絢子氏・内沼政子氏）	10
7	7/11	土	14:00~16:30	当館主催事業準備	宮島	「竹の水鉄砲であそぼう」用の竹の事前準備	9
8	7/24	金	8:30~16:00	当館主催事業運営	村上・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう」運営	10
9	7/25	土	14:00~16:30	当館主催事業準備	村上・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう」運営	10
10	8/19	水	13:30~15:31	8月例会	村上・宮島	小学3年生見学プログラム「昔の道具さがし」の改善について、竹の水鉄砲であそぼう！結果報告 ※社会教育実習あり	12
11	8/26	水	13:30~15:32	館外研修会	村上・宮島	長光寺（下直竹）見学会（本堂・惣門・三門などの指定文化財のほか岡部氏の墓見学、住職講話）	15
12	9/12	土	10:00~11:45	9月例会	村上・宮島	小学3年生見学プログラムの1つ「昔の道具さがし」改善について（2回目）	11
13	10/21	水	9:30~11:45	10月例会 研修会	尾崎・村上・ 宮島	研修会：特別展「武蔵野鉄道開通」展示解説 定例会：小学3年生見学プログラム「昔の道具さがし」改善案シミュレーション	17
14	11/17	火	10:00~10:43	11月例会	村上・宮島	小学3年生見学対応について（詳細スケジュール説明など）	11
15	12/9	木	10:00~10:45	12月例会	尾崎・宮島	小学3年生見学対応について（担当割当の調整、設営の連絡など）	14
16	12/23	水	9:30~12:00	小3対応展示準備	柳戸	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展示（民家の台所）設営	6
17	12/25	金	9:30~12:00	小3対応展示準備	柳戸	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展示（民家の台所）、 「平地のくらし」に紙芝居コーナー設営	4
18	2/7	日	10:00~15:00	小3対応展示 付帯事業運営	宮島	「火のし・炭火アイロン／石臼体験」（10:00~15:00）運営	11
19	2/13	土	10:00~12:35	2月例会	村上	小学3年生見学対応についての反省会、アンケート結果の報告	12
20	2/27	土	9:45~15:05	当館主催事業運営	宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でおのおひな様」（10:00~15:00）運営	6
21	2/28	日	9:45~15:30	当館主催事業運営	宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でおのおひな様」（10:00~15:00）運営	6
22	3/23	水	10:00~12:00	3月例会	村上・宮島	平成27年度の活動の総括（意見交換）	8

合計 のべ221人

後についてのアンケート調査を行った。活動の内容については、古文書の整理を希望する人が半数の6人、これまでのような古文書の講読が3人であった。次に全体での学習から個別の学習（翻刻、



古文書整理型 地域めぐりで案内する市民学芸員

調査など）へとシフトしていくことについては、ほとんどの人が理解を示した。さらに今後行いたい活動について聞いたところ、4人が展示や展示解説を行いたいとの意向であった。一方で解説よりはもっぱら解説、整理をのぞむ声もあった。

古文書の整理を望む声が多かったのは、すでに平成26年10月から、当館寄託資料である大字高山（旧武蔵国秩父郡高山村）の岩田陽一家文書の整理に着手しており、こうした作業を継続したいという意向の現れである。また整理作業には個別の学習という側面もあるので、学習形態の移行についても受け入れられる素地ができていったのではないかと考えられる。岩田家文書の整理作業は、当年12月までの18回で1箱分の

## ○平成27年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

会場：当館学習研究室(ただし14回目は中央地区行政センター)

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	4/9	木	10:00~11:50	4月例会①(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	8
2	4/23	木	10:00~11:50	4月例会②(高山村岩田陽一家文書整理、収蔵品展「おふだ大集合!」展示解説)	10
3	5/14	木	9:20~15:00	地域めぐり④ 旧曲竹・下赤工・上赤工・原市場村巡見	10
4	5/28	木	14:00~16:00	5月例会(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	10
5	6/11	木	10:00~11:45	6月例会①(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	7
6	6/25	木	10:00~11:55	6月例会②(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	9
7	7/9	木	10:00~11:45	7月例会①(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	12
8	7/23	木	10:00~11:55	7月例会②(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	8
9	9/3	木	10:00~11:50	研修会「田安領宝曆箱訴訟騒動について再考察」池田昇氏(元日の出町職員)	11
10	9/10	木	10:00~11:50	自主活動(高山村岩田陽一家文書整理、上井上村大野家文書翻刻)	6
11	10/22	木	10:00~11:50	研修会(特別展「武蔵野鉄道開通」展示解説)	7
12	11/12	木	10:00~11:45	11月例会(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	9
13	12/10	木	10:00~11:55	12月例会(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	11
14	1/14	木	14:00~15:45	1月例会(高山村岩田陽一家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	9
15	2/18	木	10:00~11:30	自主活動(文久3年赤沢村御用留翻刻)	8
16	2/25	木	10:00~11:30	自主活動(文久3年赤沢村御用留翻刻)	6
17	3/10	木	10:00~14:20	地域めぐり⑤ 旧永田村巡見	12
18	3/24	木	10:00~11:50	3月例会(文久3年赤沢村御用留講読、深谷克己『江戸時代』輪読)	9

合計 のべ162人

史料の、中性紙封筒への収納と表題取りなどを終了させた。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐりを2回、研修会として座学を1回行った。当年度は3回の自主活動も含め18回実施し(上表)、のべ162名が参加した。

ところで、岩田陽一家文書の整理が一段落ついた12月に、次年度以降を見据え自主活動の内容を話し合った。その結果翻刻作業を行っていくことで合意を得た。翻刻は、まず各自が希望する地域の史料を優先させることとしたが、それを選ぶことが難しい場合は、当館の方で用意することとなった。そこで、この先実施を検討している吾野地区や原市場地区をテーマにした特別展に向けて、当該地区の史料群の中から選ぶこととした。1月からは再び古文書の講読を開始したが、テキスト

に赤沢村の文久3年御用留(浅見讓二家文書No.32)を選んだのは、それも考慮しての選択である。

なお当年度は、当館の事業の関係から9月と2月に合計3回自主活動を行ったが、これは明確な目的をもって設定したというよりは、やむを得ず自主活動としたいわば「自習」と呼ぶのが適当なものである。

### ◎麦作文化探求型(第Ⅷ期)の活動

「麦作文化探求型」の市民学芸員は、平成26年度に実施した市民学芸員養成講座で初めて養成したものである。講座受講者のうち18人が認定され、平成27年度から活動を開始した。活動の目標として次の3点を掲げている。

- ①伝統的な麦作および加工等にかかる技術を身につけ、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を探究する。
- ③活動や調査の成果を、郷土館の教育事業の中で積極的に活用する。

前年度の市民学芸員養成講座の実務実習として当館西側の敷地の一部を畑に変え、畑の耕作、大麦、小麦の種まき、麦の生育管理などを行った。平成27年度の活動は、これを引き継ぐ形ですすめた。麦作の経験者から未経験者とその技術を学ぶというもので、参加者の中に2人の経験



麦作文化探求型 大麦の刈り取り(6/2)

○平成27年度市民学芸員(麦作文化探求)活動一覧

会場：当館西側畑など

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	4/25	土	13:30~15:10	雑穀作付予定箇所の耕作、防鳥ネット取付準備、サツマイモを植える予定の小麦の間の土寄せ	11
2	5/10	日	13:30~15:50	雑穀の蒔種、さつま苗植え付け、防鳥ネット取付	8
3	6/2	火	15:00~16:30	大麦の刈り取り	9
4	6/6	土	15:00~15:50	小麦の刈り取り	7
5	6/13	土	15:00~16:25	麦の乾燥、雑穀の間引き、サツマへの追肥、大豆の移植	10
6	6/28	日	14:00~16:10	大麦の脱穀	13
7	7/18	土	14:00~16:30	小麦の脱穀	8
8	7/20	月	14:00~16:30	小麦の打刻	8
9	7/29	水	9:00~11:20	畑の草取り、サツマイモのつる返し、雑穀土入れと転倒防止の紐張り、雑穀の防鳥ネット設置	10
10	8/23	日	13:30~15:10	畑の草取り、サツマイモのつる返し、モロコシの刈り取り、ヒエの脱穀、大麦の精麦	12
11	9/5	土	13:30~15:00	大麦の精麦	8
12	9/16	水	13:30~15:30	大麦の精麦、キビの収穫	9
13	9/25	金	13:30~15:30	大麦の精麦	11
14	10/7	水	13:30~17:00	小麦の製粉	10
15	10/17	土	13:30~15:50	雑穀の脱粒、小麦の製粉、大麦の精麦、麦わらの処分準備	11
16	10/23	金	13:30~16:00	サツマイモ・大豆の収穫と畑の整備	9
17	11/11	水	13:30~14:50	大麦の種蒔き、大豆の脱粒	9
18	11/18	水	9:30~11:00	小麦の種蒔き	6
19	12/2	水	13:30~15:00	収穫物の加工方法と今後の予定打合せ、大麦周辺の草取り、カラスにつばまれた小麦の芽の修復、ハトムギ・アワの脱粒	9
20	12/19	土	13:30~14:50	麦踏み(1回目)、大麦の麦こがし	11
21	1/16	土	13:30~15:15	雑穀の調整	9
22	1/31	日	13:30~15:15	麦踏み(2回目)、大麦の精麦	11
23	2/20	土	9:30~11:45	麦の土入れ、大麦の精麦、大豆の製粉、ハトムギの調整、大麦炒り	9
24	3/12	土	13:30~16:00	麦の土入れ、大麦・雑穀の試食	8
25	3/16	水	13:30~16:00	今後の打合せ、サツマイモの苗床づくり	10

合計 のべ236人

者がいたため、その方から指導を受けた。

4月、5月は麦の管理と並行して雑穀の種まき、サツマイモの植え付けとその事前準備を行った。雑穀は市民学芸員養成講座の講師であった増田昭子氏からいただいた種を用い、モロコシ、キビ、アワ、ヒエ、ハトムギを1条ずつ育てた。山間地域ではかつて麦とともに栽培されていたものであり、その栽培法の伝承を意図したものである。また、サツマイモは麦の合間に植えられることが多かったため、これも同様の方法で栽培することとした。

6月には大麦、小麦を刈り取り、脱穀した。脱

穀には千歯扱きや足踏み脱穀機、唐箕など昔ながらの道具を用いた。

7月から9月にかけては畑の管理、雑穀の収穫などを主な作業とし、合間を見て大麦、小麦の精麦をすすめた。

10月にはサツマイモを収穫して畑を整え、11月には大麦、小麦の種まきを行った。

12月以降は麦踏みや土入れなどの生育管理を行うほか、大麦を炒って「麦こがし」にした。この麦こがしは1月から2月に実施している小学3年生の社会科見学対応時の石臼体験に利用している。なお、小麦は10月に石臼で挽いて粉にして保管し、翌年度にはこれを原料としてうどんづくりなどを実施した。

このように、麦作文化探求型市民学芸員の初年度の活動は主として、伝統的な麦作および加工等にかかる技術を身につけ、伝承できるようにすることを中心にすすめた。それは種まきから始まり、生育管理、収穫、調整・加工、最終的には調理して口に入れるまでの工程である。参加者がこれらの技術を確実に身につけ、他者に伝承できるようにするのが当面の課題といえる。



麦食文化探求型 小麦の脱穀(7/18)

## 庶民の暮らしが知りたい！

伊藤美津江さん（第Ⅵ期古文書整理型）



### ○市民学芸員に応募した理由は？

平成14年度に開催された「やさしい古文書講座」に参加し、その後「古文書勉強会」、「古文書同好会」といったサークルで勉強を続けてきました。だいぶくずし字にも慣れてきたので何か郷土館の役に立ちたいと思ったのがきっかけです。ただ、自分はまとめたりするのが得意ではないので、時間はかかりますが翻刻することで貢献したいと思いました。

### ○古文書のおもしろさとは？

学生の頃、農民は自給自足の暮らしをしていると習ったんですが、実際に須田家日記（市指定文化財）を読んでもみると、山の本を売り、酒を買うなど須田家でも多くの物を売ったり買ったりしていることがわかりました。もう1つは、祖母がよく使っていた「コジハン」（小昼飯）という言葉が、須田家日記にも出てきて、自分が育った群馬県の言葉と同じ言葉を、この辺の江戸時代の人が使っていることを知り、興味をもったんです。古文書のおもしろさは、そこから庶民の暮らしがわかることだと思います。実際には難しいかもしれませんが、当時の女性の暮らしぶりを知りたいんです。例えば、昔は毎日洗濯はしていなかったと思いますが、だとしたらどのくらいの頻度でしていたのか、とか。それと、昨年永田地区の巡見を担当し、色々調べたり、地域を回っているいろんな人に聞き取りをしましたが、とにかく高齢者の方が亡くなると、昔のことがどんどんわからなくなってしまう。だから古文書を翻刻して地域の歴史を伝えていくことが大事で、そうすることで地域がバラバラにならず一つにまとまっていくことにつながると思うんです。

### ○市民学芸員の魅力は？

古文書同好会もそうですが、自分の担当のところの読みと意味を発表することになっているので、調べるのが大変です。わからないことがたくさんあってとてもすべて調べきれませんが、いろいろとわかって楽しいです。それと、市民学芸員だと飯能の古文書をいろいろ見ることができるのも魅力ですね。

### ○今の郷土館についてどう思いますか

解説の文字が小さいのでとにかく大きくしてほしいです。それと入口がわかりづらく、開館しているのもわからなくて残念です。市民会館に来た人に遠くからでも郷土館が展示をやっていることを知らせる方法はないでしょうか。展示も一生懸命やっているのでもったいないなあと思います。



市民学芸員（古文書整理型）の活動での伊藤さん

### ○市民学芸員（古文書整理）の今後について

発足以来、中村家文書（矢嵐）、浅見家文書（赤沢）と飯能市内の古文書の講読を行っていて、今年度（平成28年度）はそのほか月1回自主活動があります。自主活動では浅見家文書中の御用留を、それぞれが別の年のものを読んでいるんですが、3ヶ月に1回くらいいいので、興味深い内容があったらお互いに発表できる機会があるといいですね。それをやっていって最後に一覧表にまとめると展示にも活かせると思います。

### 事務局から

古文書学習歴は15年を超え、古文書整理型の市民学芸員の皆さんから頼りにされている伊藤さん。古文書同好会で学習されている時から「郷土館のために何が役に立ちたい」と言われたことが、この古文書整理型の市民学芸員発足につながりました。古文書の魅力は、庶民の暮らしがわかること、と言いながら、一方で古文書を翻刻して地域の歴史を伝えることが地域を一体化させることにつながる、という地域の課題も意識されている視野の広さにも敬服しました。今後さらに多くの古文書に出会って、飯能の庶民の暮らしに触れて下さい！

# 小学3年生とのやり取りが楽しい！

柳戸淳吉さん（第Ⅱ期博学連携型）

## ○市民学芸員に応募した理由は？

元々市内の青木に生まれたんですが、都会へのあこがれから都内へ通勤していたんです。朝早くに家を出て、深夜に帰宅するという毎日でした。地元のつきあいもほとんどしていなかったから、定年になった時に少し地元について勉強してみようかな、と思ったんです。飯能について知らないし学ぶ機会もなかったので、少しは町の発展に寄与して恩返しをしたい、という気持ちもありました。また認知症にならないためにも、社会活動に参加することが大事だと考えたわけです。市民学芸員養成講座も1日ではなく、続けて学ぶ機会があったのでとてもおもしろかったですよ。



## ○市民学芸員の魅力は？

いろいろな人と話ができるのがまず1番。市民学芸員の活動に参加している人は、優秀な人が多く、そういう人との交わりはとても勉強になる。また、研修会などで、飯能の文化や歴史を学ぶことができるだけでなく、地域の素晴らしい風景のほか、市外の博物館施設の見学ができるのも魅力の1つだと思いますよ。

## ○博学連携の市民学芸員としてのやりがいは？

毎年1月から2月にかけて、市内の小学3年生が社会科の見学で来て、その対応をするのが一番ですね(39頁)。小学3年生の児童は、こちらが話をすると喜んでくれる、楽しかったという表情がすぐに現れて直に伝わってくる。私も子どものことが好きだから、丁寧に教えると子どもたちも乗ってきてとても楽しいですよ。家の近くを歩いていると、小学生に「あのときの先生だ」と声をかけられることもあるし、前に一度第一小学校へ呼ばれて話をしたことがあったんですが、それに対し子どもたちから御礼の手紙が来た時はとても嬉しかった。

## ○今の郷土館についてどう思いますか

今の郷土館は魅力がないと思うんです。収蔵庫にある資料をもっと展示すべきでしょう。「今月の一品」(26頁)はとてもよいが、スペースが限られているのが残念ですね。「一品」ではなく、例えば、「稲作の道具」とか「養蚕の道具」などをテーマに、お金をかけることなく市民学芸員で展示をやってみたい。特別展は毎回楽しませてもらっているけど、それ以外の時期にももう少し人が入るようなことをしないとつまらないんじゃないかな。子どもに向けての展示がないのも残念ですね。

## ○まだ市民学芸員のなっていない人に

身近な歴史、文化財、昔の人々の生活、飯能の良い所を学ぶことができ、飯能のことがよくわかります。絵を描ける人、技術のある人、木工の得意な人といった色々な人が参加し、話をしてくれるともっと楽しくなります。市民学芸員の活動を盛り上げて飯能の町をもっと元気にしましょう！



小学3年生の見学で子どもたちに説明する柳戸さん

## 事務局から

平成14年3月の第Ⅱ期市民学芸員養成講座で認定され、現在活動されている方の中では最古参の柳戸さん。養成講座同期の山岸忠義さんと2人で、小学3年生見学のための展示「民家の台所」の、柱や鴨居、棚などのセットを作ってくれました。地元でのわくわく体操指導員、ウォーキング教室のボランティアのほか、東海道、中山道など五街道や沖繩、秩父札所などを歩いたり、百名山に登ったりといろいろなことにチャレンジされているそのパワーに圧倒されました。定年後にとった調理師免許を活かし、毎日の食材探しで買物に行くのが楽しいとか。これからもよろしく願います！

## 社会の発展は地域の歴史や文化から！

子安修二さん（第Ⅷ期麦作文化探求型）



### ○市民学芸員に応募した理由は？

飯能に移り住んでから30年近くになります。勤めていたときは、朝6時に出て夜9時に帰ってくるだけの毎日で、飯能のことを知る機会もなかったんです。定年を迎えて地域のことを知ろうと思って応募しました。元々歴史、特に縄文文化には興味があったし、郷土館の活動に参画したいという気持ちもありました。作物をつくる経験も全くなかったのでそれも動機の一つです。郷土館があることは知っていましたが、身近に感じられなかったのでいいきっかけだと思ったんです。

### ○市民学芸員の魅力は？

とにかく農業の経験が全くなかったので、すべてが新鮮です。また篠宮さんや山川さんなど飯能に生まれ育った人と話す機会はほとんどなかったので、それも地域を知るよい機会となっています。農地の大きさ(9×4mほど)の割に参加人数は多いので、体力的に負担を感じることはありません。石臼で小麦を挽く作業は何日もかかって大変でしたが、それも小麦粉のいい香りが忘れさせてくれました。また、参加しているみなさんはそれぞれ一生懸命だし、他の活動も行っているのいろいろな知識をもって、知らなかったことも教えてもらえる。現在、モニタリング1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）の活動にも参加しているんですが、それも市民学芸員の人から誘われたものです。そこには鳥や植物などに詳しい人がいて毎回とてもおもしろい。

### ○今後の市民学芸員の活動について

麦作文化の方はこれから発信をしていくことになっているんですが、誰を対象にどのように発信していくのかは難しい問題ですね。1つには博学連携でやっているように子どもたちを対象にしたものが考えられますが、子どもたちは道具の名前も知らないし、土作りをすることから始めることも知ってもらう必要があるでしょう。農作業は四季の流れと関わってくるので、飯能の気候、風土に結び付けて伝えられるとよいと思います。それと他の分野の市民学芸員の活動も断片的にはわかっているんですが、全体像がつかめない。年2回ほどでよいから活動報告みたいな機会があるといいですね。必ずしも発表会のような形式ばったものでなくてもいいと思いますよ。

### ○今の郷土館について

活気づけるには多くの人々が来館することが必要ですが、多ければいいというものでもないと思うんです。ただ市外から飯能にやってくる人に来てもらうには、飯能駅から郷土館への道標は不可欠でしょう。また郷土館にムーミンの展示コーナーを作る必要はないが、ムーミンのテーマパークに来た人に飯能の自然を学んでもらうようなことはできるのではないかなと思うんです。

市でもいろいろなことをやっていますが、たとえば古いおひな様がたくさん展示される雛飾り展も、それだけのものを用意できる財を貯えた飯能の町の歴史を知ってもらうことが大事でしょう。こういったイベントは手段としても重要です。ただし市民学芸員の目的は、飯能の歴史、文化、伝統を学び様々な手段を使って発信していくことにあると思います。歴史や文化をおろそかにしたら日本の土台が崩れてしまうような気がするんです。国際社会では郷土を語れない人間は根無し草のように信用されないといいと思いますよ。



小麦の刈り取り作業をする子安さん

### 事務局から

平成27年度から新しく始まった麦作文化探求型の市民学芸員。子安さんはその中でも毎回積極的に参加していただき、力仕事から細かい作業まで黙々とこなしています。他の市民学芸員からも頼りにされる存在です。麦作文化探求型の活動は「麦を育てる」ことから始まりましたが、それをもとに、飯能の気候や風土、飯能の魅力発信にまでつなげて考えていただけていることなど、事務局の考えと合致しているうれしい限りです。多くの仲間と知り合い視野を広げていくこと、これも市民学芸員の重要な役割の一つですので、引き続き、和気あいあいといっしょにやっていきましょう。

博学連携とは、博物館と学校が相互に連携・協力して、子どもの教育にあたる取り組みのことである。近年の少子化の影響もあって学校の利用者数自体は減少しているが、件数自体はそれほど変わりがない。当館の場合、その中心となるのは、小学3年生の社会科学習の見学受け入れであるが、小中学生の社会科学の自由研究を展示する「社会科研究展」も他ではあまり見られない、独自の取り組みの1つである。

そのほか学校への資料の貸出も行っているが、これは「収蔵資料の利用」(44～47頁)に含めた。

## 小学3年生見学対応

当年度は622人の小学3年生が来館!

現行の学習指導要領は、小学校においては平成23年から全面実施されている。このうち、社会科の第3学年の学習内容のうちの1つは、

- (5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。
- ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子
- イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事
- ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例と定められている。

これに対応するものとして、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元が設けられている。それに合わせ、当館では例年1月から2月にかけて「むかしのくらし」展を開催し、市民学芸員とともに下記のプログラムを実施している。このうち、①常設展示見学の中の、「飯能の

たからもの」と西川材(県指定有形民俗文化財「飯能の西川地方関係用具」)の解説がイに、それ以外がアに向けたものと位置づけられる。

また、本事業は平成14年度より市民学芸員中心に行っているが、平成23・24年度版の社会科学副読本『はんのうし』から、この部分が当館の見学プログラムに準拠した形に改められた。

さて、当該年度においては9月19日付で各小学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布し、10月14日から11月11日にかけて当館にて先生方との打合せを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。当館までの移動手段は、市のバス2台を中心に、足りない部分を民間事業者から乗合バスを借り上げて確保している。

当日は、クラスを複数の班に分け、同時並行で行われる3つのプログラムをそれぞれが異なる順序で廻り(1つのプログラムは通常40分)、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

### ○平成27年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択
1	1/15(金)	精明小	1	24	市バス	9:05	11:59	174	11	宝物・紙芝居
2	1/19(火)	加治東小	1	35	市バス・庁用車	9:06	11:47	161	10	宝物・林業
		南高麗小	1	19	市バス	9:05		162		宝物・紙芝居
3	1/21(木)	加治小①	2	72	借上バス2台	9:05	11:55	170	12	宝物・林業
4	1/22(金)	加治小②	1	36	市バス・庁用車	9:03	11:55	172	13	宝物・林業
		原市場小	1	27	市バス・庁用車	9:04		171		宝物・紙芝居
5	1/26(火)	飯能二小	1	9	市バス	9:05	11:45	160	10	宝物・紙芝居
		名栗小	1	8						宝物・紙芝居
6	1/27(水)	富士見小①	1	29	市バス	9:12	12:10	178	12	宝物・紙芝居
		美杉台小①	1	38	借上バス	9:05		185		宝物・林業
7	1/28(木)	富士見小②	2	63	市バス2台・庁用車	9:05	12:07	182	11	宝物・紙芝居
8	1/29(金)	東吾野小	1	9	市バス	9:20	11:50	150	8	宝物・紙芝居
		西川小	1	3						宝物・紙芝居
9	2/2(火)	双柳小	2	69	借上バス2台	8:55	12:00	185	11	宝物・紙芝居
10	2/3(水)	美杉台小②	2	71	借上バス2台	9:04	12:04	180	11	宝物・林業
11	2/4(木)	飯能一小①	2	72	徒歩	9:07	12:05	178	10	宝物・紙芝居
12	2/5(金)	飯能一小②	1	38	徒歩	9:03	12:02	179	10	宝物・紙芝居

合計13校 合計児童数 622人

市民学芸員延べ人数 129人

## 学習プログラム紹介「飯能の宝物」

本プログラムは、市内に存在する3つの重要文化財を紹介するものであり、副読本『はんのうし』の「市の人々のくらしのうつりかわり (2)市につたわるもの」に対応している。

実施にあたっては、文化財の概念や内容など大人にとっても難しい内容を如何にわかりやすく伝えるか、また、まだ歴史を学習していない児童たちに時代や時間の感覚をどのように理解させるかが大きなポイントとなっている。

### ○内容

#### ①導入

本プログラムでは3つの重要文化財について学習することを発表する。その際、「文化財」を「宝物」という語に置き換える。そして重要文化財は「国が決めた特に大事な宝物」であり、何百年も昔に作られ大切に守られてきたものであることを伝える。

★「宝物」という身近な言葉を使うことで、文化財とはどのような物なのかを児童がイメージしやすいようにする。



ロープを使って時代の長さを伝える

#### ②長光寺雲版

児童を雲版(複製)の前に誘導し、形状・年代・所在などの基本情報を問いかけ→答え合わせという形式で確認する。用途についてもヒントを与えながら問いかけ、時を知らせるものとして使われていたことを説明する。そして、なぜ雲版が重要文化財に選ばれたのか、古さ・美しさ・状態の良さに特化して教える。

★用途の説明では、児童にとって身近な存在であるチャイムを引き合いに出したり、木槌を使って実際に叩く動作をしたりして理解を促す。

★重要文化財の選定理由を説明するときは「古い」「きれい」などの直接的かつ簡単な形容詞を使う。また、「(年代・作者の明記されている物の中では)日本で一番古い」というような、児童にすごいと思わせる説明を行う。

#### ③常楽院軍荼利明王立像

児童を軍荼利明王立像の写真の前に誘導し、雲版と同じく問いかけ→答え合わせという形で大きさや年代、材質などの基本事項を確認する。また、彫像の技法についてはパネルを用いて説明する。

そして、「軍荼利」という言葉の意味や、手の形、持ち物について解説し、軍荼利明王が「みんなを病気・事故・火事などの災難から守ってくれる力強い神様」であることを伝える。

★成立年代(約1000年前)を説明する際にはロープを使用している。1年を0.5cmとし、児童の年齢(4.5cm)と仏像の成立年代(5m)のところにカラーテープを貼る。自分の年齢の100倍以上の長さを目にすることで、まだ時代や年代の感覚が無い児童たちも軍荼

### ○小学3年生見学対応プログラム一覧

プログラム名称		内容	場所	時間(分)	備考
① 常設展示見学	ア、飯能のたからもの	国指定重要文化財の長光寺雲版(複製)と軍荼利明王立像(写真)などの解説。	「乱世に生きぬく」(中世)	20	3つのうち2つを選択、20分で交代
	イ、昔の遊びと紙芝居	昔の子どもの遊びの解説と紙芝居屋さんの実演	平地のくらし(民俗)	20	
	ウ、西川林業	西川材(林業)についての解説	山地のくらし(民俗)	20	
②	むかしの道具さがしクイズ	20点の民具を4箇所(5点ずつ)に分けて置き、児童は回りながらそれらすべてを触れたり、観察したりする。その後、その中から洗濯・炊事・勉強・暖房に使う道具をさがすクイズを行う。最後に道具の使い方を説明しながら、答え合わせをする。	学習研修室	40	
③ 体験学習	ア、石臼体験	石臼で米とこがし麦(炒った大麦)を挽いて粉にする体験を行う。	休憩コーナー	20	20分で交代
	イ、昔のアイロン体験	「民家の台所」の板の間で、火のしと炭火アイロンの体験を行う。アイロンの体験を待っている間は、土間にある水場やかまど、昔の農具などの見学や、背負梯子、背負かごの体験をすることができる。	「民家の台所」(特別展示室)	20	

利明王立像がいかに古い物なのかを何となくイメージすることができる。

★軍荼利明王の意味を説明する際は、なるべく仏教の専門用語や難しい語句を使わず、「みんなを守ってくれる」ということが伝わるように話す。

#### ④まとめ

学習ノートを開いてもらい、ワークシートに記入しながら学んだ内容を再確認する。そして最後に、重要文化財は守り伝えていくべき「飯能の宝物」であることを改めて伝える。

※全プログラム終了後、本プログラムを選択した学校には録音した雲版の音色を聞かせている。

#### ○先生の声

- ・時間の感覚がまだきちんと無い子どもたちにとって、ロープで説明してもらったのはわかりやすかった(双柳小学校)。
- ・1000年を表す具体物(ロープ)があったのが良かった(南高麗小学校、飯能第一小学校)。
- ・(雲版について)実物の大きさや実際の音は郷土館でないと体験できないことなので、今回の体験を大切にしたい(西川小学校)。

・教科書とリンクしていてわかりやすかった(原市場小学校)。

・「飯能の宝物」に興味を持った児童が何人もいた(飯能第一小学校)。

・内容的に、もしかしたら少しの事前学習があった方が良いかもしれない(西川小学校)。

学校からのアンケートでは、軍荼利明王立像の成立年代を説明する際に、ロープを使用し視覚的な理解を図ったことに対して高評価をいただいている。

一方で事前学習の必要を訴える学校もあり、児童の理解という点に関しては課題が残る。

また、副読本との関わりについても課題はある。同書では地域に残る古いものを見つけたり、そこに込められている意味や人々の思いを調べたりするという内容になっているにも関わらず、プログラムでは重要文化財の大切さを訴える方に偏りがちな現状があり、両者間に祖語が見られるのである。

今後は学校側の要求や副読本の内容を再確認するとともに、語句や言い回しなどが児童にとって本当にわかりやすいものになっているかどうかを再検討していく必要がある。

### 常設展示室の中は宝物がいっぱい

はんのう市内には、日本の宝物(重要文化財)が3つあります。それを展示室から探してみましょう。

**うんぱん**

ア、何の形に見えますか?  
( かお どうぶつ 雲 木の葉 )

イ、これはお寺でお坊さんが使った道具です。どのように使ったと思いますか?  
( みる たたく かぶる 投げる )

ウ、これは何でできていると思いますか?  
( 木 コンクリート 紙 銅 )



うんぱん  
(大きさ) 縦60cm 横55cm 厚さ1cm  
(重さ) 16kg



使い方

**ぐんだり明王立像**

ア、いつごろ作られたものですか?  
( 10年前 100年前 500年前 1,000年前 )

イ、身長はどれくらいですか?  
( 1m 1m80cm 2m30cm 3m )

ウ、手が何本ありますか?  
( 2本 6本 8本 1,000本 )



ぐんだり明王立像  
この仏像は一本の木でつくられています。



あみだ堂  
(虎秀・福德寺)

→ 『はんのうし』62ページ

# 小中学校社会科研究展

## 1 趣 旨

小中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より行っているのが本事業である。出典された作品のうち優秀な研究に対し、右に掲げた基準に基づき教育長賞、館長賞及び学芸員賞を選んでいる。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることできるようにするため、会期中の金・土曜日には開館時間を午後7時まで延長した。

### ○教育長賞

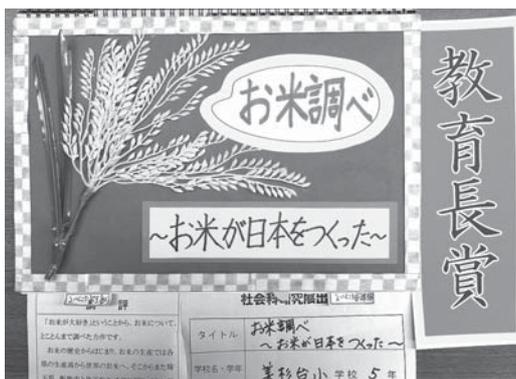
No.	題 名	児童名	学校名	学年
123	お米調べ ～お米が日本をつくった～	鯨井真心	美杉台小学校	5
41	飯能の明治道	森下知慧	美杉台中学校	1

### ○郷土館長賞

No.	題 名	児童名	学校名	学年
8	ぼくのまわりにあった太平洋戦争	森口豪文	飯能第一小学校	4
44	もう一つの原爆	鈴木孝弘	美杉台中学校	3

### ○学芸員賞

No.	題 名	児童名	学校名	学年
75	飯能の水道施設	宮本竜希	富士見小学校	4
94	トマトについて調べよう	平野偉之	加治東小学校	3
24	坂石町分獅子連	高山実女	吾野中学校	3
34	郷土の飯 歴史・文化を語る!	佐藤菜智	飯能西中学校	2



教育長賞「お米調べ」鯨井真心さん(美杉台小5年)

## 2 展示概要

期 間 平成27年9月12日(土)～27日(日)  
 開館日数 14日間  
 入館者数 1,270人(1日平均90.7人)  
 展示点数 小学生131点(136人)  
 中学生 46点(46人)

特別賞の基準は以下のとおり。

- 教育長賞  
例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。
- 館長賞  
学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。
- 学芸員賞
  - ・地域を対象としている
  - ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
  - ・児童、生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
  - ・調査結果がわかりやすくまとめられている
 以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。  
 なお、作品が展示されたすべての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。



教育長賞「飯能の明治道」森下知慧さん(美杉台中1年)

## その他の博学連携事業

出張授業の件数は減少傾向に歯止め、教科学習への食い込みが課題！

「総合的な学習の時間」の授業時間数の削減以降、減少傾向にあった出張授業の数も当年度は前年並みであった。教科学習への出張授業をどのようにして増やすかが大きな課題である。

### ○出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	5/28(木)	第一小学校	5	総合	「一小周辺の古いものさがし」	「伝えよう！飯能の昔発見！」の一環として、飯能第一小学校区の寺社や歴史事象について説明した。	柳戸	103
2	6/4(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	83
3	7/10(金)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	縄文土器の野焼きを体験した。	村上	83
4	8/27(木)	第一小学校	5	総合	「飯能戦争」	飯能戦争の様子を記録した「大炮玉箱」箱書の現代語訳を教材に、飯能戦争について説明した。	尾崎	50
5	9/3(木)	加治小学校	3	総合	「加治の自まをみつけよう」	加治地区のよいところを紹介し、児童に地域を調べようという意欲をもたせた。	村上	109
6	9/17(木)	西川小学校	5・6	総合	「西川小遺跡について」	西川小遺跡から発掘された遺構、土器の話と実物の観察を行った。	柳戸	14
7	11/18(水)	第一小学校	4	社会科	「武蔵野鉄道」	武蔵野鉄道が開通する前の交通の様子と、開通に至るまでの流れを説明した。	尾崎	108

合計 のべ550人

### ○来館しての学習

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	4/22(水)	第一中学校	特別支援学級	総合	「さわろう！かんがえよう！むかしの林業の道具」	西川林業の道具に触れ、その使い方を考えてもらい、その後常設展示室を説明した。	村上	15
2	7/3(金)	南高麗小学校	4	総合	西川林業について	シンボル展示「筏」とその上荷を見せたあと、常設展示室に移動し、昔の林業の様子についてスライドと展示で説明した。さらに西川林業の道具に触れ、観察してもらった。	村上	22
3	10/23(金)	加治小学校	4	総合	特別展「武蔵野鉄道」の見学	開催中の特別展「武蔵野鉄道開通」を1クラスを45分ずつ、さらに1クラスを2つに分けて展示解説を行った。	尾崎 宮島	113
4	12/8(火)	第一小学校	3	社会	西川林業について	常設展示室における昔の西川林業についての説明と、むかしの林業の道具クイズを20分ずつ交代して行った。	尾崎 村上	113

合計 263人

### ○中学生社会体験チャレンジ受入

「社会体験チャレンジ」は、本市の中学1年生が勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をするものである。本人はもちろん、保護者にも当館の役割や学芸員の仕事の内容が伝わることを望むものである。

No.	実施日	学校名	人数	内容
1	12/2(水)～4(金)	飯能西中学校	4	館内外の清掃と小学3年生見学用学習ノート製作など
2	12/8(火)～10(木)	美杉台中学校	2	館内外の清掃と資料(民具)の整理
3	1/20(水)～22(金)	飯能第一中学校	3	小学3年生の見学対応補助や図書室の書籍の確認など

合計 9人

### ○高校生インターンシップ(職場体験学習)受入

実施日	学校名	人数	内容
11/18(水)～20(金)	埼玉県立越生高校(2年)	1	民具の整理、加治村役場文書の再整理など

合計 1人

## 収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

好調な資料利用、昨年度より件数増加！  
手がたい文書の利用、一方で新たな利用者の育成が課題

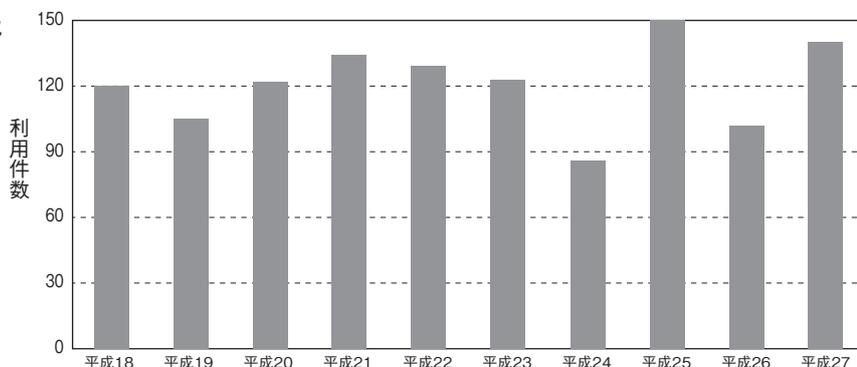
当館の収蔵資料は、当館主催の展示会や講座、学習会などに使われるほか、資料を劣化させない範囲で市民や学習サークルなどの団体に利用してもらっている。平成27年度は139件の利用があった。およそ2日間に1件の割合となる。

収蔵資料の利用点数は、この10年間で見てみると1年平均で121.5件となり、近年はばらつきがあるものの全体としては堅調に推移している。資料を利用できる機関としての評価は定着しているといえるであろう。

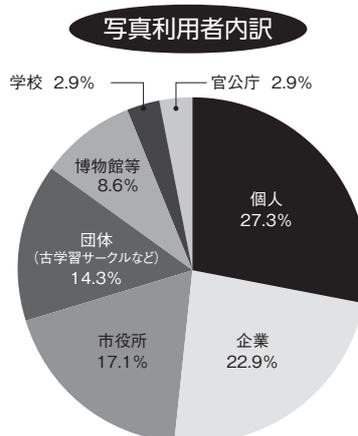
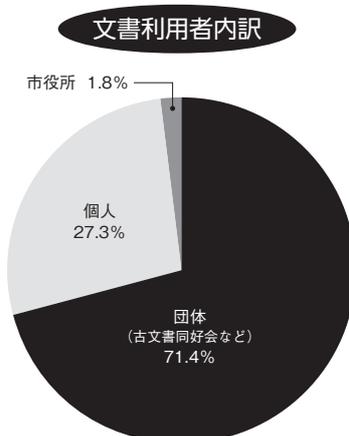
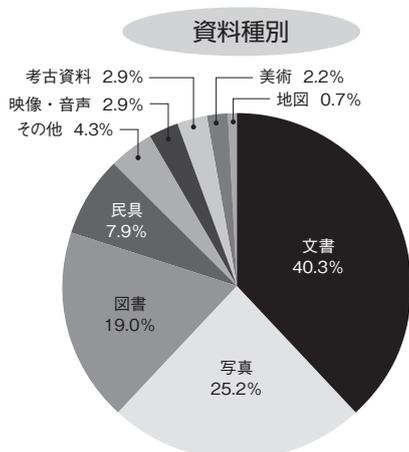
当年度においても最も多く利用されたのが文書で、40.3%を占め、ここ10年間でみても平均的な割合といえる。文書の利用者内訳を見てみると、古文書同好会などの団体が71.4%、個人が26.8%でこの2つに限定されている。次に利用の多い写真資料では、個人31.4%、企業22.9%、市役所17.1%、団体14.3%となっており、文書と比べ利用者が多様な点が対照的である(下図)。

古文書の学習サークルも現在活動しているのは1団体であり、しかも高齢化が進んでいる。地域の歴史学習(研究)の担い手は確実に減少している。収蔵資料が市民にも利用されているという社会的な価値を持ち続けていくためには、市民の地域学習の教材として利用しづらいという先入観を取り除き、単に当館が提供する情報を利用するというだけではなく、主体的に文書を利用できる人材を育成することが喫緊の課題であるといえよう。

○10年間の資料利用件数の推移



○平成27年度の資料利用



## ○平成27年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/3
2	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/4
3	写真「武蔵野鉄道開通式記念(大正4年)」など	7	テレビ朝日	ニュース特集「100年鉄道 西武池袋線」	4/7
4	「振武軍旗」写真	1	個人	『尾高惇忠』刊行	4/10
5	写真「武蔵野鉄道開通式記念(大正4年)」など	7	西武鉄道株式会社	西武鉄道池袋線開通100周年イベント	4/12～7/20
6	『仏像の再発見』	1	個人	研究	4/12～12/2
7	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/15
8	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/18
9	写真「筏流し」など	4	テレビマンユニオン	BS朝日「緑のコトノハ」制作	4/18
10	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	4/22
11	「白澤図」写真	1	個人	白澤・白澤妖怪図の研究	4/25
12	宮沢湖関係資料	1	個人	宮沢湖の調査	4/28～5/6
13	菅原神社石棒	2	個人	石棒比較	4/29
14	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/2
15	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/8
16	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/9
17	市役所広報写真「昭和34年東飯能駅」など	2	高麗川通運(株)	椿本チェーン協会にて発表会使用	5/12
18	写真「東吾野中学校」など	3	飯能ケーブルテレビ	番組制作	5/15
19	羽織など	5	飯能の“みんよう”保存会	「新収蔵品展」協賛事業開催	5/22
20	DVD「飯能地方のうちおり」	1	個人	うちおりの学習のため	5/22～5/30
21	加藤樹家護符「五穀成熟嵐昆虫除霊」	1	個人	研究	5/23
22	図書「おらがまの標準語」	1	個人	学習会	5/26
23	「昔の麦づくり」挿絵「土入れ」ほかデータ	2	長野県松川町資料館	展示キャプション補助資料	5/26
24	2012年平岡レース調査報告書の図、口絵など	5	グループごいっと	コバトン the ムービー用デジタルビデオ作成	5/29
25	写真「飯能駅舎と機関車」	1	グループごいっと	コバトン the ムービー用デジタルビデオ作成	5/30
26	唐箕など	4	飯能のまちなかを元気にする会	「まちなかで麦を育てよう」にて脱穀体験	6/5～6/9
27	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/6
28	写真「昭和42年飯能第一小学校体育館」	1	飯能第一小学校	飯能第一小学校PTA広報誌作成	6/6
29	護符	6	松勇堂	『お犬様の御札』刊行	6/11
30	図書「飯能の石仏」	1	個人(市民学芸員)	市民学芸員現地見学会資料作成	6/11～10/3
31	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/12
32	図書「戦前の鉄鋼を支えた奥武蔵山中の貨物策道」	1	個人	調査	6/12
33	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/27
34	石井トウ家 No.4宝暦2年「武州高麗郡上赤工紙漉元手拝借金証文」など	5	個人	紙の研究	6/28
35	「秩父木炭同業組合事件演説要旨」など	68	個人	研究	6/28～
36	『入間川再発見!』図録	1	個人	複製資料	6/30～7/12
37	ゼンリンの住宅地図	2	個人	自宅の調査	7/2
38	DVD『奥武蔵みんな物語』	1	個人	夏祭りの音源として利用できないか確認	7/2～7/12
39	東吾野村文書「綿油紙売上改帳」など	3	個人	紙の研究	7/5
40	写真「武蔵野鉄道吾野変電所新築落成記念」	1	個人	映像「生きていたレッドアロー号 2015」の中で使用	7/5
41	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/11
42	小槻家文書「参考切帳」など	429	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	7/12
43	写真原版No.324「飯能駅に停車中の機関車と周囲に集まる人々」	1	飯能歌人会	「飯能歌人」第46号発行のため	7/14
44	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/17
45	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/18
46	特別展図録「名菓の歴史」掲載図データなど	15	学習院大学史料館	「名品続々！教科書を彩る学習院コレクション展」開催	7/23
47	テープ『名栗川筏唄』	1	個人	民謡の参考	7/30～8/28

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
48	我野神社「還中舟役手形之事」など	21	個人	飯能の紙についての調査	7/31
49	槍先形尖頭器	1	個人	研究	7/31
50	東吾野村役場「明治42～大正3年 入間郡東吾野統計一覧表」など	17	個人	紙の調査	8/4
51	図書『飯能人物誌』など	2	個人	夏休みの宿題	8/6
52	東吾野村「午租税皆済目録」など	26	個人	紙の調査	8/6
53	名栗地形図データなど	5	自由学園	名栗地区調査の基礎資料	8/7
54	図書『東吾野の生活誌』など	5	個人	自由研究	8/9
55	小槻家文書「参考切本帳」など	429	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	8/9
56	東吾野村「辰御年貢可納割付之事」など	11	個人	紙の調査	8/11
57	原市場公民館文書「未帰郷軍人名簿」	1	個人	旧原市場村の従軍状況調査	8/11
58	東吾野村「昭和17年度生産統計表」など	11	個人	展覧会「飯能の紙」開催	8/14～9/3
59	采沢菊平家文書「奉差上御請書之事」	1	個人	研究(文政改革)	8/16
60	『写真集 飯能市の昭和史』など	3	飯能高等学校環境科学部	飯能高校内を流れる藤田堀の調査・研究	8/20
61	飯能市役所都市計画課「[ムーミン谷建設了承付書状]」	1	飯能市役所子育て支援課	あけぼの子どもの森公園視察説明資料	8/21～8/25
62	小島喜八郎画「草花(黄)」など	2	飯能市役所議会事務局	絵画公開のため	8/22～
63	図録『飯能炎上』データ	1	大村市	大村市史とHPに掲載	8/24
64	「飯能駅のおもいで写真」展使用写真	33	個人	調査	9/5
65	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/12
66	小槻家文書「参考切本帳」など	429	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	9/13
67	「思い出の絵手紙」展示写真	28	個人	思い出のフォト	9/16
68	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/18
69	図書『飯能の民謡』	1	個人	研究	9/19
70	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/26
71	平岡レース食堂棟、事務所棟パネル	4	飯能の文化遺産を活かす会	飯能の建築文化遺産の展示会	9/30～10/6
72	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/3
73	飯能駅のおもいで写真展使用写真(データ)	39	(株)文化新聞社	新聞掲載	10/3
74	森田永雲氏作囃子面	10	飯能市役所市民参加推進課	市民活動センター「飯能まつり展」にて展示	10/7～11/11
75	図書『飯能郷土史』	1	個人	黒田家の研究	10/8
76	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/8
77	飯能駅のおもいで写真展pt4～pt6の写真	23	個人	調査	10/10
78	「坂石町分の景色(昭和6年頃)」	1	飯能市役所市長室秘書広報課	埼玉県広報番組への写真画像の提供	10/16
79	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/16
80	唐箕・ガーコン	4	飯能市役所環境緑水課	はんのう市民会議谷津田の里づくり事業のため	10/17
81	千歯こき	1	加治東保育所	保育	10/22～11/5
82	『飯能市史資料編5 社寺教会』	1	個人(市民学芸員)	永田地区調査	10/22～11/12
83	平沼宏之家文書「譲渡申畑山證文之事」など	6	個人	研究	10/24～11/1
84	小槻家文書「参考切本帳」など	429	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	10/25
85	写真「[明治43年大水による河原町の被害]」	1	八木書店古書出版部	『地域の記録と記憶を問い直す』発行	10/27
86	写真「南川畑井地区氏神様のお祭り」	1	個人	出版物に掲載	10/27
87	写真「[筏の組み立て]」など	8	飯能市役所秘書広報課	西川材の紹介	10/29
88	写真「飯能河原上流での筏流し再現時の筏師」	1	(一社)高麗1300	小冊子「高麗郡歴史ミカド」発行	10/29
89	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	11/6
90	写真「八坂神社(正丸)の笠鉾」	1	個人	書籍発行	11/7
91	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	11/7
92	写真「佐野材木店」	1	活動市民の会	エコツアーの実施	11/7
93	小槻家文書「御通」など	146	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	11/8
94	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	11/13
95	縄文風衣装など	13	自由の森学園高校	エコツアーの際縄文文化の紹介として使用	11/13～11/29

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
96	加藤樹家護符	18	個人	研究	11/14
97	写真「中央通り舗装工事」など	5	飯能市役所下水道課	飯能生活祭で展示	11/15～11/16
98	『材友会報No.6』	1	飯能市エコツアーリズム活動市民の会	エコツアーの開催	11/25
99	写真「飯能駅開通式」	2	飯能市エコツアーリズム活動市民の会	エコツアーの開催	11/28
100	銅鏡	1	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「高麗郡」(仮)開催	12/2
101	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	12/11
102	小槻家文書「御通」など	101	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	12/13
103	図書『坂石町分噺子連百年の歩み』	1	西川小学校	総合的な学習の時間で使用	12/13～12/18
104	『観光埼玉付名妓のしおり』	1	飯能の“みんな”保存会	飯能の芸妓さんの芸の力を調査	12/15
105	羽子板など	4	飯能市市民活動センター	お正月展開催	12/17～1/16
106	「ゼンリン住宅地図 飯能市1967年」など	6	個人	区画整理前の飯能駅前の調査	12/26
107	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	12/26
108	ゼンリン住宅地図	6	個人	飯能市内調査	1/8
109	雛人形(御殿・箱のみ、人形なし)	1	絹甚運営委員会	雛祭り展開催	1/14～3/8
110	東吾野村文書「寛文八年武州入間郡下我野村御縄打水帳」	1	個人	慶長検地帳調査	1/15
111	小槻家文書「賃織物受渡台帳」など	106	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	1/17
112	「ひなまつり」資料ファイル	1	個人(市民学芸員)	絹甚でのひな飾り展の説明のため	1/22～2/5
113	林業関係写真パネル	6	飯能市役所秘書広報課	市長講演「飯能市長 西川材への思い」	1/27～1/29
114	写真「飯能木材(空撮)」	1	個人	店の所在確認	1/28
115	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	1/29
116	くだまき	1	美杉台小学校	「たぬきの糸車」授業教材	1/29～2/4
117	小島喜八郎絵画「草花」など	2	飯能市議会事務局	議場で展示	1/29～(H.29)1/28
118	「槍先形尖頭器」写真	1	個人	第19回石器文化研究会埼玉交流会の発表のため	1/30
119	千歯こきなどの写真データ	2	(株)テレビ朝日	「Qさま!!」番組制作のため	2/1
120	大江文書「横地吉信判物」写真	1	八王子市役所	『新八王子市史』通史編2中世に掲載	2/3
121	大石重仲位牌写真	1	八王子市役所	『新八王子市史』通史編2中世に掲載	2/8～2/29
122	平沼宏之家文書『平沼家之家憲』	1	個人	『地域の記憶と記録を問い直す』コラム執筆	2/10
123	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	2/13
124	「織物月報」	100	織研ねこまた	所沢織物関係調査のため	2/14
125	『収蔵資料目録4中村家文書目録』など	2	矢嵐自治会	水害等過去の発生状況を自治会内に周知	2/14～2/18
126	「浄心寺梵鐘供出陣式」など	3	飯能市役所生涯学習課	「落合西光寺双盤念仏」の映像記録製作	2/15
127	写真「武蔵野鉄道起工式」など	15	東吾野地区行政センター	西武池袋線飯能池袋間開通100周年講座開催	2/16～2/23
128	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	2/19
129	写真「苗木植付」など	2	個人	西川材のPR	2/26
130	レコード「名栗音頭」など	6	飯能の“みんな”保存会	催物で発表する局の音源を紹介	3/4
131	「伝宮寺与七郎着用当世具足」写真	1	八王子市役所	『新八王子市史』通史編2中世に掲載	3/8～3/23
132	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	古文書の学習	3/12
133	「織物月報」	100	織研ねこまた	所沢織物関係調査のため	3/14
134	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	古文書の学習	3/18
135	双木利夫家「慶応二丙寅年東海道助郷御免除願始末諸控」	1	古文書同好会	古文書の学習	3/26
136	写真「岡部運送店新春初荷風景」	1	狭山市産業労働センター	歴史写真展開催	3/27
137	印「ばんてん」	1	飯能の“みんな”保存会	「西川林業を今に伝える民踊」開催	3/27
138	飯能織物協同組合文書「創立総会決議書」など	20	個人	調査研究のため	3/30
139	写真「下名栗小沢の集落」	1	個人	積水ハウス「グランドメゾンgm」発行	(H.28)5/15

## 施設の利用

市民の学習活動の人数はほぼ横ばいだが、利用団体は限定的！  
市民の学習活動のあり方をどう位置づけるかが課題

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成27年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

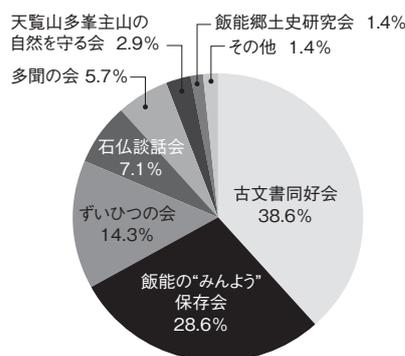
学習研修室の利用の仕方を、以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出（「恒常的活動」）
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学や視察の対応、資料の閲覧（「見学・閲覧」）
- ③市役所内各課の事業での使用（「他団体の主催事業等」）
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員などの交流事業など（「当館の主催事業」）

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

### ○平成27年度学習研修室利用実績

利用種別	平成25(2013)年度		平成26(2014)年度		平成27(2015)年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
①恒常的活動(学習サークル)	92	1,413	67	1,270	70	1,311
②見学・閲覧	16	265	9	199	14	92
③他団体の主催事業等	6	82	10	154	8	177
小計	114	1,760	86	1,623	92	1,580
④当館の主催事業	78	1,371	96	1,373	110	1,915
合計	192	3,131	182	2,996	202	3,495
年間利用日数	173日		203日		174日	



社会教育機関としては、学習サークルによる恒常的な学習活動が多様に展開されることが望ましく、その育成、支援も重要な役割である。当年度の場合、当館を拠点に学習活動を行っている団体は下記の5つであるが、このうち年間の利用回数は、古文書同好会が27回、飯能の“みんよう”保存会が20回と突出して多く、この両団体で2/3を占める。残念ながら多様な学習活動が展開されているとはいえない。

一方で、例えば飯能市エコツーリズム活動市民の会のように、当館を活動の拠点とはしていないものの、説明内容の相談や見学など利用機会の多い団体もあり、市民の地域学習のあり方と当館との関わりが変わってきているようにも思える。また、市民学芸員のように、市民の学習活動の受け皿を当館が事業として用意しているという側面もあり、市民の学習活動のあり方を当館でどのように評価し、位置づけていくかを整理する必要があるだろう。

なお、学習研修室の利用率（日単位）は58.0%で、ここ数年ほぼ横ばいである。

### ○平成27年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月第1・第3土曜日 第2金曜日	飯能市内の古文書の解読と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多間の会 (仏教美術学習会)	23	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
石仏談話会	10	第2土曜日(年数回)	石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ	浅見初枝	平成7(1995)年1月
飯能郷土史研究会	79	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する	坂口和子	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんよう”保存会	26	不定期	民謡をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年

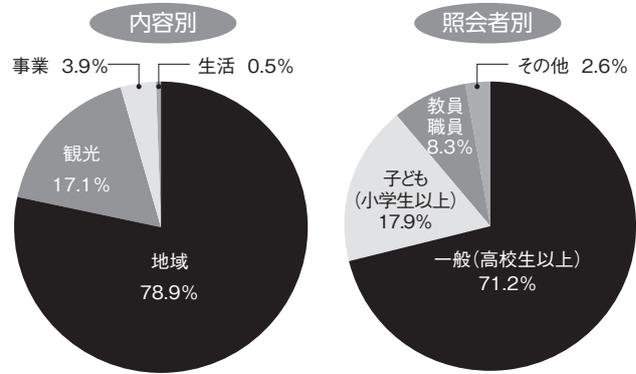
# レファレンスの対応

レファレンス対応件数、前年度比22.5%増加の220件に  
夏休みの宿題相談で8月に集中！

今年度のレファレンス対応件数は、窓口・電話合わせて229件である。そのほか、調査が必要で回答に時間がかかった場合に行っている「レファレンス対応記録票」の件数が31件あるので、実数としては260件であった。

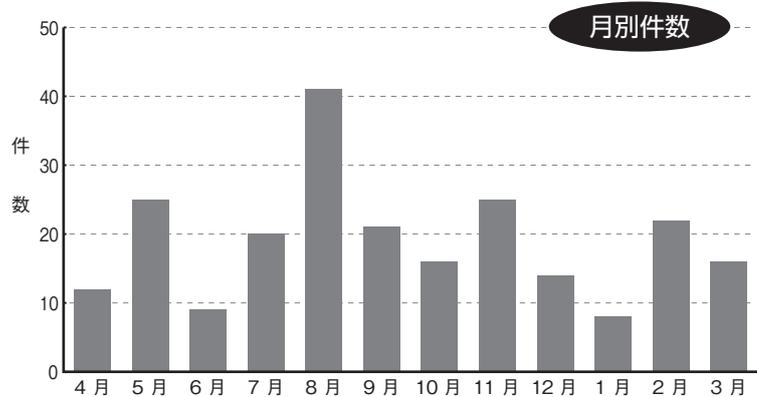
内訳は、窓口が183件、電話が46件で、その比率はほぼ4：1となる。これを合わせた内容、照会者ごとの内訳は、右のグラフの通りである。また、月別に件数を見てみると、8月が41件と月平均19.1件の倍以上と突出している。いうまでもなく、夏休みの課題のために訪れる小・中学生への対応である。窓口での1件あたりの対応時間の平均は6.6分、電話は8.1分であった。対応に要した時間は、年間で見ると合わせて1579分=26時間20分ほどになる。

「レファレンス対応記録票」は、資料にあたり回答した内容が特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためのものである。電子メールでの問合せが前年度より増えて、54.8% (17件) となった。

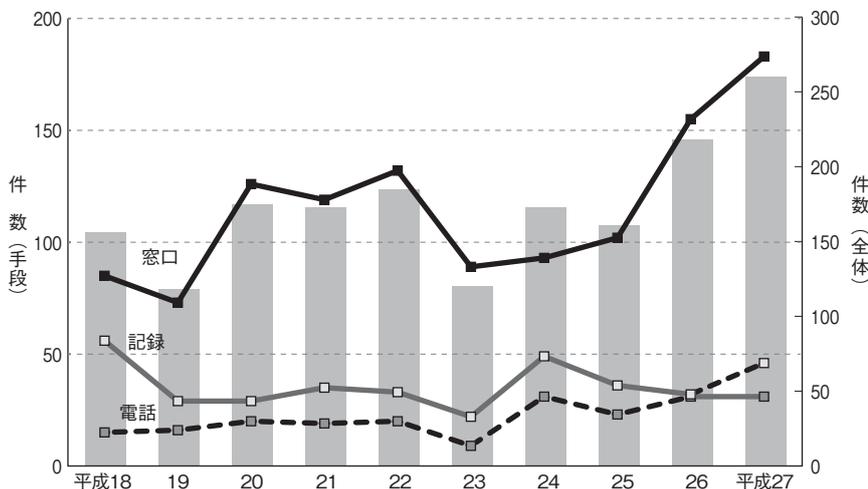


## ○レファレンス対応にかかった時間

	窓 口		電 話	
	平均(分)	最長(分)	平均(分)	最長(分)
平成23	8.5	40	7.3	20
平成24	7.4	40	6.3	15
平成25	6.8	30	5.7	30
平成26	8.4	45	8.8	30
平成27	6.6	20	8.1	25
平均	7.5		7.2	



## ○平成18～27年度レファレンス対応件数の推移



# 講師派遣

講師派遣の件数着実に増加、今年度初めて受講者数が600人を超える

当館には、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼があるが、こういった講師派遣の件数や依頼内容も、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つと考えられる。

下のグラフからわかるとおり、件数は着実に増加している。なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(45頁)に掲載した。



飯能スポーツ少年団「飯能市と高萩市のつながり」(No.8)



## ○平成27年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/2(木)	13:00~15:00	(株)加藤建設工業	出前講座「飯能市の地理と歴史」	新入社員ほか	11	(株)加藤建設工業本社	柳戸
2	4/3(金)	13:00~15:00	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	33	飯能市役所本庁舎5階大会議室	柳戸
3	4/18(土)	15:00~16:10	精明郷土史研究会	出前講座「精明の石塔について」	精明郷土史研究会会員	22	双柳地区行政センター集會室	村上
4	4/26(日)	18:05~18:50	川寺自主防災会	出前講座「加治地区の災害史」	川寺自主防災会会員	38	川寺自治会館	尾崎
5	5/22(金)	9:00~12:00	飯能中央公民館	「飯能を知るウオーク」	講座参加者	5	(現地)	村上
6	6/3(水)	9:45~12:00	名栗公民館	「まちなか歴史探訪」	講座参加者	4	(現地)	柳戸
7	6/20(土)	14:00~16:00	飯能郷土史研究会	特別展「機屋の挑戦-明治から昭和へ、小機工場物語-	飯能郷土史研究会会員	23	市民会館201会議室	村上
8	8/8(土)	9:00~10:00	飯能市教育委員会体育課	「飯能市と高萩のつながり」	飯能市スポーツ少年団団員(6年)	51	市民体育館会議室	宮島
9	8/19(水)	10:00~11:30	飯能第一小学校	職員研修「学区歴史めぐり」	飯能第一小学校職員	23	(現地)	柳戸
10	8/30(日)	9:10~10:00	上直竹上分自治会	「飯能市の土砂災害史」	上直竹上分自治会会員	35	南高麗地区行政センター和室	尾崎
11	9/26(土)	10:00~11:30	東吾野公民館	「縄文時代の食生活」	講座参加者	13	東吾野地区行政センター集會室	柳戸
12	10/3(土)	13:00~17:30	NPO法人 街・建築・文化再生集団	絹物語・シルクロード・ネットワーク in 飯能フォーラム「飯能市における絹産業文化とまちの成り立ち」	フォーラム参加者	100	市民活動センター	柳戸
13	10/24(土)	13:10~15:10	飯能市社会福祉協議会	市民後見人養成講座「飯能の歴史・文化について」	講座参加者	19	総合福祉センター3階大会議室	柳戸
14	11/23(月)	9:00~14:00	原市場公民館 原市場地区まちづくり推進委員会	四季を感じて歩こう会「天空の城」リュウガイ城跡ハイキング	講座参加者	75	(現地)	村上
15	11/25(水)	13:28~14:45	加治東公民館	ふるさと加治講座「加治地区の災害史」	講座参加者	7	加治東地区行政センター第1会議室	尾崎
16	12/14(月)	9:20~10:50	駿河台大学メディア情報学部	博物館実習「小規模博物館の学芸員の現状-飯能市郷土館を例に-	講義受講者	4	駿河台大学実習室	柳戸
17	1/17(日)	10:20~11:35	中山自治会・中山の歴史を知る会	「中山村の歴史」	中山自治会会員	52	中山城会館	尾崎
18	1/23(土)	13:30~15:30	城西大学生涯教育センター	「さきたま学講座⑧ 飯能戦争と彰義隊、振武軍」	講座参加者	36	城西大学清光会館401会議室	尾崎
19	2/17(水)	13:30~14:30	飯能市教育委員会生涯学習課	飯能市郷土館の概要と活動について	社会教育委員	15	当館学習研修室	柳戸
20	2/23(火)	10:00~11:20	東吾野公民館	地域遺産講座「武蔵野鉄道の開通と飯能の発展」	講座参加者	17	東吾野地区行政センター集會室	尾崎
21	3/14(月)	9:50~11:00	美杉台地区行政センター	「前ヶ貫・矢嵐と入間川」	ふれあい前ヶ貫サロン参加者	27	前ヶ貫会館	尾崎
22	3/15(火)	10:00~16:00	飯能市教育委員会生涯学習課	文化財講座「文化財めぐり「高麗郡建郡と飯能」現地案内	講座参加者	39	(現地)	村上

合計のべ人数 649人

当館の資料収集は、そのほとんどが市民からの寄贈によるものである。寄贈の申し出をいただいた場合、その資料を一度実見し、当館の収集方針に照らして受領するかお断りするかを判断している。当年度は51件の寄贈を受けた。

また、本市域の歴史や文化に関わる資史料のうち、特に貴重なものの劣化・散逸を防ぎ、後世に伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当年度は1件の寄託を受け入れ、受託資料は55件となった。受託期間は原則2年間である。

なお平成27年度に購入した資料はなかった。

## 寄贈資料

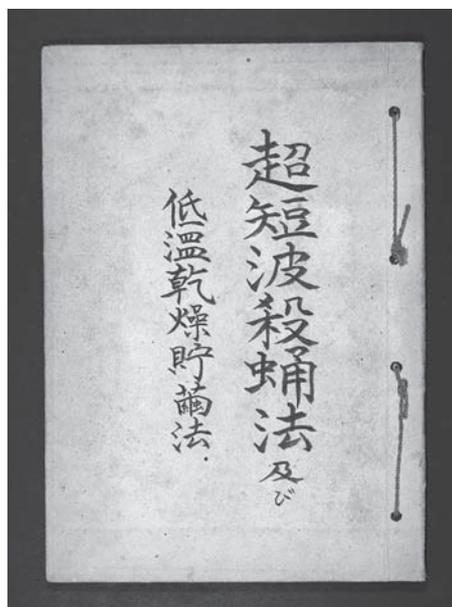
平成27年度に寄贈を受けた資料は、下表の51件である。

### ○平成27年度寄贈資料一覧

(敬称略)

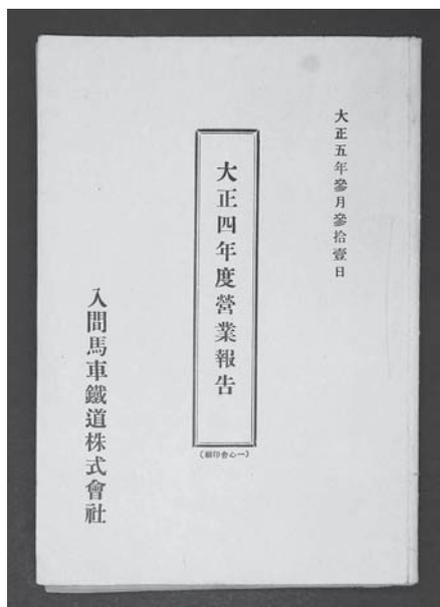
番号	資料名	点数	寄贈者名
1	芦荊場村島山家文書	1 式	天野 ます
2	古文書	1 式	浅見 俊文
3	精明青年団文書	1 箱	双柳地区行政センター
4	雛人形・五月人形・破魔弓など	1 式	島崎 博
5	古文書、石造資料など	1 式	町田 豊年
6	絵葉書「天覧山頂行幸記念碑」など	7 枚	久米 幹男
7	河原町山車写真(紙焼き)など	1 式	奈良 まりみ
8	台紙付写真「[諏訪八幡神社拝殿前にて記念]」など	13 点	清水 尚子
9	たらい、『ふるさと飯能』	3 点	中村 正子
10	天覧山駅跡写真プリントなど	1 式	平沼 定雄
11	若山牧水ご令室色紙など	1 式	(個人)
12	板碑	4 点	岡野 早苗
13	「売上帳一号」	1 点	佐野 敏夫
14	写真「[八高線入間川鉄橋]」など	2 点	(個人)
15	東雲亭「うたの葉」	1 点	柳澤 陽子
16	電話開通御通知(東雲亭)、行衣など	1 式	大矢 京
17	飯能松竹映画劇場招待券、飯能町中央通りミハト商店街高野商店チラシ	2 点	佐藤 美知男
18	蚊帳	1 式	柳澤 陽子
19	大東京全図ほか絵はがきなど	1 式	小高 善吉
20	池袋飯能間開業60周年記念切符など	5 点	佐藤 美知男
21	西武鉄道新車両リーフレット	10 点	西武鉄道株式会社
22	棹秤・分銅(棹秤用)	12 点	高橋 文勝
23	吉田裕美氏所蔵資料	1 式	吉田裕美氏ご遺族
24	リーフレット「武蔵野電車狩猟御案内」など	15 点	野村 正弘
25	第一飯能尋常高等小学校昭和八年度卒業記念写真帖など	2 点	有川 博英
26	『四季の武蔵野』など	2 点	深野 英治
27	『墓地調書』など	2 冊	原市場地区行政センター
28	『超短波殺蛹法及び低温乾燥貯菌法』	1 点	新井 一太
29	写真アルバムなど	1 式	菊池 好太郎
30	「東京飯能間実測線路平図面」など	3 点	小能 啓佑

番号	資料名	点数	寄贈者名
31	綾織	1点	木村 文子
32	加治村全図	1点	小島 満也
33	びく	1点	大久 保登
34	戦争画	4枚	山崎 眞実子
35	リーフレット「秋の西部沿線」	1点	糠信 允
36	「入間馬車鉄道 その開業から終焉までの軌跡」	1点	渡邊 宣一
37	「飯能製材業組合設立之趣旨目的」など	1式	新井 富雄
38	『桑田衡平の物語』	1点	入江 武男
39	『異国船渡来一件記 三上』	1点	権田 恒夫
40	台紙付写真「〔武蔵野鉄道吾野延長線鉄橋工事〕」など	3枚	片岡 眞由美
41	『丹治丹党青木氏のこと』	1点	吉田 靖
42	『島送り伊三五郎』	2点	井上 喜市
43	第六区受検者台帳	1点	朝日 昌子
44	「征矢神社懸幅句合」など	30点	澁谷 真美
45	台紙付写真「〔銃をもつ兵士〕」など	5点	原市場地区行政センター
46	書籍、ふるいなど	1式	町田 富次夫
47	入間馬車鉄道「大正四年度営業報告」	1点	小槻 成克
48	着物(男児)	2点	(個人)
49	島田稔家文書(旧名栗村13区)	293点	島田 稔
50	菓子手記帳など	4点	小高 善吉
51	万石通し・真綿など	5点	吉澤 光



山林種苗組合入間支部文書 (No.20)

蚕糸処理機械(超短波殺蛹機・真空煮繭機)についてまとめられた昭和22(1947)年の貴重なレポート。蚕糸処理機械は新電元工業株式会社(以下「新電元」とする)の前身である、電元工業株式会社が事業拡大のため開発した。しかし蚕糸業界の景気が悪化、開発費用が回収できず電元工業は解体、新電元が設立されたという日くつきのもの。



入間馬車鉄道大正四年度営業報告 (No.47)

明治34(1901)年5月に開通した入間馬車鉄道の報告書で、株主總會の内容、財産目録、貸借対照表、損益計算書、乗客人員数などが記載されている。同社の営業報告は、『狭山市史 近代資料編』に明治44年までのものが転載されているが、当館の収蔵資料にはなく、かつ大正期のものという点でも貴重である。

## 整理(情報化)

2,514点の資料を整理！  
そのうち古文書1,938点を収蔵資料目録7に収録！

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりえない。整理とは、資料についての情報を抽出し博物館資料として利用可能なものとする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。

当館では、民具、古文書（典籍含む）、古写真、絵画、工芸の各分野の資料は、基本的に1点ごとに資料カードを作成している。カードの書式や与えられる資料番号は、資料の種別によって異なり、古文書・典籍を除きカードには資料写真も添付される。そのほか、それを補完するものとして、資料を受け入れた家や組織の歴史、資料の来歴などを記録するカードも備えている。当館は現在も紙媒体の資料カードが基本であり、それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段としている。その他の資料は目録による管理である。

当年度は、民具58点、古文書・典籍2,271点、古写真185点の整理を行った。また、「もの」に付属しない地域の情報（例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報）を組織で共有化し引き継いでいくため、近世村を単位としたフォルダーを作り、これらについての紙ベースの情報をそこに収納するようにしている。

### ○当館収蔵資料の概要と点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含まれる。	5,743
古文書	紙に文字、記号、図像などが記録されている資料、典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	51,537
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	5,849
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃、小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	277
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品や当館の調査や事業の記録映像など	239
音声	レコード及びテープ	956
図書	他の博物館が発行した図録、報告書、要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	16,411
合計		83,252

\*収蔵資料点数は、平成28年3月現在のカード作成もしくは目録登録済の点数。\*前号まで絵画と古美術に分けていたのを「絵画」に、レコードとテープを「音声」にまとめた。

### ●資料整理の概要

#### ①民具

民具の場合、受け入れ台帳へ登録されて資料番号が与えられる。そしてB5判のカードに、資料名・寄贈者氏名・住所・寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報が記録される。

#### ②古文書（典籍含む）

当館の古文書・典籍用の資料カードは、埼玉県立文書館で使用されている書式にならって作成された縦8.3cm、横12.7cmのものである。そ

こにそれが属する史料群名、年代、表題、作成者、宛所、形態、劣化状況などを記し、それを基に目録が作成される。現在、全収蔵史料を網羅する目録のデータはエクセル（マイクロソフト社）で

### ○平成27年度古文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
中藤中郷自治会	648	託	平成19(2007)
鉄道関係史料(購入)	1	新	平成26(2014)
浅見譲二家(赤沢)	807	再	平成6(1994)
山川家(下赤工)	748	再	—
石井茂樹家(原市場)	67	託	平成22(2010)
合計	2271		

※新=新規受入(未整理分) 再=既収蔵の再整理 託=寄託

管理しているが、このデータの大部分は、市史編さん事業の際に作成された仮目録がベースとなっており、記述内容に統一性がなく、文字の読み違いや記入のミスなどが見受けられる。

そこで現在は、マニュアルに沿ってこれらを修正し、内容についての情報や史料の劣化状況についての所見を加え、データベースソフト（マイクロソフト社のアクセス）に入力する作業を行っている。これは、目録刊行の準備作業であるとともに、検索の精度を上げることを目的としている。また、それと並行して適宜、中性紙封筒、中性紙保存箱へ詰め替えも行っている。

## ●資料の保全

### ①日本刀の手入れ

工芸品のうち日本刀は、年に1回油をぬぐって錆、キズなどがないかを確認し、再び油をひく作業を行っている。当年度は12月7日に実施した。

### ②映像資料のメディア変換

前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像のデジタル化（メディア変換）を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行った。利用と保存の両面に配慮し、閲覧用・保存用DVDを別々に作成し、保存用はバックアップ用としてハードディスクにも書き込んだ。

## ●収蔵資料目録7(収蔵文書目録その2)「原市場地区諸家文書」の刊行

当館としては7冊目となる収蔵資料目録は、文書目録としては平成20年度刊行の「武蔵国高麗郡矢廐村中村家文書目録」に続くものである。収録したのは、下の原市場地区の3つの史料群

なお、当該年度は整理した5つの史料群のうち、3つの史料群を収蔵資料目録7に収録した。

### ③古写真

写真資料も②と同様に所蔵者(旧所蔵者)を単位に資料番号を与え、カード(A4判)には所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。平成24年度の所蔵写真資料電子化事業により写真資料検索システムが導入されたが、検索手段である目録自体は文字で表記されているため、画像の内容を文字で表現した際、個人差によるゆらぎが出てしまう点に問題がある。

## ○平成27年度デジタル化映像資料一覧

No.	タイトル	ビデオ種類
1	日本刀のできるまで 刀匠・小沢寿久	VHS
2	「絵馬ができるまで」 小槻政信	VHS
3	我野神社獅子舞	S-VHS
4	飯能の獅子舞(三社・花桐・喜多川・三輪・阿寺・浅間)	S-VHS
5	南川諏訪神社「花桐の獅子舞」	S-VHS
6	飯能市ビデオパッケージ いかだ下り	VHS
7	NHK 筏下り実演 保存版	VHS
8	NHK 関東ネットワーク いかだ復元	S-VHS
9	名栗の林業	VHS
10	軍茶利様「山岳信仰展より帰山」	S-VHS
11	北川地区体育祭	VHS
12	さようなら北川小学校 ～最後の一年間の記録～	VHS
13	第8回及び30回奥武蔵駅伝の記録	VHS
14	小林聡記録シリーズ第1集 飯能駅の変遷	VHS
15	南高麗朝日さんの山伐採搬出 中里吉平	VHS

## ○収蔵資料目録7「原市場地区諸家文書」収録史料群一覧

	旧村名	史料群名	概要	点数
1	赤沢村	浅見譲二家文書	延享4(1747)年に一橋領となった赤沢村で年番名主を務め、材木商のほか酒造、製茶業などを営んでいた家に伝来する史料群。その多くが明治20年代までの史料である。	658
2	上赤工村	山川家文書	近世後期から明治の初めにかけて質屋を営んでいた家であるが、史料の中心となるのは、同家出身で東京帝国大学教授(電気学)となった山川義太郎やその家族に関わるものである。山川家との関係は不明であるが、砥山稼ぎに関わるものと司法省日誌の写など法律関係の文書も含む。	748
3	中藤村中郷	中藤中郷自治会文書	中藤中郷自治会長が引き継いできた史料群。年代は中藤下郷と組合を構成していた明治12年までのものが中心で、内容も戸口・戸籍や年貢・諸税、土地に関するものがほとんどを占める。	502

## 保 存

### ●新収蔵資料の燻蒸

当館では、新規に収集した資料を対象としビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回実施している。場所は荷解室である。

当該年度は6月11日(木)に打ち合わせを行い、16日(火)午前10時から準備・養生作業を行った。そして11時30分から投薬を開始し、18日(木)午前11時30分まで48時間燻蒸処理をし、その後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、有限会社環境技術に委託して行われた。この間、6月16日(火)から20日(土)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、ブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月25日(金)午前9時45分より目張り作

業を行い、午前10時30分から投薬を開始した。4時間燻蒸処理を行い、午後3時から排気を開始し、作業は午後4時30分に終了した。



新収蔵資料の燻蒸準備

### ●当館・名栗村史史料保管室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査50ヶ所(歩行性昆虫トラップ44・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室では、昆虫生息調査10ヶ所(歩行性昆虫トラップ9・飛翔性昆虫トラップ1)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が1ヶ所である。

当該年度は1回目を6月25日(木)から7月14日(火)まで、2回目を9月11日(金)から9月30日(水)までの期間で実施した。1回目の調査では確

認されなかったチャタテムシが一般収蔵庫、整理室、荷解室で、シバンムシが管理室で捕獲された。

管理室のシバンムシは、2回目の調査に入る直前の8月27日(木)に管理室の窓際で発見された。そこで窓際にフェロモントラップを設置したところ多数捕獲されたが、発生源は特定できなかった。その後、2回目の環境調査に入ったが捕獲数は減少し、気温が下がるにつれて見られなくなった。その後春先に至るまで確認されなかったため、誘因された屋外のシバンムシが網戸や窓の隙間から入って来た可能性があると考えた。

また、一般収蔵庫、整理室、荷解室では経過観察を行ったが資料への被害は確認されなかった。

### ●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

当年度は、各所管課で廃棄決定された文書の選

別作業を12月3日(木)から12月18日(金)にかけて実施し、5.5日間で75箱分を収集した。廃棄文書に対する比率は5.2%であった。なお選別した文書は、平成26年10月より旧図書館の地下書庫に保管している。

当館における調査研究活動は、今のところ特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的なものとどまっている。本来なら、中長期的な事業計画の視点、あるいは地域課題の観点から調査・研究のテーマが設定されるべきであり、それを着実に積み重ねていくことが、当館の存在意義を示すことにつながるはずである。

## 特別展に関する調査

平成27年度の特別展「武蔵野鉄道開通」開催のため、以下の箇所で開催を実施した。

(平成26年度)

- 7/4 西武鉄道玉川上水車両基地史料室
- 10/28 同上
- 10/29 西武鉄道横瀬車両基地
- 11/4 西武鉄道玉川上水車両基地史料室
- 11/8 西武鉄道横瀬車両基地(西武トレインフェスタ)

2/13 園田正雄氏宅

3/9 国立公文書館

3/10 東京都公文書館

3/30 国立公文書館

(平成27年度)

4/15 白土貞夫氏宅

6/5 飯能商工会議所

6/9 所沢市生涯学習センター

6/17 埼玉県立文書館

6/18 埼玉県立文書館

6/22 国立公文書館

6/24 東京都公文書館

7/1 岡野正平氏宅

7/2 練馬区立石神井公園ふるさと文化館

7/3 鉄道博物館

7/7 小能啓佑氏宅

7/10 小能啓佑氏宅

7/15 狭山市立博物館

7/25 入間市博物館

7/27 国立公文書館

8/7 西武鉄道玉川上水車両基地史料室

8/13 入間市博物館

8/19 齋藤武司氏宅・所沢市生涯学習センター(所沢市)

8/21 深井君子氏宅・鈴木源太郎氏宅・所沢市立中央図書館(所沢市)

8/29 国立国会図書館・豊島区立郷土資料館

## 古文書詳細調査

当館では、平成16年度から21年度にかけて飯能市教育委員会で行われた古文書所在確認調査を引き継ぎ、その補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して関係史料の調査を行ってきた。

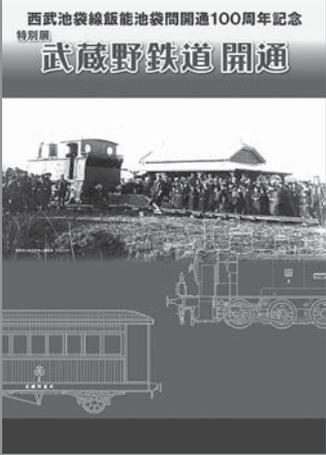
一方で山間地では、人口が減少していく中で、地域の歩みをふりかえり次世代に伝えていくことで、誇りや愛着を育み、コミュニティを活性化していきたいという意向が聞かれるようになってきた。そのきっかけの1つが、名栗村史編さん事業の成果である『名栗の歴史』や『名栗の民俗』の刊行であった。実際平成27年6月には、飯能市自治会連合会吾野支部より旧吾野村の歴史、文化等を

まとめた冊子の刊行を求める要望書が市長宛に提出された。

既に吾野地区に所在する史料については、地方史料調査会と合同で大字坂元(旧武蔵国秩父郡坂元村・柵平)に所在し、当館に寄託されている采澤菊平家の文書調査に着手していたが、当年度は8月15日(土)・16日(日)に実施した。

また、平成25年度より原市場地区の古文書整理にも重点的に取り組んでいるが、前年度に引き続き池田昇氏(元日の出町史編さん担当職員)にお願いし、受託史料である武蔵国高麗郡原市場村石井茂樹家文書及び中藤中郷自治会文書の整理及び内容分析を行った。

## 刊行図書



西武池袋線飯能池袋間開通100周年記念  
特別展  
**武蔵野鉄道開通**

特別展図録  
「武蔵野鉄道開通」  
A 4判56頁  
(平成27年10月11日発行)



飯能市郷土館蔵書目録7 (国史文庫目録その2)  
原市場地区諸家文書目録

2016  
飯能市郷土館

収蔵資料目録7  
(収蔵文書目録その2)  
「原市場地区諸家文書」  
A 4判138頁  
(平成28年3月31日発行)



飯能市郷土館館報  
**郷土館のプロフィール**  
Profile 2014  
第12号  
飯能市郷土館

飯能市郷土館館報  
「郷土館のプロフィール」第12号  
A 4判66頁  
(平成28年3月31日発行)

## 郷土館だより

「郷土館だより」は、当館の事業を市民により広く知ってもらうための広報誌で、平成13年5月1日に創刊され、ほぼ年4回季刊で発行し、自治会で回覧してもらっていた。しかし、自治会への印刷物配

布の依頼を減らすため、平成26年度から「広報はんのう」の中の「生活の森」の枠の中で掲載されることとなった。平成27年度は3回掲載し、内容は下表のとおりである。

### ○平成27年度に発行した郷土館だより

号数	発効日	内 容
第40号 (32・33頁)	平成27年7月1日	夏休みは楽しい事業が盛りだくさん！／収蔵品展「おふだ大集合！」終了／「武蔵野鉄道開通100周年記念特別展」／「掘り起こせ！古代からのメッセージ」／夏休みこども歴史教室「西武池袋線」人間すごろく大会
第40号 (32・33頁)	平成27年11月1日	特別展「武蔵野鉄道開通」(展示の概要と関連事業紹介)
第40号 (32・33頁)	平成28年3月1日	「新年度も様々な展示・催し物がいっぱい！平成28年度の行事予定(予定表と主要な行事の概要)

## ホームページ

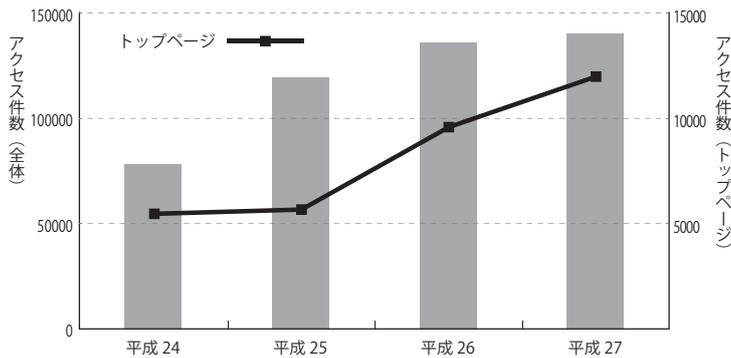
相変わらず人気の高い麦作に関わるページ！  
トップページのアクセス件数は昨年度比25%増

当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始したが、平成24年2月に飯能市のホームページのシステムが変更され、それに伴い内容もリニューアルされた。

各月ごとのアクセス件数は右下表のとおりである。そのうち月ごとのアクセス件数上位5つを表にまとめた。全体的にはこれまでと同様、「麦こがしの作り方」「昔の麦づくり」など麦作にかかわるページが多く見られていることがわかる。また11月に「身近な麦」のアクセス件数が突出して5,000件を超えるという傾向も同じである。

システムが大きく変わった平成25年度以降でも、当館のホームページアクセス件数は着実に増加しており、広報、情報発信手段としての重要性はますます高まってきているといえよう。

### ○平成24～27年度 ホームページアクセス件数推移



### ○平成27年度 ホームページアクセス件数(月別)

月	トップページ 件数	件数 (管理ページ全体)
4月	1013	10,899
5月	990	10,520
6月	720	8,615
7月	928	11,173
8月	979	10,501
9月	916	9,616
10月	1,323	14,045
11月	1,487	19,997
12月	1,102	12,631
1月	725	12,355
2月	899	11,564
3月	848	8,283
合計	11,930	140,199
1ヶ月平均	994.2	11,683.3

### ○平成27年度ホームページアクセス数(件数) 月ごとの上位5

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	ページ	件数	ページ	件数	ページ	件数	ページ	件数	ページ	件数
4月	飯能市郷土館へようこそ	1,013	飯能駅が開業して100年を迎えます！	754	飯能駅構内で「飯能駅のおもいで」写真展開催	598	収蔵品展「おふだ大集合！」	562	麦こがしの作り方	340
5月	飯能市郷土館へようこそ	990	飯能駅や西武線の「絵手紙」「写真」大募集！	437	郷土館日誌	395	収蔵品展「おふだ大集合！」	343	昔の麦づくり	329
6月	飯能市郷土館へようこそ	720	昔の麦づくり	345	飯能駅や西武線の「絵手紙」「写真」募集要項	334	郷土館日誌	317	麦こがしの作り方	308
7月	飯能市郷土館へようこそ	928	「飯能駅や西武線のおもいで絵手紙・写真展」開催！	646	郷土館日誌	329	最新出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージ」	325	麦こがしの作り方	275
8月	飯能市郷土館へようこそ	979	郷土館日誌	369	「飯能駅や西武線のおもいで絵手紙・写真展」開催！	319	麦こがしの作り方	297	展示・催し物のご案内	226
9月	飯能市郷土館へようこそ	916	身近な麦(解説)	295	展示・催し物のご案内	259	麦こがしの作り方	258	飯能駅が開業して100年を迎えます！	247
10月	特別展「武蔵野鉄道開通」	1,538	飯能市郷土館へようこそ	1,323	身近な麦(解説)	602	郷土館日誌	398	飯能駅が開業して100年を迎えました！	376
11月	身近な麦(解説)	5,890	特別展「武蔵野鉄道開通」	1,585	飯能市郷土館へようこそ	1,487	麦こがしの作り方	351	昔の麦づくり	335
12月	身近な麦(解説)	1,828	飯能市郷土館へようこそ	1,102	特別展「武蔵野鉄道開通」	874	郷土館日誌	331	昔の麦づくり	306
1月	小学3年生対応展示「むかしのくらし」(27年度)	838	飯能市郷土館へようこそ	725	昔の麦づくり	436	郷土館日誌	337	身近な麦(解説)	333
2月	飯能市郷土館へようこそ	899	昔の麦づくり	488	昔のあかり(That's 郷土館)	427	ミニ展示「ひなまつり」	330	小学3年生対応展示「むかしのくらし」(27年度)	307
3月	飯能市郷土館へようこそ	848	展示・催し物のご案内	330	麦こがしの作り方	254	郷土館日誌	246	収蔵品展「飯能の西川材関係用具」・「収蔵品展」	180

## ○郷土館日誌

当館で最も力を入れているコンテンツの1つが、郷土館日誌である。学芸員の仕事を知ってもらうこと、当館をより身近に感じてもらうことの二つを目標に、当館の日常を綴っている。

更新頻度は月4回以上(週1回以上)を目標とし、平成27年度は9月(2回)、11月(3回)、2月(3回)を除いて目標を達成した。最も多かったのは5月、7月、8月で、更新回数は6回であった。

左ページのアクセス件数上位表でも12ヶ

月中8ヶ月でトップ5にランクインしていることから、当館ホームページの中でも比較的上位の人気を保っていると言えよう。しかし、アクセス件数で見るといずれも400に届いておらず、今後質・量ともに更なる改善に努めていく必要がある。

### 腰を痛めながらがんばっています(12月10日)



前を見ても後ろを見ても右を見ても左を見ても段ボール箱の山、山、山、、、そして、山。真ん中に座っている館長が埋もれてしまいそうです。

写真は、歴史公文書評価選別作業の様子です。歴史公文書とは歴史的文化的な価値のある公文書等のことであり、市政の記録を後世に伝える、市民共有の大切な財産です。飯能市では、保存期限を迎え、廃棄対象となった公文書の中から毎年当館館長が選別しています。

当市は決して大きな市ではありませんが、それでも全ての課からの廃棄公文書が対象となると大変です。天井近くまで積み上げられた段ボール箱は、もはや一種の芸術のようです。これを持ち上げて移動させるだけでも一苦労です。

公文書の評価選別作業は、重労働かつ責任重大な仕事なのです。

## ○ツイッター

当館では、今年度からツイッターによる広報活動を本格的に始めた。アカウントは飯能市役所の公式ツイッターを共用し、1年間で71件のツイートをを行った。特に、展示前はツイートの

頻度をあげ、情報の発信に努めた。今年度の結果から言えば、目に見える形での広報効果は上がっていないが、情報発信の一ツールとして、今後も活用方法を検討していきたい。

## That's 郷土館

「That's! 郷土館」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、毎回地域の歴史、文化を紹介しているものである。

連載は平成13年5月から始まり、平成27年度末までに15年、175本にもものぼる話を歴代の学芸員が書きつないできた。内容は展示資料や収蔵資料に関すること、地域の特定の歴史事象に関すること、資料の整理や調査で気付いた点など様々であり、当館にとっては身近な話題を発信できる貴重な場といえる。

またこの内容は、平成18年4月分から当館のホームページにも掲載し、より多くの方に読んでもらえるようにしている。平成27年度の掲載内容は表のとおりである。

### ○平成27年度「That's! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当学芸員
4月	飯能駅が開業して100年を迎えます！ ～「材木と織物のまち／飯能」はここから始まった！～	柳戸
5月	「白澤」のおふだ(白澤図)	村上
6月	100年前の一大行事 一大正天皇の『御大礼』	宮島
7月	疎開してきた飛行機工場	宮島
8月	おふだと「神仏分離」	村上
9月	飯能駅の100年	柳戸
10月	博物館実習生が選んだおふだ①…富士浅間神社と南仙寺	村上
11月	(掲載なし)	—
12月	博物館実習生が選んだおふだ②…松木堂の千手観音菩薩御影	村上 中藤
1月	武蔵野鉄道敷設のキーパーソン①阪(坂)本喜一	尾崎
2月	武蔵野鉄道敷設のキーパーソン②…藤田愛助	尾崎
3月	資料調査の現場から「社格」とおふだの年代	村上

## 今年度は、戦没者追悼式でのパネル展示など3件に協力！

平成18年から27年までの飯能市第4次総合振興計画の基本構想では、少子高齢化の進行と総人口の減少、高度情報社会への移行といった社会情勢の変化の中で、都市の魅力を高め活力ある地域経済を確立することが重要とされる。そして本市の「魅力」アップのため、自然や歴史、文化を活用し「住みよいまち」のイメージを作り出し、地域ブランドを創造し、積極的に情報を発信して、若い世代の定住や交流人口の拡大をはかり、企業誘致などにより地域経済の活性化に努める、としている。

こうしたまちづくりの基本概念のもと、市役所内の様々な課所などが事業を行っているが、これらを行うにあたり、当館がもっている地域の歴史・文化情報が注目され始めている。これらの動きはともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながりかねず注意が必要であるが、一方で歴史博物館としての存在意義を庁内で広く認識してもらうまたとない機会ともとらえられる。

以上の視点から、地域の魅力づくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置づけ、積極的に取り組むこととした。平成27年度は以下の3件である。



「つなげよう、支えよう森里川海」ミニフォーラムの展示 (2/27)

### ○平成27年度事業支援実績

	支援先	利用期間	内 容
1	地域・生活福祉課	9/30～10/10	飯能市戦没者追悼式にかかる昭和20年前後の解説付写真パネル (A2判) 12枚の製作。
2	企画調整課	12/14～	国際興業バス内に掲示する市内各地の風景水彩画 (小島喜八郎作) パネル (B3判) 25枚の製作。
3	環境緑水課	2/27	「つなげよう、支えよう森里川海」ミニフォーラム in 飯能で展示する「西川林業と飯能の森林文化」「入間川の筏流し」「重要里地里山に選ばれた天覧山・多峯主山のパネル」(A1判) 11枚の製作。

郷土館協議会は、飯能市郷土館条例第10条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日

## 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	柳澤 陽子	文藝飯能編集・選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委員	山下 利明	飯能第一小学校長	
委員	中川 佳和	吾野中学校長	平成27年3月31日退任
委員	新井 均	吾野中学校長	平成27年4月1日就任
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学教授	

## 【開催状況】

### 第1回 平成27年7月7日(火)

午後2時～4時

(議 事)

協議事項

- ・平成26年度事業報告について
- ・平成27年度事業経過と今後の予定について
- ・特別展「武蔵野鉄道開通」の展示について
- ・郷土館の整備拡充に係る要望書について

### 第2回 平成27年12月1日(火)

午後1時30分～3時30分

(議 事)

協議事項

- ・郷土館の整備拡充に係る要望書の提出結果について
- ・平成27年度事業経過について
- ・平成28年度事業計画について

※終了後、特別展「武蔵野鉄道開通」の展示解説を実施

### 第3回 平成28年3月17日(木)

午後1時30分～3時

(議 事)

協議事項

- ・平成27年度事業経過について
- ・平成28年度事業計画について



郷土館協議会委員に対する特別展展示解説

なお、第1回目の協議を経て、平成27年8月5日付で飯能市郷土館協議会会長柳澤陽子氏から飯能市教育委員会教育長澤田清志宛に「飯能市郷土館の整備拡充に係る要望書」が提出された。内容は別紙のとおりである。(62頁)

## 平成27年8月に出された郷土館協議会からの要望書

平成27年8月5日

飯能市教育委員会  
教育長 澤田 清志 様

飯能市郷土館協議会   
会長 柳澤 陽子  
住所：  
電話：

### 飯能市郷土館の整備拡充に係る要望書

貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

これまで本会では館長の諮問に応じ、館の運営や事業に対し意見を述べて参りました。同時に、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、中・長期的な課題等についても審議を重ねて参りました。このたび、会としての意見が集約できましたので、次の事項について要望いたします。前向きにご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

### 記

#### 1 常設展示の更新

飯能市郷土館は開館して24年が経過し、展示物も老朽化し、展示内容も陳腐化しています(別添1)。一般に博物館の常設展示は15年程度で大規模更新を行うことが望ましいとされていますが、自治体財政が厳しい今日、多くの館が20年程度で更新をしています。

現在の常設展示には四半世紀あまりにわたり蓄積してきた調査・研究の成果が反映されていないため、飯能の歴史とその特性を知ってもらうには不十分と言わざるを得ず、本市の魅力を積極的に発信できません。さらに、旧名栗村と合併して10年が経過していますが、いまだに名栗地区に関する展示がありません。昨年度、名栗くらしの展示室が開館しましたが、飯能市の中で「中央館」となる飯能市郷土館に、特定の地域に関する情報が欠落していることは大きな問題です。また、納税者の中にサービスの格差という認識が生じることも問題といえます。このほかにも、友好都市となっている高萩市とのつながりは、飯能市を先祖伝来の地とした武人「中山氏」を仲立ちとしたものですが、この由来をきちんと紹介する展示が無いことも交流事業を推進する上で、マイナスと言わざるを得ません。

よって、速やかに常設展示更新の計画策定に入り、早期の展示更新を要望します。

また、森林文化都市宣言を行い、自然を活用したエコツーリズムなどを推進する市として、飯能市郷土館の展示に自然分野が抜け落ちていることも問題です。展示更新に当たっては、自然分野の追加を前提に進めていただくようお願いします。

## 2 積極的事業展開に係る職員体制の維持・拡充

埼玉県内の登録博物館は21館で、市町村レベルで登録博物館となっている館はわずか9館に過ぎません（別添2）。その中の1館として文部科学省から認定を受けている飯能市郷土館は誇るべき存在です。登録されているということは、博物館法の下に運営がなされなければなりません。

文部科学省が発した、昭和48年の『「公立博物館の設置及び運営に関する基準」の告示について』では学芸員数を、市町村クラスでは7人としていました。しかし、『博物館の設置及び運営上の望ましい基準（平成23年12月20日文部科学省告示第165号）』（別添3）では、具体的数値は削除されました。この変更は、安易に職員数を減じて良いという意味ではありません。第十三条一項には「博物館に、館長を置くとともに、基本的運営方針に基づき適切に事業を実施するために必要な数の学芸員を置くものとする。」とあるように、複数の学芸員を専門性・業務量を考慮し配置するものと解釈できます。

「飯能市郷土館学芸員の仕事」（別添4）に示したように、教育活動と展示の仕事量が多く、博物館の最も基本的な機能である収集保存、調査研究に割く時間が少なくなっています。地域の情報発信センターとしての機能を充実させればさせるほど、問い合わせ対応や出張講義などの教育活動に割く時間が増加することになります。専任学芸員の増員が最善ではありますが、まずは現有の学芸員（館長を含む）4名体制を今後も維持することを強く要望します。

また、同告示第十三条二項以下には、事務および技能的業務に従事する職員の配置、運営体制の整備についての言及もあります。4名の学芸員体制を維持したうえで、学芸員の事務作業を軽減し、学芸員にしかできない業務に専念させるため、事務職員の常勤職員化をご検討いただくよう要望します。

（添付書類は省略）

# 博物館実習

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の1つとされており、登録博物館又は博物館相当施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。)における実習により修得されるものとされる。文部科学省では平成21年4月の博物館法施行規則の改正を機に「博物館実習のガイドライン」を作成しているが、登録博物館である当館は、これを参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」には、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺の人々に、当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の1つと考えている。

受け入れる学生は原則として、市民とみなされる世帯に属し、博物館学概論の単位を修得していることを応募の条件にしており、実習の前年度末までに申込書を受け付け、4人以内で実習生を決定している。

実施期間 平成27年7月23日(木)～8月5日(水) 12日間

実習生名 阿佐美眺(帝京大学)・大石栞(大東文化大学)・笹木唯花(帝京科学大学)・中藤栄寿(大正大学)

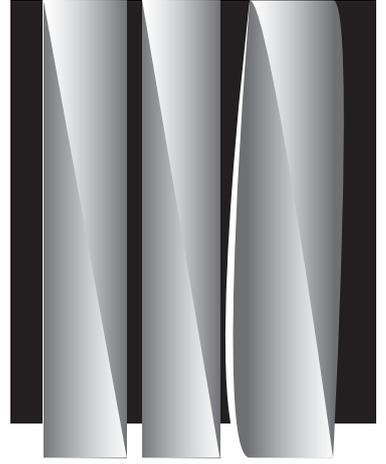
## ○平成27年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月23日	木	オリエンテーション・館内案内(村上)	「竹の水鉄砲であそぼう」準備(宮島)
2	7月24日	金	「竹の水鉄砲であそぼう」運営(宮島)	
3	7月25日	土	「竹の水鉄砲であそぼう」運営(宮島)	
4	7月26日	日	当館の現状について・館内案内(柳戸)	資料(護符)の整理(村上)
5	7月28日	火	資料(護符)の整理(村上)	
6	7月29日	水	「竹の水鉄砲であそぼう」片付け・名栗民俗資料保管庫等見学(村上)	資料(護符)の整理(村上)
7	7月30日	木	資料(護符)の整理(村上)	夏休み子ども歴史教室準備(村上)
8	7月31日	金	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
9	8月1日	土	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
10	8月2日	日	夏休み子ども歴史教室運営(村上)	夏休み子ども歴史教室反省(村上)
11	8月4日	火	資料(護符)の調査と普及・活用について(村上)	実習まとめ(村上)
12	8月5日	水	資料(護符)の調査と普及・活用について(村上)	

( )は指導者名



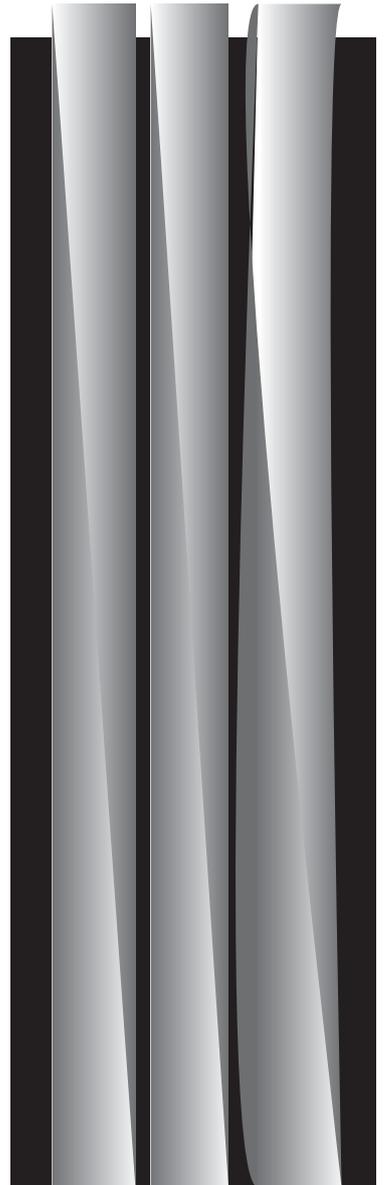
資料(護符)の調査 (8/4)



## 第 3 章

…… Chapter 3 ……

# 【各種データ】



# 利用者数

平成27年度

単位：人(明記したものを除く)

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数						利用者合計 に対する 割合(%)	利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料利用 者数	レファレン ス件数	講師派遣 受講者数	ホームペー ジアクセス 件数	合計		
4	25	2,290	91.6		13	14	104	1,013	1,144	33.3	3,434
5	27	2,322	86.0	103	10	26	5	990	1,134	32.8	3,456
6	20	1,395	69.8	83	11	13	27	720	854	38.0	2,249
7	27	2,790	103.3	83	14	21		928	1,046	27.3	3,836
8	26	2,012	77.4	50	14	45	109	979	1,197	37.3	3,209
9	26	2,002	77.0	123	8	24	13	916	1,084	35.1	3,086
10	27	3,151	116.7		17	18	119	1,323	1,477	31.9	4,628
11	24	4,335	180.6	108	11	31	82	1,487	1,719	28.4	6,054
12	23	2,460	107.0		8	16	4	1,102	1,130	31.5	3,590
1	24	2,459	102.5		11	10	88	725	834	25.3	3,293
2	24	3,108	129.5		10	23	32	899	964	23.7	4,072
3	27	3,193	118.3		9	19	66	848	942	22.8	4,135
合計	300	31,517	105.1	550	136	260	649	11,930	13,525	30.0	45,042

開館(平成2年度)から平成27年度末までの

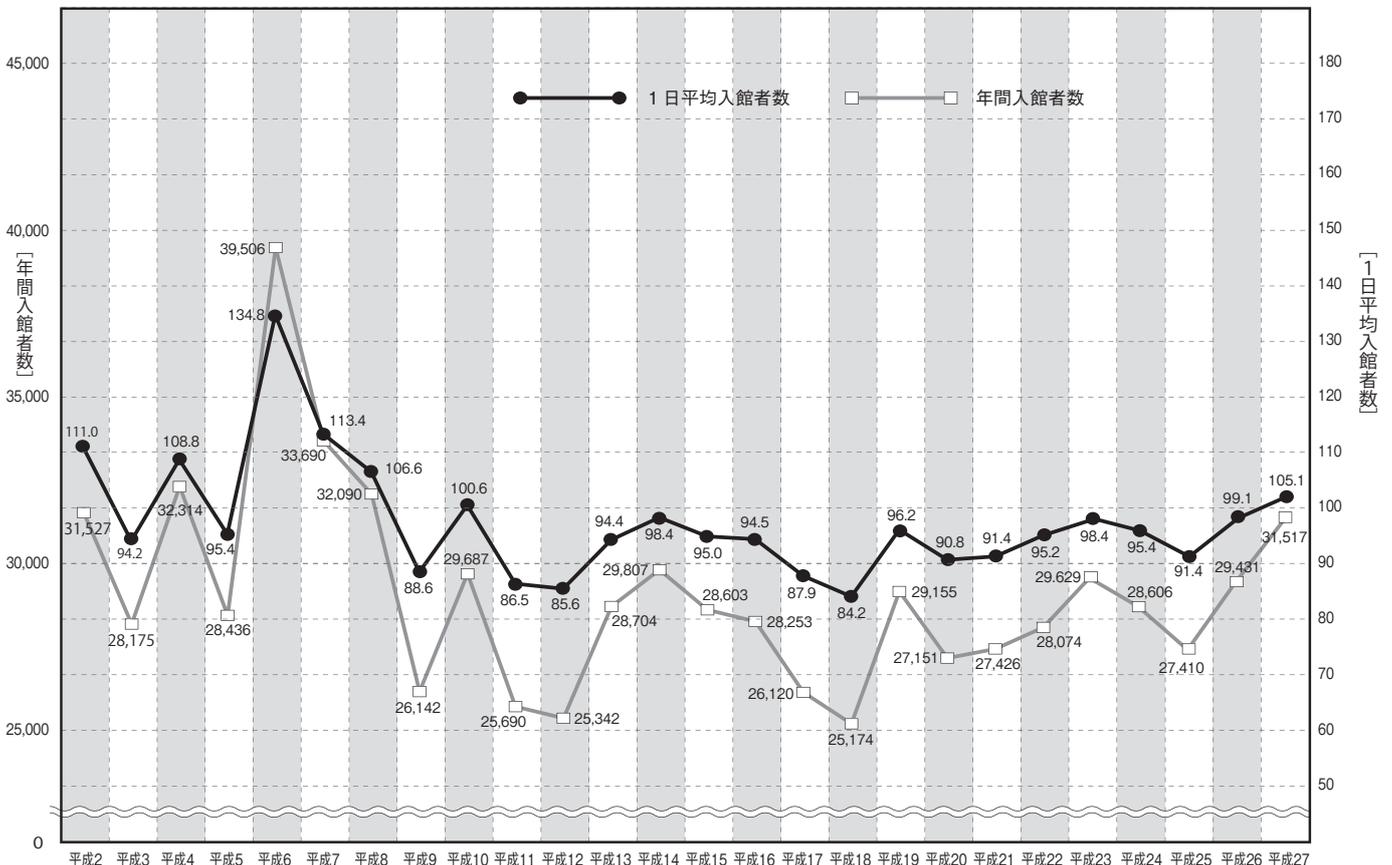
総入館者数 757,659 人

開館日数 7,750 日

1年平均入館者数 29,140.7 人/年

1日平均入館者数 97.8 人/日

## 〈入館者数の推移〉



# 歳出予算・決算

(単位:円)

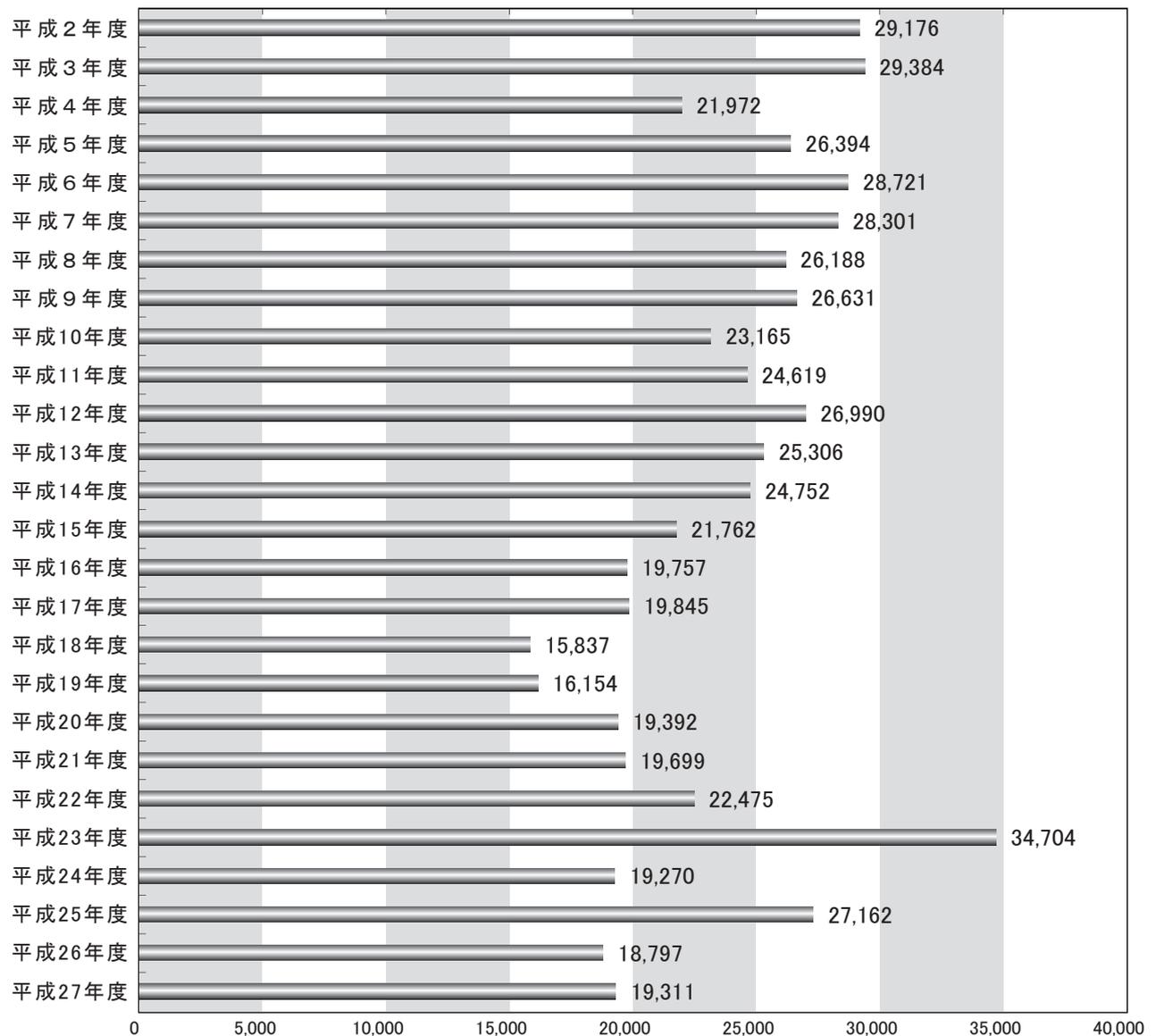
年度	事業名	事業名						郷土館事業費小計	名栗くらしの展示室整備事業	郷土館費合計	A(%)	B(円)	C(円)
		郷土館事務費	展示・学習会開催事業	資料収集・保存事業	調査・研究事業	郷土館施設管理事業	郷土館事業費小計						
25	予算額	3,516,000	3,989,000	4,821,000	225,000	7,351,000	19,902,000	7,260,000	27,162,000	0.10%	332.8	991.0	
		17.7%	20.0%	24.2%	1.1%	36.9%							
	決算額	3,160,359	3,515,183	3,752,644	181,209	6,813,587							17,422,982
	執行率	89.9%	88.1%	77.8%	80.5%	92.7%	87.5%	96.7%	90.0%				
26	予算額	6,588,000	3,667,000	1,732,000	614,000	6,196,000	18,797,000	0	18,797,000	0.07%	231.8	638.7	
		35.0%	19.5%	9.2%	3.3%	33.0%							
	決算額	6,057,869	3,168,223	1,357,802	443,267	5,897,629							16,924,790
	執行率	92.0%	86.4%	78.4%	72.2%	95.2%	90.0%	—	90.0%				
27	予算額	6,340,000	3,700,000	2,007,000	227,000	7,037,000	19,311,000	0	19,311,000	0.07%	239.4	612.7	
		13.9%	17.4%	34.3%	1.3%	33.1%							
	決算額	5,900,271	2,982,157	1,569,098	210,355	6,219,238							16,881,119
	執行率	93.1%	80.6%	78.2%	92.7%	88.4%	87.4%	—	87.4%				

郷土館事業費(人件費除く)の

A: 飯能市一般会計当初予算・決算額に対する割合 B: 市民1人あたり(当該年度の4月1日現在の人口)の金額 C: 入館者1人あたりの金額

## 〈当初予算額の推移〉

単位:千円



## 図書資料寄贈機関

### 埼玉県

上尾市教育委員会  
朝霞市博物館  
伊奈町教育委員会  
入間市教育委員会  
入間市博物館  
入間地区社会科教育研究会  
入間東部地区文化財保護連絡協議会  
奥むさし駅伝競走大会実行委員会  
春日部市教育委員会  
春日部市郷土資料館  
加須市教育委員会  
神川町教育委員会  
川口市立科学館  
川越市遺跡調査会  
川越市教育委員会  
川越市都市計画部交通政策課  
川越市立博物館  
行田市郷土博物館  
久喜市教育委員会  
久喜市立郷土資料館  
熊谷市  
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室  
熊谷市立熊谷図書館  
高麗浪漫学会  
埼玉県  
埼玉県大宮土木事務所  
埼玉県郷土文化会  
埼玉県県民生活部人権推進課  
埼玉県県民生活部文化振興課  
埼玉県平和資料館  
埼玉県立川の博物館  
埼玉県立さきたま史跡の博物館  
埼玉県立自然の博物館  
埼玉県立嵐山史跡の博物館  
埼玉県立歴史と民俗の博物館  
さいたま市  
さいたま市大宮盆栽美術館  
さいたま市立博物館  
さいたま文学館  
埼玉民俗の会  
さいたま民俗文化研究所  
祭礼技術研究所  
坂戸市教育委員会  
サトエ記念21世紀美術館  
狭山古文書勉強会  
白岡市

駿河台大学  
草加市教育委員会  
鶴ヶ島市遺跡調査会  
鉄道博物館  
東部地区文化財担当者会  
ときがわ町教育委員会  
所沢市生涯学習推進センター  
戸田市立郷土博物館  
新座市教育委員会  
日本工業大学工業技術博物館  
羽生市教育委員会  
飯能市租税教育推進協議会  
(飯能市) 精明郷土史研究会  
飯能市企画総務部企画調整課  
飯能市総務部市民税課  
飯能市福祉部子ども家庭課  
飯能市教育委員会  
飯能市吾野公民館  
飯能市立図書館  
日高市教育委員会  
ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館  
ふじみ野市教育委員会  
美里町遺跡調査会  
美里町教育委員会  
宮代町郷土資料館  
三芳町教育委員会  
毛呂山町歴史民俗資料館  
NPO法人野外調査研究所  
八潮市立資料館  
立正大学博物館  
蕨市立歴史民俗資料館

### 東京都

板橋区教育委員会  
板橋区立郷土資料館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
学習院大学史料館  
北区教育委員会  
共和開発(株)  
清瀬市郷土博物館  
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所  
無形文化財遺産部  
小平市教育委員会  
駒澤大学大学院史学会  
財団法人渋沢栄一記念財団  
渋沢史料館  
(株)四門

昭和館  
 杉並区立郷土博物館  
 杉並区立郷土博物館分館  
 住友不動産(株)  
 せたがや子ども文学館「子どもがつなぐ地域と博物館」実行委員会  
 台東区教育委員会  
 台東区教育委員会生涯学習課文化財担当  
 たましん地域文化財団  
 多摩地域史研究会  
 中央区教育委員会  
 調布市郷土博物館  
 東急不動産  
 東京都江戸東京博物館  
 東京都江戸東京博物館都市歴史研究室  
 東京都三多摩公立博物館協議会  
 豊島区  
 西東京市古文書研究会  
 日本ハウジング(株)  
 日本博物館協会  
 日本林業調査会  
 練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
 八王子市  
 八王子市教育委員会  
 八王子市総合政策部市史編さん室  
 パルテノン多摩  
 公益財団法人東日本鉄道文化財団  
 東日本旅客鉄道八王子支社  
 東村山ふるさと歴史館  
 府中市郷土の森博物館  
 文化環境研究所  
 文京ふるさと歴史館  
 町田市教育委員会  
 瑞穂町郷土資料館けやき館  
 港区教育委員会  
 港区立港郷土資料館  
 武蔵大学学芸員課程  
 武蔵村山市教育委員会  
 明治大学  
 明治大学学芸員養成課程  
 明治大学学術・社会連携部博物館事務室

#### その他

稲敷市立歴史民俗資料館  
 岩宿博物館  
 大田原市那須与一伝承館  
 小山市立博物館  
 かすみがうら市郷土資料館  
 神奈川大学日本常民文化研究所  
 かみつけの里博物館

菊川市教育委員会  
 群馬県佐波郡玉村町教育委員会  
 群馬県立歴史博物館  
 国立歴史民俗博物館  
 寒川町  
 下関市立考古博物館  
 白河市歴史民俗資料館  
 石器文化研究会  
 高崎市観音塚考古資料館  
 館林市教育委員会文化振興課  
 田原市教育委員会  
 田原市博物館  
 千葉県文書館  
 土浦市立博物館  
 津山郷土博物館  
 富岡市教育委員会文化財保護課  
 流山市教育委員会  
 流山市立博物館  
 日本郷土かるた研究会  
 野田市郷土博物館  
 平塚市博物館  
 富士吉田市教育委員会  
 勾玉工房Mogi  
 松代文化施設等管理事務所（真田宝物館）  
 松戸市  
 松戸市立博物館  
 横浜開港資料館  
 横浜市歴史博物館  
 横浜歴史資産調査会  
 立命館大学国際平和ミュージアム



学芸研究室の書棚

# 飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は

一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。  
2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(平24条例17・一部改正)

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。  
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。  
〔次のよう〕略

附 則(平成24年条例第7号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。  
(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

# 飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、

利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(次頁)、様式第2・4・7・8号(省略)

様式第1号 (第4条関係)

担当 館長

### 飯能市郷土館施設利用許可申請書

飯能市郷土館長 殿 平成 年 月 日

団体名 \_\_\_\_\_  
住所 \_\_\_\_\_  
申請者 氏名 \_\_\_\_\_  
電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所			
	氏名		電話番号	( )
利用目的				
利用日時	平成 年 月 日 時 分 ~ 月 日 時 分			
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	男 人	女 人	計 人
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品 ( ) 点		
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機	<input type="checkbox"/> ビデオ機器	<input type="checkbox"/> 展示パネル	
	<input type="checkbox"/> 展示ケース	<input type="checkbox"/> 展示台	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他特記事項				

※ □内は、該当するところに✓印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号 (第7条関係)

担当 館長

### 飯能市郷土館資料寄贈申請書

第 号  
平成 年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住所 \_\_\_\_\_  
申請者 氏名 \_\_\_\_\_  
電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記

資料名	数量	備考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号 (第5条関係)

担当 館長

### 飯能市郷土館資料利用許可申請書

(あて先) 飯能市郷土館長 年 月 日

団体名 \_\_\_\_\_  
住所 \_\_\_\_\_  
申請者 氏名 \_\_\_\_\_  
電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり郷土館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで			
利用場所	館内・館外 ( )			
利用方法				
利用資料	分類番号	資料名	数量	備考
輸送方法	館外利用のみ ( )			
利用責任者				
特記事項				

送付日 受領者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号 (第7条関係)

担当 館長

### 飯能市郷土館資料寄託申請書

第 号  
年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住所 \_\_\_\_\_  
申請者 氏名 \_\_\_\_\_  
電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記

寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで		
	資料名	数量	備考

様式第6号 資料寄託申請書

# 職 員

平成27年度

館 長 柳戸 信吾  
 主 幹(学芸員) 尾崎 泰弘  
 主 査(学芸員) 村上 達哉  
 主 事(学芸員) 宮島花陽乃

非常勤 (資料整理・展示準備)

石田 朋子  
 入子美佐子

非常勤 (事務)

加藤 緑

非常勤 (施設管理)

野口 修

## ● 市民学芸員(敬称略)

浅見敏夫	池田勝造	石原紀子	石森実三	板津沙耶香	伊藤孝文	伊藤美津江
宇津木繁生	大木有子	大野さく子	大野正一	久津輪社	功力英雄	神津忠雄
小暮進	小林茂樹	小林豊子	子安修二	子安裕子	坂本利二	佐々木初江
佐藤浩一	篠宮敏次	嶋崎季子	嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子	関根秀俊
遠山光保	富澤武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中野和子	中山功
双木幸三	西久保治子	根立範子	長谷川志保子	馬場朱美	原田恵子	福嶋信子
別府愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義	山崎和永
山田栄子	和島和恵	渡邊栄子	渡邊雅子	渡辺雄一郎	(以上54名)	

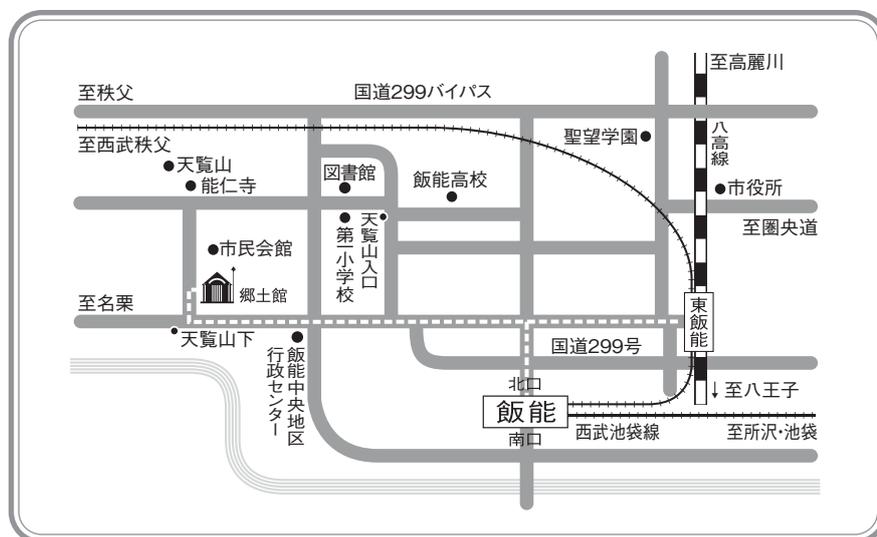


## 利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）  
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

## 交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線飯能駅下車 北口より徒歩約15分  
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き・  
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車



## 飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール

### 第13号

平成29年3月15日発行

発行 飯能市郷土館  
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431  
E-mail: kyodokan@city.hanno.lg.jp  
<http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum>

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ  
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4  
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- |   |         |  |
|---|---------|--|
| 1 | 判 型     | A4判  |
| 2 | 紙 質     | (表紙) マットコート紙 菊判 111 kg<br>(本文) クリームキンマリ 菊判 62.5 kg |
| 3 | 印刷方法    | オフセット印刷1色刷り (本文) 74 ページ                            |
| 4 | 印刷内容    | モノクロ写真 69 枚  |
| 5 | スクリーン線数 | 175 線  |
| 6 | 製 本     | 無線綴じ   |



小さな発見 新たな出会い 大きな喜び  
 飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能 258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431